

72  
377

廣 鳴 控 訴 院 沿 革 略 誌

92-399

例言

一 廣嶋控訴院ハ明治十四年廣嶋控訴裁判所トシテ設置セラレタルニ始メ  
トモ抑二審制度ハ明治五年司法制度ノ改革ニ基クテ以テ筆ヲ其當時ニ起  
シタリ  
一 法令ヲ掲グタルハ制度ノ變遷ヲ叙スルニアルヲ以テ其梗概ニ止メタリ而  
シテ其内容ヲ記スルニ當リテハ直接控訴院ニ關係アル部分ノミヲ摘記セ  
リ

一 民事ト刑事トニ共通ノ事項ハ之ヲ民事ノ部ニ掲ケタリ

明治四十二年三月

明治  
42 3 10  
内交

廣嶋控訴院沿革略誌目次

前紀

構成及ヒ權限

一頁

訟廷

六

民事

八

刑事

九

廣嶋控訴院

構成及ヒ權限

一一

訟廷

三九

御臨幸

四五

職員

目次

一

定員及ヒ俸給	四六
任用ノ規定	六六
分限	七六
任免	八二
賞罰	九五
民事	九六
刑事	一〇二
庶務	一〇六
會計	一二二
廳舎	一四〇
官舎	一四五
試験	一四七

二

懲戒裁判所	一五二
文官普通懲戒委員會	一五五
執達吏及ヒ公證人ニ關スル事項	一五六
執達吏	一五六
公證人	一五九

目次

三

# 廣鳴控訴院沿革略誌

前紀

## 構成及ヒ權限

明治五年八月三日司法制度ヲ改革シ司法省臨時裁判所司法省裁判所出張裁判所府縣裁判所及ヒ出張裁判所ハ即現今所府縣裁判所及ヒ區裁判所ヲ置カル司法省裁判所及ヒ出張裁判所ハ即現今控訴院ニ該ルモノニシテ司法省裁判所ハ之ヲ東京ニ置キ其附近ノ府縣裁判所ヲ管轄セシメ出張裁判所ハ之ヲ地方ニ置キ便宜數個ノ府縣裁判所ヲ併セテ一區畫ト爲シ之ヲ管轄セシメラル其構成及ヒ權限左ノ如シ

### 權限

府縣裁判所ノ民事ノ裁判ニ對スル控訴及ヒ府縣裁判所ノ決シ難キ訴訟ヲ審判ス但シ擬律ニ疑義アルモノ及ヒ死罪ハ司法卿ノ裁決ヲ受ク又司法卿ノ命ヲ受ケ高等官及ヒ華族ノ犯罪ヲ審問ス

職員

所長

司法卿之ヲ兼ヌ

判事

(大中小ニ別チ更ニ之ヲ  
正權ニ別ツ)

解部

(同上)

判事及ヒ解部ハ審判ヲ掌ル

検事

(同上)

検部

(同上)

検事及ヒ検部ハ審判ノ當否ヲ監視シ犯人ノ搜索捕亡ヲ指揮ス

屬

(同上)

判事ノ命ヲ受ケ文案ノ抄寫及ヒ簿書ヲ掌ル

分課

聽訟課

斷獄課

各課ニ課長ヲ置ク

課長ハ判事ヲ以テ之ニ充ツ

醫局

醫員ヲ置キ囚人ノ衛生ヲ監察シ又民事ニ付キ呼出ヲ受ケ出頭セサル者ヲ診檢ス

五年十一月二十八日地方官及ヒ戶長ノ處分ニ服セサル者ハ司法省裁判所又ハ

府縣裁判所ニ訴ヲナスコトヲ許サル

六年十二月五日司法卿ノ所長兼掌ヲ廢セララル

七年一月二十八日檢事職掌章程ヲ定メ檢部ヲ廢セララル

八年五月二十四日更ニ司法制度ヲ改革シ司法省臨時裁判所司法省裁判所及ヒ

出張裁判所ヲ廢シテ大審院ヲ東京ニ上等裁判所ヲ東京大阪長崎福島ノ四ヶ

所ニ置カル大阪上等裁判所ハ大阪京都ノ二府敦賀滋賀石川三重度會奈良和

歌山堺兵庫飾磨岡山北條鳥取豐岡名東高知愛媛小田嶋根濱田廣嶋山口ノ二

十二縣ヲ管轄ス上等裁判所ノ構成及ヒ權限左ノ如シ

權限

前 紀

府縣裁判所ノ民事ノ裁判ニ對スル控訴死罪及ヒ代言人ノ違律ヲ審判ス  
但シ死罪ニ付テハ毎年二回裁判官ヲ所轄府縣ニ派シテ之ヲ審判シ擬律  
ノ上大審院ノ批可ヲ受ケテ之ヲ執行ス  
又府縣裁判所ノ終身懲役罪案ヲ審批ス

職員

所長

勅任判事ヲ以テ之ニ充ツ

判事

(一等乃至七等ニ別ツ)

審判ヲ掌ル

判事補

(一級乃至四級ニ別ツ)

判事ノ指揮ヲ受ケテ控訴ノ下調ヲ爲シ且判事ニ從ヒ巡回裁判ニ列席ス

檢事

(大申少ニ別テ更ニ之ヲ正權ニ別ツ)

犯罪ノ檢案彈告ヲ掌ル

檢事補

(一級乃至四級ニ別ツ)

檢事ノ指揮ヲ受ケテ犯罪ノ檢案彈告ヲ掌ル

屬

(大申少ニ別テ更ニ之ヲ正權ニ別ツ)

判事ノ命ヲ受ケテ抄寫及ヒ簿書ヲ掌ル

審判

審判ハ三人ノ判事列席シテ之ヲ行フ其内ノ一人ヲ課長トス但シ判事其數ニ充タサルトキハ一人ハ判事補ヲ以テ之ヲ補フ

九年九月十三日府縣裁判所ヲ廢シ更ニ地方裁判所ヲ東京京都大阪横濱函館神戸新潟長崎栃木浦和青森一ノ關米澤静岡松本金澤名古屋松江松山高知岩國熊本鹿兒島ノ二十三ヶ所ニ置カル  
岩國裁判所ハ廣嶋山口ノ二縣ヲ管轄セリ改正前山口縣ニハ縣裁判所ノ設アルタルニ廣嶋縣ニハ其設ナカリキ  
又上等裁判所ノ管轄ヲ改メ京都大阪神戸金澤松山高松松江岩國ノ八地方裁判所ヲ大阪上等裁判所ノ管轄ト定メラル

同年十一月八日岩國裁判所ヲ廣嶋ニ移シ廣嶋裁判所ト改稱セララル  
十年二月十九日裁判所ノ制度ヲ改メラル巡回裁判ヲ廢シ死罪ハ地方裁判所ニ於テ之ヲ審問シ証憑及ヒ擬律案ヲ具シテ上等裁判所ニ送付シ上等裁判所ニ

於テ判決ヲナシタル上大審院ノ批可ヲ受ケ原裁判所ヲシテ之ヲ宣告セシムルコトトナリタル外著シキ變更ナシ

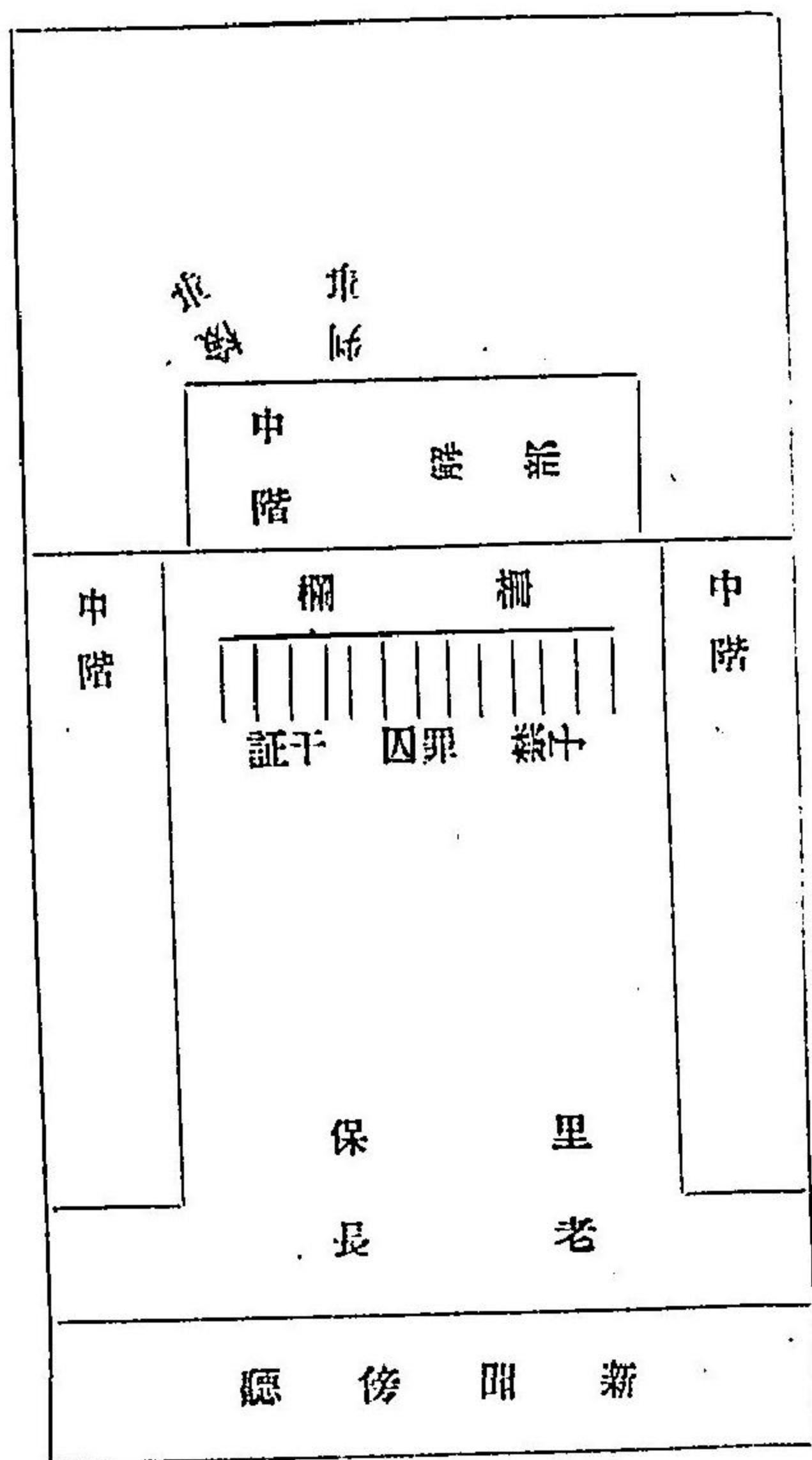
同年六月二十八日一等乃至七等ノ判事一級乃至四級ノ判事補並ニ正權大中少ノ檢事一級乃至四級ノ檢事補ヲ廢シ更ニ判事判事補並ニ檢事長檢事檢事補ヲ置キ又正權大中少屬ヲ廢シ更ニ一等乃至十等ノ屬ヲ置カル  
十二年十二月二十七日檢事長ノ官ヲ廢シ勅任檢事ヲ設ケラル  
十四年十月三十一日屬ヲ廢シ書記ヲ置カル

### 訟廷

明治五年十一月五日正副戸長ニ民事裁判ノ傍聽ヲ許サル  
六年二月二十四日斷獄則中ニ左ノ如ク規定セラル

職員及ヒ訴訟關係人ノ着席位置

訟廷ノ位置ハ左圖ノ如ク右ヲ上トシ判事ノ席ハ柵欄ヲ距ルコト五尺ノ所ニ解部ノ席ハ判事ノ左方中階ニ檢事ノ席ハ斜ニ判事ノ右側ニ設ク



### 傍聽

新聞發行人ノ外擅ニ出入スルヲ許サス但シ戸長等傍聽ヲ請フトキハ之ヲ許ス

七年五月二十日裁判所取締規則ヲ設ケ訟廷ノ秩序ニ關スル事項ヲ規定セラル  
八年二月二十二日人民ニ民事裁判ノ傍聽ヲ許サル



## 民事

八

明治六年四月二十八日郵便ヲ以テ提出セシ訴狀ハ之ヲ燒棄セシメラル  
同年七月十七日訴答文例ヲ定メラル  
七年五月十九日民事控訴略則ヲ設ケ控訴ハ裁判言渡ヨリ三ヶ月内ニ控訴狀ヲ  
府縣裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトト定メラル  
八年五月二十四日民事控訴略則ヲ廢シ控訴上告手續ヲ設ケ民事ニ付テハ控訴  
上告刑事ニ付テハ違警罪死罪ヲ除ク外上告ヲ許シ控訴期間ヲ三ヶ月上告期  
間ヲ民事ハ二ヶ月刑事ハ三日ト定メラル  
同年十二月二十日訴訟用罫紙規則ヲ定メラル  
九年二月二十二日代人規則ヲ定メラル  
十年一月十七日民事ニ付キ裁判所ノ呼出ヲ受ケタルモノ無届ニテ遅參又ハ不  
參シタルトキハ直ニ五錢以上十圓以下ノ罰金ヲ言渡スコトト定メラル  
十年二月十九日控訴上告手續ヲ改正シ上告豫納金ノ制ヲ設ケラル

## 刑事

十四年十二月五日使丁規則ヲ定メラレ書記局ニ使丁取締ヲ設ケ民事ニ關ス  
ル召喚狀其他書類ノ送達ヲ取扱ハシムルコトトナル  
明治六年二月二十四日斷獄則ヲ頒布シ審問ノ順序、裁判官ノ回避、傍聽ノ制限、共  
犯者ノ管轄、刑具ノ種類等ヲ規定セラル當時尙重罪ノ審問ニハ訊杖、算盤板等  
ノ刑具ヲ使用スルヲ許サレタリ  
同年六月十三日改定律例ヲ頒布セラル死刑ニ絞斬梟ノ三種アリ又華士族、官吏  
僧侶ニ對シテハ特ニ寛大ノ處置ヲ爲スノ制アリ  
九年六月十日罪ヲ斷スルニ口供結案ニ依ルノ制ヲ改メ總テ證據ニ依ラシメラ  
ル  
十二年一月四日梟首ノ刑ヲ廢シ罪之ニ該ルモノハ斬ニ處セラル  
同年十月八日拷訊ニ關スル法令ヲ廢止セラル  
十三年七月十七日刑法及ヒ治罪法ヲ頒布シ十五年一月一日ヨリ實施セラル大

ニ刑事ノ制度ヲ革メ始メテ刑事ニ付テモ重罪ヲ除ク外控訴ヲ許シ又斬首ノ刑ヲ廢セラレ

十四年十二月二日裁判所々屬代理人規則ヲ定メラレ治罪法ニ所謂所屬代理人ハ裁判所々在地ニ住スル代理人ヲ以テ之ニ充テ裁判所職權ヲ以テ選任シタル代理人ハ正當ノ事由ヲ証明スルニアラサレハ辭スルコトヲ得サラシメ其謝金ハ訴訟關係人ヲシテ之ヲ負擔セシムルコト、ナル

同月十九日刑法附則ヲ定メラル

同月二十八日刑事ノ控訴ハ姑ク實施ヲ停メラル

## 廣嶋控訴院

### 構成及ヒ權限

明治十四年十月六日上等裁判所ヲ控訴裁判所地方裁判所ヲ始審裁判所區裁判所ヲ治安裁判所ト改稱シ裁判所ノ位置及ヒ管轄區域ヲ改正シ十五年一月一日ヨリ實施セラレ布告第五三號第七六號此時始メテ廣嶋控訴裁判所ヲ置カル其管轄區域左ノ如シ

控 嶋 廣		控訴		
山	尾	始	廣	
口	道	審	嶋	
岩	山	治	三	廣
國	口	安	次	嶋
山口縣		府	廣	廣
		縣	嶋	嶋
周	備	國	安	藝
防	後	名	藝	
熊	御	區	高	廣
毛	調		田	嶋
大	甲	郡	沼	區
島	奴		田	沼
玖	三	安	豐	田
珂	上	藝	田	安
	三	佐		伯
	次	伯		山
	惠	縣		縣
	蘇			
	品			
	治			

構成及ヒ權限

所		判		裁		訴	
西	島	米	濱	松		萩	赤間關
郷	取	子	田	江	江		
西	島	米	濱	今	松		
郷	取	子	田	市	江		
島根縣	鳥取縣	鳥取縣	島根縣	島根縣			
隱岐	因幡	伯耆	石見	出雲		長門	
全國四郡	全國八郡	全國六郡	全國六郡	神門	大原 仁多	大津 阿武	赤間關區 厚狹 豐浦
				出雲	意宇 能義	見嶋	
				楯縫	秋鹿	島根	
				飯石			

民事裁判所ノ構成及ヒ權限ハ明治十年二月ノ改革以來變更ナシ即前紀ノ部ニ記述セルカ如シ

刑事裁判所ハ治罪法ニ依リ違警罪裁判所輕罪裁判所控訴裁判所重罪裁判所大審院高等法院ノ六種ニ分タル控訴裁判所ノ構成及ヒ權限左ノ如シ

權限

輕罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ審判ス

構成

刑事局ヲ置キ判事ハ裁判所長其裁判所判事數名ニ之ヲ命ス  
刑事局檢察官ノ職務ハ其裁判所ノ檢事長又ハ檢事長ノ指名シタル檢事  
之ヲ行ヒ書記ノ職務ハ其裁判所ノ書記之ヲ行フ

審判ハ裁判所長一名陪席判事二名並ニ檢察官書記列席シテ之ヲ行フ  
重罪裁判所ハ三ヶ月毎ニ控訴裁判所又ハ始審裁判所ニ於テ之ヲ開ク其構成  
及ヒ權限左ノ如シ

權限

其管轄地内ニ於テ犯シタル重罪ヲ審判ス

構成

裁判所長ハ控訴裁判所長其判事中ヨリ之ヲ命ス陪席判事ハ控訴裁判所ニ  
開クキハ其裁判所判事中ヨリ之ヲ命シ始審裁判所ニ開クキハ其裁判所  
長又ハ先任判事ヲ以テ之ニ充ツ十六年一月布告第三號ニ依リ當分ノ內始審裁判所ニ開  
場合ハ始審裁判所長ヲ以テ裁判所長ト爲スコトヲ得

構成及ヒ權限

檢察官ノ職務ハ控訴裁判所檢察長又ハ其指名シタル檢事之ヲ行フ  
 書記ノ職務ハ重罪裁判所ヲ開クヘキ裁判所ノ書記之ヲ行フ  
 審判ハ裁判長一名陪席判事二名並ニ檢察官書記列席シテ之ヲ行フ

同年十二月二十八日西郷始審裁判所ヲ廢シ其管轄ヲ松江始審裁判所ニ合併セ  
 ラル十四年十二月布告第七六號

當裁判所管內ニ於ケル重罪裁判所ノ管轄區畫左ノ如シ十四年十二月布告第七八號

重罪裁判所名	管轄區畫	重罪裁判所ヲ開ク裁判所
廣嶋	廣嶋尾道兩始審裁判所管轄ノ地方	廣嶋控訴裁判所
山口	山口始審裁判所管轄ノ地方	山口始審裁判所
島根	松江濱田兩始審裁判所管轄ノ地方	松江始審裁判所
鳥取	鳥取米子兩始審裁判所管轄ノ地方	鳥取始審裁判所

十六年一月十日裁判所位置及ヒ管轄區畫ヲ改正シ始審裁判所支廳ヲ置カル當  
 裁判所ノ管轄ニ屬スルモノ左ノ如シ布告第二號

控訴	始審	治安	府縣	國名	區郡名	
廣嶋	廣嶋	廣嶋	廣嶋縣	安藝	廣嶋區 沼田 安藝 佐伯 山縣	
尾道	尾道	尾道	廣嶋縣	備後	高田 三原 奴可 三上 三次 惠蘇	
山口	山口	山口	山口縣	備前	御調 甲奴 世羅 深津 品治 沼隈	
岩國	岩國	岩國	山口縣	美濃	都濃 佐波 吉敷	
赤間關	赤間關	赤間關	山口縣	周防	熊毛 大島 玖珂	
萩	萩	萩	山口縣	長門	赤間關區 厚狹 豐浦	
松江	松江	松江	島根縣	出雲	大津 阿武 見島	
今市	今市	今市	島根縣	出雲	大原 意宇 能義 秋鹿 島根 仁多	
濱田	濱田	濱田	島根縣	石見	神門 出雲 楯縫 飯石	
西郷	西郷	西郷	島根縣	石見	安濃	那賀 邑智 邇摩 美濃 鹿足
西郷	西郷	西郷	島根縣	隱岐	全國四郡	

所		鳥取		鳥取縣		因幡	
米子	鳥取	米子	鳥取	伯耆	全八郡	河村久米	
				汗入	會見	八橋	日野

一六

十六年六月四日山口始審裁判所管内ニ赤間關支廳ヲ置カル布告第 二〇號  
 同年九月七日重罪裁判所ノ管轄ヲ改メ各始審裁判所ノ管内ヲ以テ其管轄區畫  
 ト定メラル而シテ裁判所ノ名稱ハ其地名ヲ冠シテ某重罪裁判所ト稱スルコ  
 ト、ナル布告第 三三號

同年十二月二十七日控訴裁判所ヲシテ農商務省管船局ノ審判ニ對スル海員ノ  
 上訴ヲ管轄セシメラル

十八年十月十二日鳥取始審裁判所管内ニ倉吉治安裁判所ヲ置キ伯耆國河村、久  
 米、八橋ノ三郡ヲ管轄セシメラル布告第 三二號  
 十九年五月四日裁判所官制ヲ改メ控訴裁判所ヲ控訴院ト改稱シ大審院長監督  
 ノ下ニ置カル其構成左ノ如シ勅令第 四〇號

職員

院長

勅任一等又ハ二等

其院及ヒ所轄裁判所ヲ監督ス

評定官

奏任一等乃至四等

檢察長

奏任一等

其局所轄ノ事務ヲ掌理シ其局及ヒ所轄ノ檢察官及ヒ司法警察官ヲ指  
 揮ス

檢事

奏任二等乃至四等

書記官

奏任四等

書記ヲ監督シテ覽書記録、會計ノ事務ヲ掌ル

書記

判任

記録、會計ニ從事ス

分課

民事局

刑事局

構成及ヒ權限

一七

院長ヲシテ一局ノ長ヲ兼テシメ自餘ノ局長ハ上席評定官ヲシテ之ヲ兼テシム

局長ハ其局所掌ニ係ル裁判事務ヲ指揮ス

局中ノ分課ハ一週年毎ニ院長ノ上申ニ從ヒ事件ノ種類又ハ土地ノ區域ニ應シテ大審院長之ヲ定ム

審判ハ主任局長會合セ裁判官三名列席シテ之ヲ行フ

檢事局

管轄ハ所在裁判所ノ管轄區域ニ依ル

檢察官ハ其職務上其所在裁判所ニ從屬セサルモノトス

裁判所ノ休暇

裁判所ノ休暇ハ七月十一日ニ始マリ九月十日ニ終ル

休暇中ハ刑事及ヒ急速ヲ要スル民事々件ノ外取扱ハス

裁判上ノ補助

治安裁判所及ヒ始審裁判所ハ裁判上ノ處分ニ關シ補助ノ囑託ニ應ス

裁判ノ評議

評議ハ公行セス各判事意見ヲ述ブル順序ハ任官ノ前後ニ依リ后任裁判官ヲ始メトシ局長ヲ終トス任官ノ日同シキモノハ年少者ヲ始トシ專任ヲ命シタル事件ニ付テハ專任裁判官ヲ始トス

二十年十二月二十一日裁判所官制中ヲ改正セラル檢事長ヲ勅任二等又ハ奏任

一等ト改メラレタル外舊制ト大差ナシ勅令第 六二號

二十一年九月十五日治安裁判所出張所ヲ置キ登記事務并ニ定期ノ裁判事務ヲ

取扱ハシメラル勅令第 六四號

二十二年二月十一日憲法中ニ左ノ如ク規定セラル

司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スル虞アルキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

構成及ヒ權限

行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニアラス

同日衆議院議員選舉法中ニ當選ヲ失ヒタル者ハ當選人ヲ被告トシテ控訴院ニ出訴スルコトヲ得ト規定セラル法律第三號

同年五月一日治安裁判所出張所裁判假規定ヲ定メ治安裁判所判事ヲ出張所ニ派シ簡易ノ民事々件及ヒ勸解ヲ取扱ハシメラル勸令第六七號

同年六月四日市制第二百二十七條及ヒ町村制第三百三十四條ニ依レル行政裁判ハ控訴院ヲシテ内閣ノ裁定ヲ經之ヲ裁決セシメラル

二十三年二月八日裁判所構成法ヲ公布シ十一月一日ヨリ施行セラル裁判所ヲ分テテ區裁判所地方裁判所控訴院大審院ノ四トシ地方裁判所控訴院及ヒ大審院ヲ合議裁判所トス控訴院ニ關スル要項左ノ如シ法律第六號

權限

一、地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

二、地方裁判所ノ第二審判決ニ對スル上告

三、地方裁判所ノ決定及ヒ命令ニ對スル抗告

分課

民事部

刑事部

各一若クハ二以上ヲ置ク

又裁判所ノ休暇中ハ刑事々件及ヒ休暇事件ヲ取扱フ爲メ一若クハ二以上ノ休暇部ヲ置ク

書記課

職員

院長

勅任判事中ヨリ之ヲ補ス

其院一般ノ事務ヲ指揮シ且司法行政ニ付キ其院及ヒ管内下級裁判所

ヲ監督ス

構成及ヒ權限

部長

部ノ事務ヲ監督シ其分配ヲ定ム

判事

民事部若クハ刑事部ニ屬ス

書記長

書記課ノ事務ヲ指揮監督ス

書記

記録、往復、會計等ノ事務ヲ掌ル

廷丁

法廷内ノ雜役ニ服ス

審判

審判ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ行フ其一人ヲ裁判長トス

判事、檢事及ヒ書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ着ス

辯護士モ亦一定ノ職服ヲ着ス

裁判ノ評議

評議ハ之ヲ公行セス各判事意見ヲ述フル順序ハ官等最モ低キ者ヲ始メトシ裁判長ヲ終トス官等同シキモノハ年少者ヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命判事ヲ始トス

司法年度及ヒ休暇

司法年度ハ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル休暇ノ始期終期ハ舊制ニ同シ休暇中民事訴訟ハ特ニ定メタル事件ノ外取扱ハス

裁判上ノ共助

法律上ノ補助ハ別ニ規定アル場合ヲ除ク外所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

又裁判所ニ檢事局ヲ附置ス其管轄區域ハ附置セラレタル裁判所ノ管轄區域ニ同シ其權限及ヒ職員左ノ如シ

權限

構成及ヒ權限



検事ハ公訴ヲ爲シ判決ノ執行ヲ監視シ且民事ニ付キ必要ナリト認ムルハハ意見ヲ述フルコトヲ得又裁判所ニ關スル司法及ヒ行政事件ニ付キ公益ノ代表者トシテ法律上其職權ニ屬スル監督事務ヲ行フ又検事局ハ司法官廳ニ對シテ起リタル民事ノ訴訟ニ付キ其官廳ヲ代表ス

検事ハ裁判所ニ對シ獨立シテ其事務ヲ行フ

検事悉ク差支アリテ事件ヲ取扱フコトヲ得ス且其事件猶豫スヘカラサル場合ニ於テ判事ニ検事ノ代理ヲ命スルコトヲ得

職員

検事長

勅任検事中ヨリ之ヲ補ス

其局ノ事務ヲ指揮監督シ且司法行政ニ付キ其局及ヒ管内下級検事局ヲ監督ス又管内下級検事局ノ權限ニ屬スル事務ヲ自ラ取扱フノ權ヲ有ス

検事

書記

必要ナル場合ハ検事局ニ書記課ヲ設クルコトヲ得書記課ニ二人以上ノ書記ヲ置キタルハ其一人ヲ監督書記トス

同年三月十八日裁判所構成法施行條例ヲ公布セラル法律第 二二號

同年六月二十八日行政裁判法ノ公布ニ因リ從來受理セシ行政訴訟ハ總テ行政裁判所ノ管轄ニ屬ス法律第 四八號

同年八月十一日裁判所位置及ヒ管轄區域ヲ左ノ如ク定メ裁判所構成法施行ノ日ヨリ實施セラル但シ新置裁判所開廳ノ期日ハ司法大臣別ニ之ヲ定メラル法律第 六二號

控訴院	地方裁判所	區裁判所	國	管
			郡	市
			區	町
			村	村
廣	嶋	安	藝	郡ノ内
		牛	田	村
		戸	坂	村
		矢	賀	村
		溫	品	村
		仁	保	島
		江		

構成及ヒ權限

廣

竹原安藝	吳安藝	
豐田郡 賀茂郡ノ内 竹原町 賀永村 東野村 下野村 莊野村 三津村 三津口村 早田原村 東高屋村 西高屋村 四日市村 川上村 東志和村 西志和村 原村 吉次郎丸村 土質村 熊野跡村 御園寺村 寺西村 下見村	安藝郡ノ内 和庄村 莊山田村 大屋村 宮原村 燒山村 吉浦村 警固屋村 渡子島村 本庄村 蒲荊島村 倉橋島村 瀬戸島村 賀茂郡ノ内 廣村 中黒瀬村 下黒瀬村 郷原村 仁方村 阿賀村 中切村 川尻村 内海村 内海跡村 野路村	田島村 海田市町 府中村 奥海田村 上瀬野村 下瀬野村 中野村 畑賀村 矢野村 船越村 中山村 坂村 熊野村

廣 嶋

尾道備後	庄原備後	三次		
		安藝	備後	
深津郡 安那郡 沼隈郡ノ内 松永村 瀬戸村 津ノ郷村 赤坂村 金江村 本郷村 山南村 東村 西村 今津村 柳津村 藤江村 浦崎村 百島村 山波村 高須村 神村	山内東村 山内西村 山内北村 比和村 御調郡 世羅郡 沼隈郡ノ内	高野山村 口北村 口南村 惠蘇郡ノ内	高田郡 三上郡 奴可郡 惠蘇郡ノ内	造賀村 郷田村 吉川村 志和堀村 上黒瀬村 乃美尾村 下三永村 板城村 三次郡 三谿郡

樽成及ニ權限

福山	山口	徳山	岩國
備後	長門	周防	周防
山手村 郷分村 神島村 草戸村 佐波村 鞆町 田島村 千年村 田尻村 走島村 熊野村 水呑村 横島村 神石郡 甲奴郡 芦田郡 品治郡 吉敷郡 佐波郡 美禰郡 都濃郡 熊毛郡ノ内 八代村 玖珂郡ノ内 小瀬川村 麻里布村 深須村 米川村 玖珂村 藤河村 愛宕村 本郷村 河波村 川越村 灘村 北河内村 藤谷村 高根村 秋中村 高森村 横山村 岩國町 川下村 濹前村 廣瀬村 由宇村 南河内村 師木野村 通津村 賀見畑村 桑根村 祖生村	美禰郡 吉敷郡 佐波郡 長門	都濃郡 熊毛郡ノ内 八代村	玖珂郡ノ内 小瀬川村 麻里布村 深須村 米川村 玖珂村 藤河村 愛宕村 本郷村 河波村 川越村 灘村 北河内村 藤谷村 高根村 秋中村 高森村 横山村 岩國町 川下村 濹前村 廣瀬村 由宇村 南河内村 師木野村 通津村 賀見畑村 桑根村 祖生村

山口	赤間關	萩	柳井津
長門	長門	周防	周防
大島郡 熊毛郡ノ内 伊保庄村 伊保庄南村 室津村上ノ關村 佐賀村 大野村 平生村 會根村 麻里布村 麻郷村 田布施村 鹽田村 城南村 三輪村 岩田村 室積村 光井村 島田村 淺江村 三井村 周防村 束荷村 三丘村 高水村 勝間村 玖珂郡ノ内 神代村 日積村 鳴門村 柳井村 柳井津町 古開作村 新庄村 余田村 伊陸村 阿武郡 見島郡 大津郡 赤間關市 豊浦郡ノ内 岡枝村 豊東郷村 内日村 小月村 清末村 豊東前村 長府村 豊東上村 豊西下村 豊西中村 豊西上村 豊西村 豊西東村 川棚村 小串村 宇賀村 神玉村 角島村 神田下村 阿川村 粟	阿武郡 見島郡 大津郡	柳井津 周防	

構成及權限

嶋									
松									
江									
西	益	大	濱	今	木	松	松	松	
郷	田	森	田	市	次	江	木	木	
隱	石	石	石	石	出	出	長	長	
岐	見	見	見	見	雲	雲	門	門	
周吉郡	美濃郡	邇摩郡	那賀郡	安濃郡	神門郡	大原郡	松江市	松江市	野村 瀧部村 田耕村 豊田上村 豊田中村 豊田村 豊田下村 豊田前村 彦島村
穩地郡	鹿足郡	邑智郡			出雲郡	仁多郡	島根郡	島根郡	厚狹郡
知夫郡					楯縫郡	飯石郡	意宇郡	意宇郡	豊浦郡ノ内
海土郡							秋鹿郡	秋鹿郡	豊東村
							能義郡	能義郡	

鳥			
取			
溝	米	倉	鳥
口	子	吉	取
伯	伯	伯	因
耆	耆	耆	幡
日野郡	汗入郡	河村郡	鳥取市 邑美郡 法美郡 岩井郡 八上郡 八束郡 智頭郡 高草郡 氣多郡
	會見郡	久米郡 八橋郡	

同月十五日尾道赤間關濱田西郷米子ノ五區裁判所ニ甲號支部ヲ三次岩國萩ノ三區裁判所ニ乙號支部ヲ置カル甲號支部ハ重罪公判及ヒ民事第二審ヲ除ク外地方裁判所ノ裁判權ニ屬スル事務ヲ乙號支部ハ豫審ヲ要スルモノヲ除ク外地方裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事第一審ノ事務ヲ取扱フ  
司法省令 第三號

同年十一月一日裁判所構成法ノ實施ニ因リ當院ニ民事刑事各一部ヲ設ク  
司法省告示 第六七號

同年十二月一日竹原徳山船木ノ三區裁判所所裁判事務ヲ開始ス  
司法省告示 第八三號

同月二十五日大森區裁判所裁判事務ヲ開始ス  
司法省告示 第一〇號

二十四年二月二日庄原區裁判所裁判事務ヲ開始ス  
司法省告示 第四一號

同年三月二十三日木次區裁判所裁判事務ヲ開始ス  
司法省告示 第四一號

構成及ヒ權限

同年九月十六日地方裁判所甲號支部ニ於テ刑事第二審ノ事務ヲ取扱フヲ廢セラル  
司法省令 第九號

同年十月三日廣嶋地方裁判所三次支部及ヒ山口地方裁判所萩支部ヲ廢セラル  
司法省令 第二二號

二十五年一月四日柳井津區裁判所裁判事務ヲ開始ス  
二十四年司法省告示第一一七號

二十六年一月四日三次區裁判所ニ廣嶋地方裁判所ノ支部ヲ置キ豫審ヲ要スル事件ヲ除ク外地方裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事第一審ノ事務ヲ取扱ハシメラル  
二十五年司法省令第一二號

同年五月一日溝口區裁判所民事裁判事務ヲ開始ス  
司法省告示 第二〇號

同年六月二十日益田區裁判所民事裁判事務ヲ開始ス  
司法省告示 第二五號

同年六月二十二日廣嶋地方裁判所三次支部及ヒ山口地方裁判所岩國支部ノ裁判權限ヲ擴張シ地方裁判所ノ裁判權ニ屬スル民事第一審ノ事務ヲ取扱ハシメラル  
司法省令 第一三號

控訴院管内伊豫國ヲ當院ノ管轄ニ變更シ四月一日ヲ以テ實施セラル但シ三月三十一日以前ノ裁判ニ對スル上訴ハ各從前ノ控訴院ヲシテ管轄セシメラル  
法律第 二一號

地方裁判所		區裁判所		管轄	
西條	伊豫	大洲	松山	市	町 村
宇摩郡 新居郡 周布郡 桑村郡	伊豫	伊豫	松山市 温泉郡 伊豫郡 和氣郡 上浮穴郡 下浮穴郡 風早郡 久米郡 喜多郡 西宇和郡ノ内 平野村	西宇和郡ノ内	八幡濱町 千丈村 神山村 雙岩村 三瓶村 三島村 二本生村 眞穴村 川上村 舌田村 矢野崎村 喜須來村 日土村 川ノ石村 宮内村 磯津村 伊方村 町見村 三机村 四ッ濱村 神松名村 三崎村

構成及ヒ權限

今	治	伊	豫	越智郡	野間郡
宇	和	伊	豫	東宇和郡	南宇和郡
				北宇和郡	

三十年九月十日廣嶋地方裁判所三次支部、山口地方裁判所岩國支部豫審事務ヲ開始ス司法省令第一四號

三十二年四月一日柳井津區裁判所ニ於テ裁判事務ヲ取扱フヲ廢シ其事務ヲ岩國區裁判所ニ移サル司法省令第一四號

同日庄原區裁判所ニ於テ裁判事務ヲ取扱フヲ廢シ其事務ヲ三次區裁判所ニ移サル司法省令第一二號

同年九月一日西條區裁判所ニ松山地方裁判所ノ支部ヲ置キ地方裁判所ノ裁判權ニ屬スル民刑事第一審ノ事務ヲ取扱ハシメラル司法省令第一七號

同月十一日今治區裁判所刑事裁判事務ヲ開始ス

三十三年三月二十八日衆議院議員選舉法ヲ改正シ選舉ノ効力ニ關シ異議アル選舉人ヲシテ選舉長ヲ被告トシ控訴院ニ出訴スルコトヲ得シメラル但シ當

選訴訟ニ付テハ從前ニ同シ法律第七三號

同年三月三十一日今治區裁判所伊豫國越智郡日吉村大字藏敷ノ新築廳舎ニ移轉ス司法省令第一〇號

同年四月八日吳區裁判所安藝國安藝郡莊山田村ニ移轉ス司法省令第一七號

同年六月十五日庄原區裁判所民事裁判事務ヲ開始ス司法省令第二七號

同年七月一日益田區裁判所刑事裁判事務ヲ開始ス司法省令第二九號

三十七年二月二十五日松江地方裁判所西郷支部ニ於テ豫審ヲ除ク外裁判事務ヲ取扱フヲ廢セラル司法省令第六號

同年七月十一日軍國多事ノ際ナルヲ以テ當院ハ暑中休暇ヲ爲サス從テ休暇部ヲ組織セス

三十八年三月十一日大阪控訴院管內備前備中美作因幡伯耆ノ五ヶ國ヲ當院ノ管轄ニ移シ四月一日ヲ以テ實施セララル但シ三月三十一日以前ニ於ケル岡山及ヒ鳥取地方裁判所ノ裁判ニ對スル上訴ハ大阪控訴院ヲシテ之ヲ處理セシメラル右管轄區域ニ於ケル下級裁判所左ノ如シ法律第五九號

構成及七權限

地方裁判所		區裁判所		管	
岡山	高梁備中	片上備前	岡山	備前	岡山市 御野郡 上道郡 津高郡 兒島郡 赤坂郡 邑久郡
				備中	都宇郡 賀陽郡ノ内 庭瀬村 真金村 高松村 生石村 服部村 阿曾村 總社村 淺尾村 池田村 菅谷村 福谷村 岩田村 日近村 大井村 足守村 和氣郡 磐梨郡 上房郡 阿賀郡ノ内 中井村 中津井村 上水田村 水田村 皆部村 賀陽郡ノ内 日美村 富山村 大和村 川上郡 阿賀郡ノ内

三六

鳥取		新見		玉島		笠岡		津山		勝山		鳥取		倉吉		米子		溝口			
		備中		備中		備中		美作		美作		因幡		伯耆		伯耆		伯耆			
		新見村 美穀村 草間村 豊永村 熊谷村 刑部村 上刑部村 千屋村 菅生村 田治部村 哲多郡		淺口郡 窪屋郡 下道郡		小田郡 後月郡		西北條郡 東南條郡 西條郡 東北條郡 勝北郡 吉野郡 英田郡 勝南郡 久米北條郡 久米南條郡		真島郡 大庭郡		鳥取市 邑美郡 法美郡 岩井郡 八上郡 八東郡 智頭郡 高草郡 氣多郡		河村郡 久米郡 八橋郡		汗入郡 會見郡		日野郡			

同年三月二十日裁判所構成法中ヲ改正シ區裁判所ノ裁判權ヲ擴張セラル法律第六十七號  
 同月二十七日山口地方裁判所若國支部松山地方裁判所西條支部ニ於テ豫審ヲ  
 除ク外裁判事務ヲ取扱フヲ廢セラル司法省令第九號

構成及ヒ權限

三七

同日區裁判所ノ權限ニ屬スル刑事事件中竊盜罪及ヒ二百圓ヲ超過スル罰金ヲ併科セス又ハ附加セサル本刑六月以下ノ禁錮ニ該ル罪ニシテ左記乙欄ノ區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノハ甲欄ノ區裁判所ヲシテ之ヲ取扱ハシメラル司法省令第一〇號

地方裁判所		區	
廣	廣	甲	乙
嶋	嶋	廣	竹原
尾	道	福	山
松	江	木	次
松	江	木	今
山	山	大	洲
高	梁	新	見
津	山	勝	山
岡	山	勝	山

同年四月一日同令三五大洲區裁判所ニ於テ八幡濱區裁判所管内ノ裁判事務ヲ取扱フヲ廢シ宇和島區裁判所ヲシテ其事務ヲ取扱ハメラル司法省令第二二號

同日當院ニ一ノ刑事部ヲ増設ス

同年七月十一日軍國多事ノ際ナルヲ以テ當院ハ暑中休暇ヲナサス從ヒテ休暇部ヲ組織セス

同年九月一日大洲區裁判所刑事裁判事務全部ヲ取扱フコトナル司法省令第二二號

三十九年五月七日裁判所構成法中區裁判所ノ權限ヲ擴張セラル法律第五〇號

四十年四月十日吳區裁判所吳市莊山田村ノ新築廳舎ニ移轉ス司法省令第二八號

同年五月二十日吳區裁判所裁判事務ヲ開始ス司法省令第二二號

四十一年三月廿七日裁判所構成法中區裁判所ノ裁判權限ヲ擴張セラル法律第三〇號

同年九月十九日明治三十八年司法省令第十號裁判權限ヲ變更セラル司法省令第二六號

訟廷

明治十五年三月二十二日調書ヲ作リタル司法警察官ヲ證人トシテ呼出シタルトキハ書記ノ次席ニ於テ陳述セシムルコトトナル司法省令第一〇號

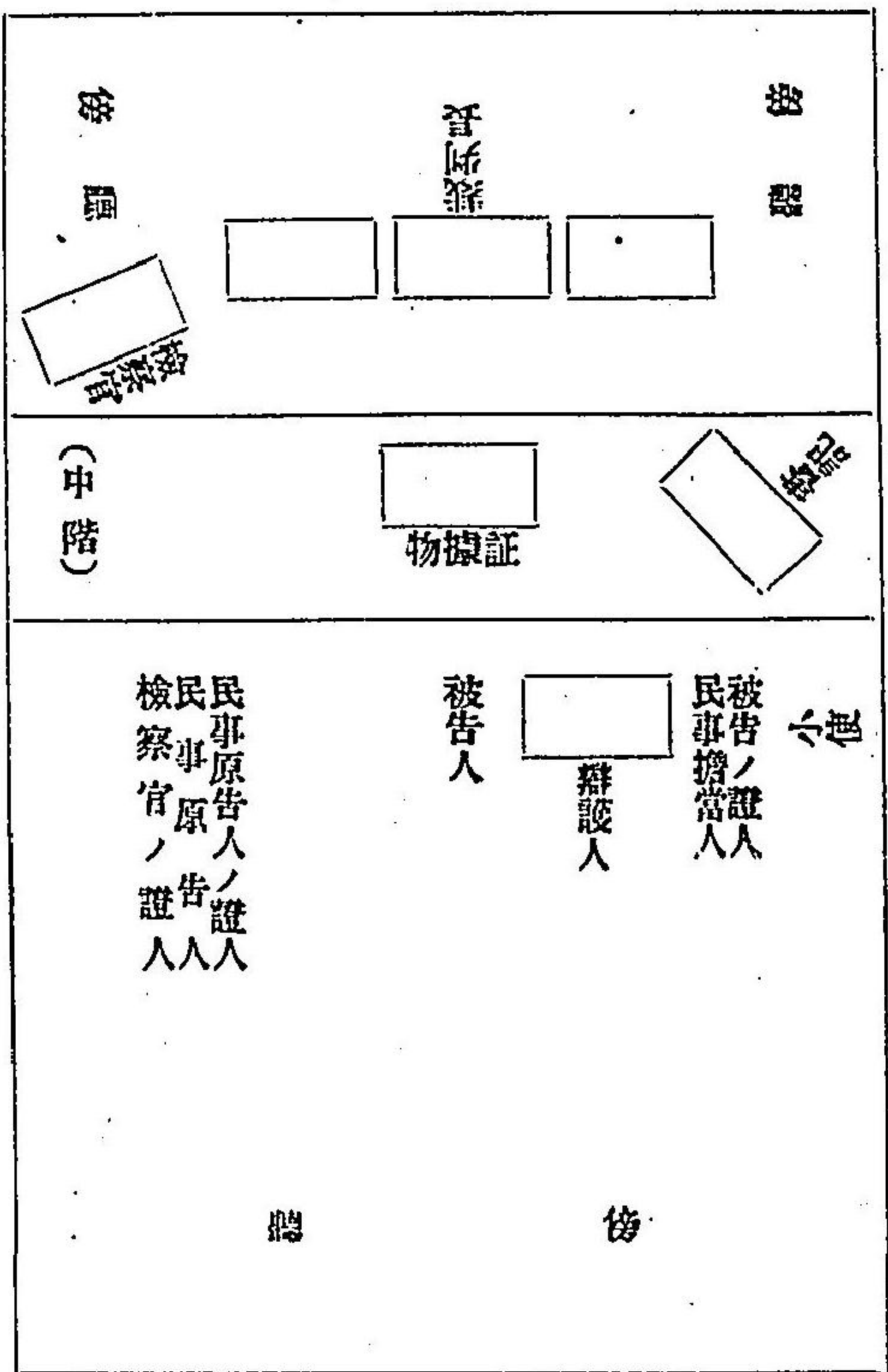
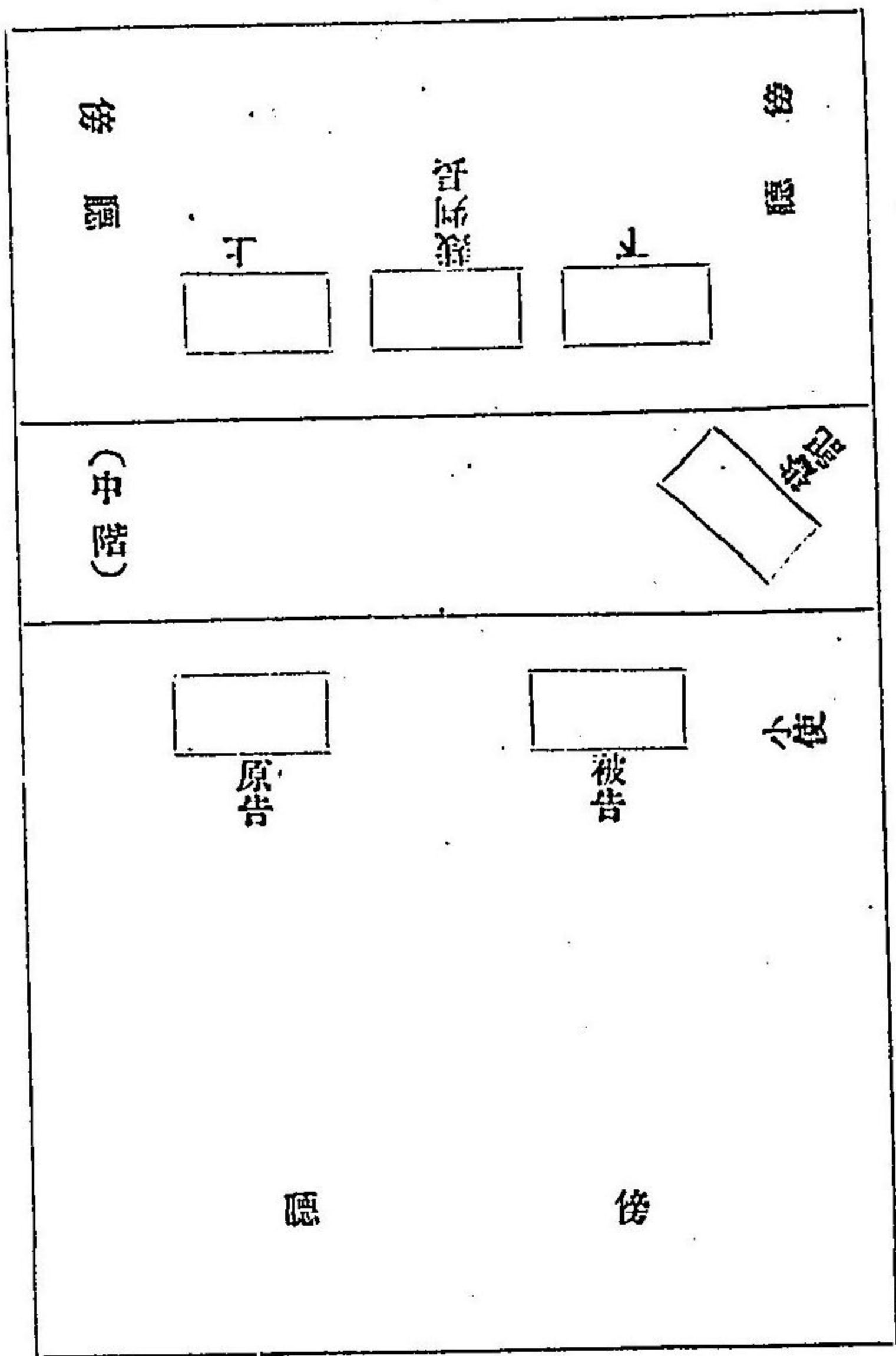
同月二十九日傍聽人ハ官民ヲ擇ハス總テ一般傍聽席ニ着カシムルコトトナル

訟廷



但シ外國人ニシテ公然照會ヲ經タルモノハ此限リニアラス  
司法省丁第 二〇號  
 同日民事認廷並ニ重罪認廷ニ於ケル職員及ヒ當事者ノ着席位置ヲ左ノ如ク定  
 ム  
當庭 決議

四〇



同年六月十二日官吏ヲ證人トシテ呼出シタルトキハ書記ノ次席ニ於テ陳述セ  
司法省丙 第二二號  
 シムルコト、ナル  
 十七年十二月十九日高等官及ヒ外國官吏ノ裁判傍聽席ハ之ヲ壇上ニ設ケ一般

訟 廷

四二

傍聽席ト區別セシメラル司法省丁 第三六號

二十三年二月八日裁判所構成法中ニ左ノ如ク規定セララル

開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス

裁判長ハ審問ヲ妨クル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシメ又

違犯者ノ行狀ニ因リ之ヲ拘引シ閉廷ノ時マテ拘留スルコトヲ得

裁判所ハ閉廷ノ時之カ釋放ヲ命シ又ハ五圓以下ノ罰金若クハ五日以内ノ

拘留ニ處スルコトヲ得

又裁判長ハ不當ノ言語ヲ用井ル辯護士ニ對シ同事件ニ付引續キ陳述ヲナ

スヲ禁スルコトヲ得

同年十一月十八日高等官及ヒ外國官吏ノ傍聽席ヲ壇上ニ設クルヲ廢シ一般ノ

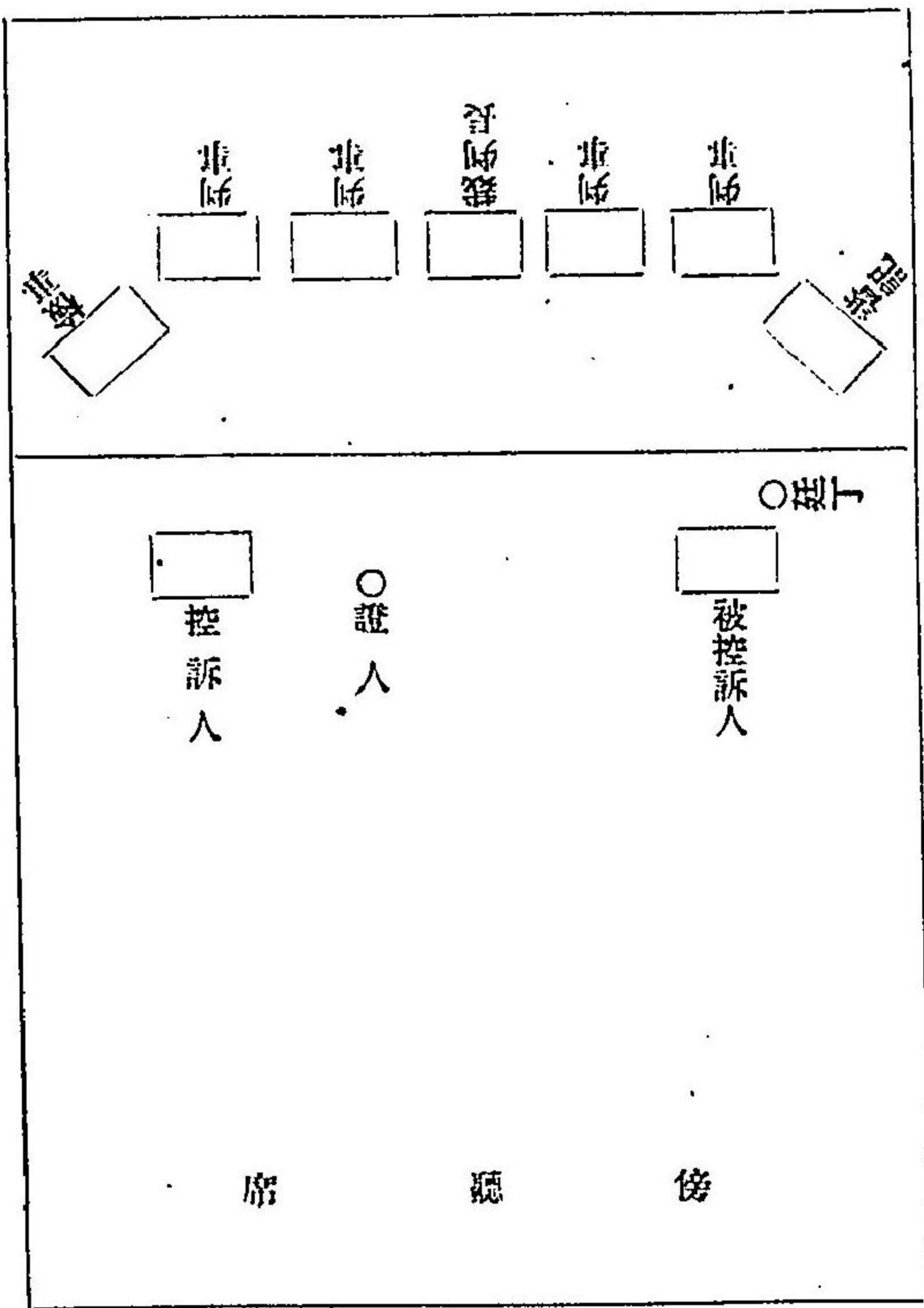
傍聽席ニ於テ區別セシメラル司法省文第 二八五四號

二十四年十二月四日高等官及ヒ外國官吏ノ傍聽席ハ壇上ト壇下トヲ問ハス認

延ノ狀況ニヨリテ一般傍聽席ト區別セシメラル司法省庶第 二二八號

二十五年三月十五日訟廷ノ中階ヲ除キ職員及ヒ當事者ノ着席位置ヲ左ノ如ク

改ム  
決當廳

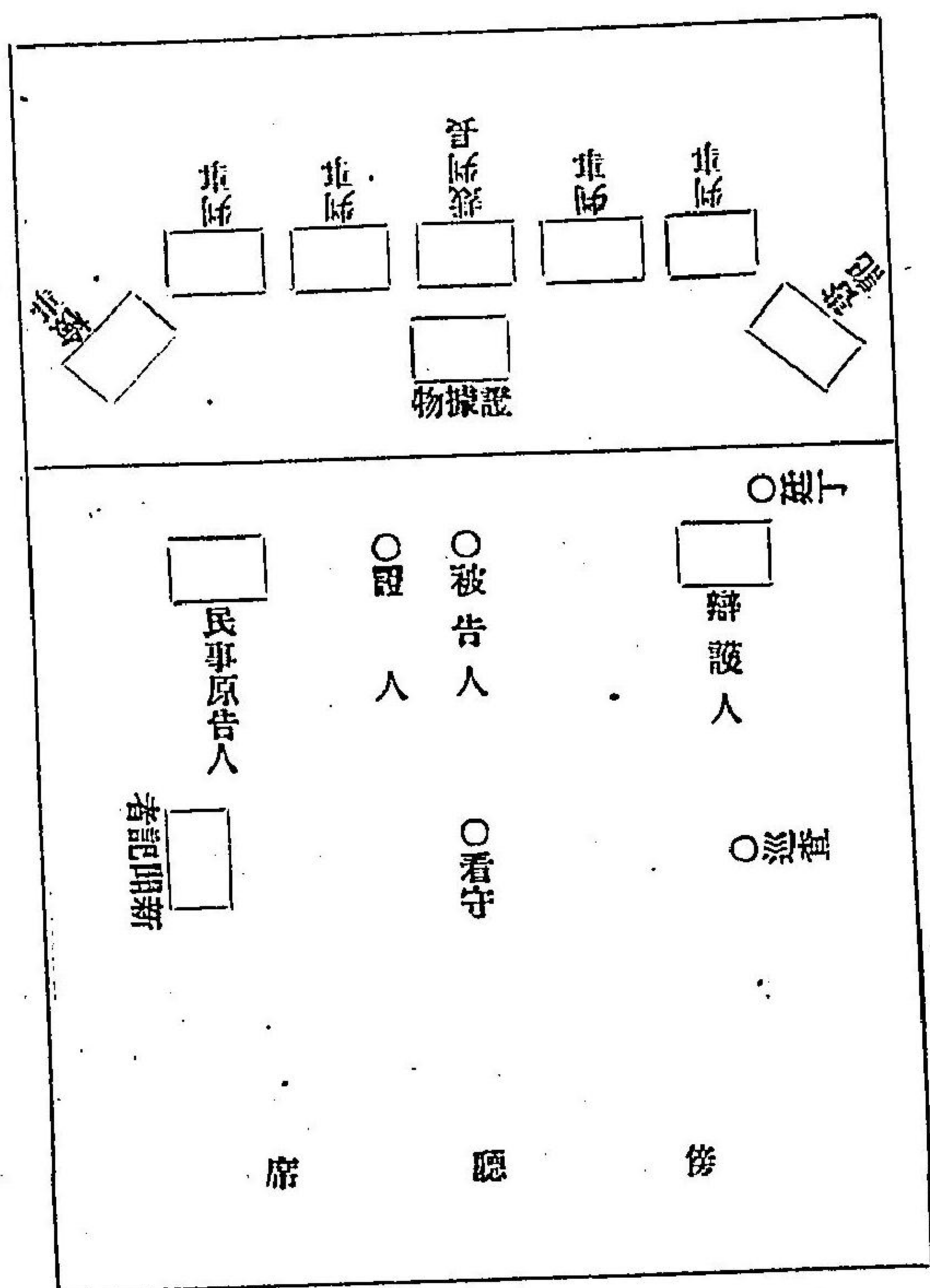


訟廷

四三

四二

二十九年六月二十六日訴訟關係人並ニ傍聽人認廷ニ入ルニハ靴又ハ草履ヲ穿



ダシメ且男子ハ成ルヘク羽織若クハ袴ヲ着用セシム  
 三十二年五月二十七日認廷ニ於テ被告人其他訴訟關係人ヲ呼フニハ其氏ニ資  
 格ヲ加ヘテ何被告人又ハ何證人ト呼ハシム  
 同年七月十日認廷ノ土間ヲ板張トナス

御臨幸

明治十八年八月一日 天皇陛下廣島ニ御巡幸同月三日午前八時當裁判所ニ臨  
 御アラセラル委任官以上ニ拜謁ヲ賜ハリ所長事務概表ヲ捧呈ス暫時御休憩  
 ノ後還御アラセラル是ヨリ先御臨幸仰出サル、ヤ御輦ニ差支フル虞アルヲ  
 以テ玄關前ノ栗石ヲ取除キテ敷石トナシ又廳内ニ修繕ヲ加ヘ玄關内御通路  
 ニ白木綿ヲ敷キ御目障ノ箇所ニ幔幕ヲ張り玉座ヲ東側ニ階判事局ニ御廁ヲ  
 二階檢事局ニ皇族其他供奉員ノ席ヲ書記局ニ設ク  
 同月四日勅任官以下雇員ニ至ルマテ酒饌料ヲ賜ハル各差アリ

職員

定員及ヒ俸給

明治十四年十月十八日當裁判所定員ヲ左ノ如ク定メ十五年一月一日ヨリ施行  
セラル 司法省達第 五四八八號

判事	十二人	内所長 一人
検事	三人	内検事長 一人
書記	七人	
雇	十七人	

但會計課員ハ之ニ包含セス

同年十二月五日右定員ヲ廢シ司法省ノ見込ヲ以テ人員ヲ配付スルコトト定メ  
ラル 司法省達第 六四四四號

十五年一月一日即チ開庭當時ニ於ケル職員左ノ如シ

所長	一人	
判事	十一人	
検事長	一人	
検事	二人	
書記	七人	
雇	六人	
外ニ		
會計課付司法屬	二人	
同 等外吏	二人	
當時判検事及ヒ書記ノ俸給ハ左ノ如シ		
判事及ヒ検事		十二年十二月太 政官達第五六號

年俸	勅任	奏任
四万五千		
三万五千		
三万		
二千四百		
二千		
千八百		
千五百		
千二百		
九百六十		
七百六十		
六百六十		

書記

十四年十月太政 官達第九二號

職員 定員及ヒ俸給

判任

月	五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓	十二圓
---	-----	------	-----	------	-----	------	-----	-----	-----

十六年十二月二十八日判事、檢事、判事補及ヒ檢事補ノ俸給ヲ左ノ如ク改正セラ  
ル 太政官達 第六五號

勅任	奏任		判任	
	勅任	奏任	判任	奏任
一等官 相當	二等官 相當	三等官 相當	四等官 相當	五等官 相當
六等官 相當	七等官 相當	八等官 相當	九等官 相當	十等官 相當
十一等官 相當	十二等官 相當	十三等官 相當	十四等官 相當	十五等官 相當
十六等官 相當	十七等官 相當	十八等官 相當	十九等官 相當	二十等官 相當
二十一年俸	二十二年俸	二十三年俸	二十四年俸	二十五年俸
二十六年俸	二十七年俸	二十八年俸	二十九年俸	三十年俸
三十一圓	三十二圓	三十三圓	三十四圓	三十五圓
三十六圓	三十七圓	三十八圓	三十九圓	四十圓
四十一圓	四十二圓	四十三圓	四十四圓	四十五圓
四十六圓	四十七圓	四十八圓	四十九圓	五十圓

十七年十二月二十七日判檢事以下定員ヲ定メラル當裁判所ニ關スルモノ左ノ  
如シ 司法省 號外途

所長 判事 檢事長 檢事 書記 會計課屬官 計

一	五	一	二	一〇	二	二二
---	---	---	---	----	---	----

十八年二月二十日雇員月給ハ拾圓以下ト定メラル 司法省職第 三九六號  
十九年三月十七日高等官俸給令ヲ定メラル 勅令第 六號  
同年四月三十日判任官官等俸給令ヲ定メ判任官ノ俸給ヲ左ノ如ク改正セラル  
勅令第 三六號

判任官

上等 下六十四	五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓	十二圓
------------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	-----	-----

一 等上級俸ヲ受ケ三年ヲ經功績顯著ナル者ハ百圓マテ増俸スルコトヲ得  
同年五月四日裁判官、檢察官及ヒ書記官ノ俸給ヲ左ノ如ク改正セラル 勅令第 四二號

官等	勅任	奏任
一	二	三
四	五	六
七	八	九
十	十一	十二

職員 定員及ヒ俸給

年俸		
五千五百円		
上	中	下
五千円	三千五百円	四千五百円
上	中	下
四千円	三千五百円	三千円
上	中	下
三千八百円	二千六百円	二千四百円
上	中	下
三千二百円	二千円	千八百円
上	中	下
千六百円	千四百円	千二百円
上	中	下
千四百円	千円	九百円
上	中	下
八百円	七百円	六百円
上	中	下
五百円	四百円	三百円

同年六月十六日雇員給料ヲ日給トシ參拾五錢以下ヲ給セラル司法省出第 一〇五號  
 二十年十一月七日雇員給料ヲ月給ニ改メ十圓以下ヲ支給セラル司法省會檢甲 第五五八號  
 二十二年六月十五日書記每等定員ヲ定メラル當院ニ關スルモノ左ノ如シ司法省 職秘第 一八五號

二	等	四	等	六	等	七	等	八	等	九	等	計
一	一	一	二	三	一							九

同年七月二十日書記每等定員中會計專務書記每等定員ヲ定メラル當院ニ關スルモノ左ノ如シ司法省職秘 第五二號

四	等	六	等	八	等	計
---	---	---	---	---	---	---

一	二	三
---	---	---

二十三年三月十三日備員以下俸給支給規則ヲ定メラル司法省會檢甲 第一三九號  
 同年三月二十二日判任官俸給令中ヲ改正シ判任官ノ俸給ヲ左ノ如ク定メラル勅令第 三七號

判任官

一	等	二	等	三	等	四	等	五	等	六	等
上	七十五圓	五十五圓	四十五圓	三十五圓	二十五圓	十五圓					
下	六十圓	五十圓	四十圓	三十圓	二十圓	十二圓					

一 等上級俸ヲ受ケ三年ヲ經功績顯著ナル者ハ百圓マテ増俸スルコトヲ得  
 同年八月二日判事檢察事官等俸給令並書記長書記官等俸給令ヲ定メラル控訴院  
 ニ關スルモノ左ノ如シ勅令第一五八號 第一五九號

控訴院長

職員 定員及ヒ俸給

勅任二等年俸 四千圓又ハ三千五百圓(東京大阪ハ之ヲ除ク)  
部長

奏任一等又ハ二等 年俸二千六百圓乃至千八百圓  
判事

奏任三等又ハ四等 年俸千六百圓乃至千圓  
檢事長

勅任二等 年俸三千五百圓又ハ三千圓(東京大阪ハ之ヲ除ク)  
檢事

奏任一等乃至四等 年俸二千四百圓乃至千圓

官等	勅任		奏任						
	一	二	一	二	三	四	五	六	
年俸	五千五百圓	四千五百圓	四千圓	三千五百圓	三千圓	二千六百圓	二千四百圓	二千圓	一千七百圓
	上	中	上	中	下	上	中	下	上
	五千圓	三千五百圓	四千圓	三千五百圓	三千圓	二千六百圓	二千四百圓	二千圓	一千七百圓
	下	下	下	下	下	下	下	下	下
	四千五百圓	三千圓	二千四百圓	二千圓	一千七百圓	一千四百圓	一千圓	八百圓	五百圓

書記長

奏任三等又ハ四等

書記

判任一等乃至六等以上

判任官六等ニハ八圓九圓十圓ノ月俸ヲ給スルコトヲ得

書記見習ハ其待遇ヲ判任トシ月俸七圓以下ヲ給ス但シ特ニ十圓マテヲ給スルコトヲ得

同年八月二十日裁判所及ヒ檢事局職員表ヲ定メラル當院ニ關スルモノ左ノ如シ司法省文第 六六〇號

裁	判			所			檢			事			局		
	院長	部長	判事	書記長	書記	雇	計	檢事長	檢事	書記	雇	計	計		
一	一	八	一	一〇	一四	三五	一	二	二	二	二	七			

同日當院書記定員中會計部ニ屬スルモノヲ書記五名雇六名ト定メラル司法省文 第 七 號

職員 定員及ヒ俸給

同年九月六日書記ノ每等定員ヲ改正セラル當院ニ關スルモノ左ノ如シ司法省職秘第七七二號

二 等		三 等		四 等		五 等		合 計
上級	下級	上級	下級	上級	下級	上級	下級	
一	一	二	一	二	二	一	二	一三

同日書記ノ中會計職員每等定員ヲ定メラル當院ニ關スルモノ左ノ如シ司法省職秘第七五三號

二 等 下 級		三 等 上 級		四 等 上 級		四 等 下 級		五 等 下 級		合 計
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	五

同月十五日書記每等定員ノ内裁判所ニ屬スルモノト檢事局ニ屬スルモノトハ  
 院長檢事長ヲシテ協議ノ上之ヲ區分セシメラル司法省文第一七二號  
 同年十一月六日裁判所及ヒ檢事局職員表中書記定員ヲ改正セラル當院ニ關ス  
 ルモノ左ノ如シ司法省文第二五九五號

裁 判 所 檢 事 局
-------------

書記長	書 記	雇 員	合 計	書 記	雇 員	合 計
一	七	一一	二〇	二	二	四

同日書記每等定員ヲ改正セラル當院ニ關スルモノ左ノ如シ司法省文第二六五四號

二 等		三 等		四 等		五 等		合 計
上級	下級	上級	下級	上級	下級	上級	下級	
一	一	一	二	一	一	一	一	九

檢事局監督書記ハ二等上級會計上席書記ハ二等下級トス

同日書記定員中當院會計部ニ屬スルモノ、定員ヲ書記二名雇二名ト改メラル

司法省文第二六五五號

二十四年七月二十四日高等官任命及ヒ俸給令ヲ定メ高等官々等俸給令ヲ廢セ  
 ラル勅令第八二號

同日判任官俸給令ヲ定メ判任官々等俸給令ヲ廢セラル判任官ノ俸給左ノ如シ

職員 定員及ヒ俸給



勅令第  
八三號

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
六十圓	五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓	十二圓

最上級ヲ受ケ五年ヲ越ヘ優秀ノ者ハ七十五圓マテ増俸スルコトヲ得

同日判事檢事俸給令並ニ書記長書記長書記長俸給令ヲ定メ判事檢事官等俸給令及ヒ書記長書記官等俸給令ヲ廢セラシムル勅令第一三四號  
第一三五號

控訴院長 勅任 三千五百圓(東京大阪ハ之ヲ除ク)

部長 奏任 二千二百圓乃至千四百圓

判事 奏任 千二百圓乃至九百圓

檢事長 勅任 三千圓(東京大阪ハ之ヲ除ク)

檢事 奏任 二千圓乃至九百圓

判事檢事年俸表

勅任	奏任
----	----

一級	二級	三級	四級	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
五千圓	四千圓	三千圓	二千圓	三千圓	二千圓	一千圓	六百圓	四百圓	三百圓	二百圓	一百圓	八十圓	七十圓	六十圓	五十圓

書記長 奏任 千圓又ハ九百圓

書記 判任

書記見習 判任待遇 月俸七圓以下ヲ給ス特ニ十圓マテヲ給スルコトヲ得

二十五年十一月十二日高等官任命及ヒ俸給令ヲ廢シ高等官官等俸給令ヲ定メラル勅令第九六號

二八八  
一號

二十六年六月七日判事檢事定員ヲ改正セラシムル當院ニ關スルモノ左ノ如シ司法省職秘第一號

院長	部長	長判事	計	檢事長	檢事	計
一	一	四	六	一	一	二

職員 定員及ヒ俸給

同月十三日書記定員ヲ改正セラルル當院ニ關スルモノ左ノ如シ司法省職秘第七〇七號

裁 判 所		檢 事 局	
書記長	書記	雇	計
一	六	八	一五
			二
			二
			四

同年十月三十一日書記長書記ノ俸給令ヲ改正シ東京大阪ヲ除ク外書記長ノ年俸ヲ八百圓又ハ七百圓トシ控訴院及ヒ同檢事局書記ノ俸給ヲ一級俸乃至九級俸ト定メラル勅令第一七七號

同年十一月十六日書記定員改正ニ付二十七年年度以降其俸給ハ各廳一ケ年ノ定額ヲ定メ控訴院管内ヲ通シテ彼此流用セサルコト、定メラル當院及ヒ檢事局書記俸給定額ハ左ノ如シ司法省職秘第一〇二〇號

書記俸給三千圓 雇俸給九百圓

同年十二月六日當院書記俸給定額標準ヲ左ノ如ク定メラル司法省職秘第一七三四號

二級	四級	五級	七級	八級	九級	計
二	一	一	一	一	一	八

二十七年二月十五日判事檢事官等俸給令ヲ改正セラルル控訴院ニ關スルモノ左ノ如シ勅令第一七號

控訴院長 勅任三級俸(東京大阪ハ之ヲ除ク)

部長 奏任五級俸但年功ニ依リ四級俸又ハ三級俸ヲ給スルコトヲ得

判事 奏任八級俸但同上七級俸又ハ六級俸ヲ給スルコトヲ得

檢事長 勅任四級上俸(東京大阪ハ之ヲ除ク)

檢事 奏任八級俸但年功ニ依リ七級俸又ハ六級俸ヲ給スルヲ得

勅 任	奏	任
一級	二級	三級
二級	三級	四級
三級	四級	五級
四級	五級	六級
五級	六級	七級
六級	七級	八級
七級	八級	九級
八級	九級	十級
九級	十級	十一級
十級	十一級	十二級
十一級	十二級	十三級
十二級	十三級	計
五十四千四百円	三十五千四百円	二十五千四百円
三十五千四百円	二十五千四百円	二十千四百円
二十五千四百円	二十千四百円	一十九千四百円
二十千四百円	一十九千四百円	一十八千四百円
一十九千四百円	一十八千四百円	一十七千四百円
一十八千四百円	一十七千四百円	一十六千四百円
一十七千四百円	一十六千四百円	一十五千四百円
一十六千四百円	一十五千四百円	一十四千四百円
一十五千四百円	一十四千四百円	一十三千四百円
一十四千四百円	一十三千四百円	一十二千四百円
一十三千四百円	一十二千四百円	一十一千四百円
一十二千四百円	一十一千四百円	一十千四百円
一十千四百円	九千四百円	八千四百円
九千四百円	八千四百円	七千四百円
八千四百円	七千四百円	六千四百円
七千四百円	六千四百円	五千四百円
六千四百円	五千四百円	四千四百円
五千四百円	四千四百円	三千四百円
四千四百円	三千四百円	二千四百円
三千四百円	二千四百円	一千四百円
二千四百円	一千四百円	四百円

同日書記長ノ官等ヲ高等官六等以下ト定メラル 勅令第一八號  
 同月十七日判事檢事定員表ヲ改正セラル當院ニ關スルモノ左ノ如シ 司法省職秘 第四〇一號

院 長	部 長	判 事	計	檢 事 長	檢 事	計
一	一	六	八	一	一	二

同月二十八日判事檢事官等俸給令ニ規定セル各職進級定員及ヒ判事檢事進級標準ヲ内定セラル當院ニ於ケル進級定員左ノ如シ 司法省職秘 第四五七號

職名	應 俸		勅 任 奏		任 計	
	二級	三級	三級	四級	七級	八級
院 長	—	—	—	—	—	—
部 長	—	—	—	—	—	—
判 事	—	—	—	—	—	—
檢 事 長	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—

檢 事	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
--------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

三十年六月二十四日雇員月給ヲ十二圓以下ト定メラル 司法省會檢甲 第一七五號  
 同年七月十三日臨時雇日給ヲ四十錢以下ト定メラル 司法省會檢 甲第二二號  
 三十一年六月二十四日雇員ノ月給ヲ十二圓以下ト改メラル 司法省會檢甲 第一七五號  
 同年十月二十二日判任官俸給令中ヲ改正シ判任官ノ俸給ヲ左ノ如ク定メラル 勅令第三一〇號

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
七十五圓	六十圓	五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓

最上級ヲ受ケテ五年ヲ越ヘ優秀ノ者ハ百圓マテ増俸スルコトヲ得  
 三十二年四月十三日書記定員ヲ改正セラル當院ニ關スルモノ左ノ如シ 司法省職 秘第一一五〇號

裁 判 所 檢 事 局
----------------------------

職員 定員及ヒ俸給

書記長	書記	雇	計	書記	雇	計
一	六	一二	一九	二	三	五

同年四月十七日判事檢事官等俸給令ヲ改正セラルル控訴院ニ關スルモノ左ノ如シ

勅令第一五三號

控訴院長 勅任三級俸(東京大阪ハ之ヲ除ク)

部長 奏任四級俸乃至一級俸(同上)

判事 奏任七級俸乃至五級俸

檢事長 勅任四級俸又ハ三級俸(東京大阪ハ之ヲ除ク)

檢事 奏任七級俸乃至一級俸(同上)

判事檢事俸給表

勅任	奏任	任
一級二級三級四級五級一級二級三級四級五級六級七級八級九級十級十一級		

五千四百四十圓三十五圓 三千四百四十圓三十五圓 二千四百四十圓三十五圓 一千四百四十圓三十五圓 九百四十圓三十五圓 六百四十圓三十五圓 四百四十圓三十五圓 二百四十圓三十五圓

同年五月十六日當院檢事定員一名檢事局書記定員一名ヲ增加セラル司法省職密第一六九一號  
 三十四年六月二十九日判檢事欠員多ク補充ノ途ナキ爲メ地方裁判所判檢事ヲシテ控訴院事務ヲ補助セシムルコト、ナシ假リニ定員ヲ定メラル當院ニ關スルモノ左ノ如シ司法省職密第一二六六號

裁	判	所	檢	事	局			
院長	部長	判事	補助員	計	檢事長	檢事	補助員	計
一	一	七	二	一一	一	二	〇	三

同年七月十三日書記定員ヲ改正セラル當院ニ關スルモノ左ノ如シ司法省職密第一三六一號

裁	判	所	檢	事	局	
書記長	書記	雇	計	書記	雇	計
一	七	一一	一九	三	四	七

職員定員及ヒ俸給

同日書記定員改正ニ付キ控訴院書記俸給ハ平均年額三百圓地方裁判所以下書記俸給ハ同百八十圓又雇員給料ハ同百八圓(北海道所在廳ヲ除ク)ノ割合ヲ以テ豫算ヲ配付セラル司法省職壹第 一三六二號

三十五年二月十五日雇員月給ヲ十五圓以下ト改メラル司法省會檢 甲第三四號

同年三月十九日書記定員ヲ改正セラル當院ニ關スルモノ左ノ如シ司法省職壹 第三九九號

裁		判		所		檢		事		局	
書記長	書	記	雇	計	書	記	雇	計			
一	六	一	二	一	二	二	四	六			

同月二十五日雇員ハ定員ニ拘ハラス人員ヲ増減スルコトヲ得シメラル司法省職壹 第四八五號

同月二十八日判事檢事假定員ヲ廢シ更ニ定員ヲ定メラル當院ニ關スルモノ左ノ如シ司法省職壹 第五〇二號

裁		判		所		檢		事		局	
書記長	書	記	雇	計	書	記	雇	計			
一	六	一	二	一	二	二	四	六			

院長	部	長	判	事	計	檢	事	長	檢	事	計
一	一	一	八	一	〇	一	二	二	三	三	三

同日控訴院ノ事務ヲ補助セシムル爲メ其所在地ノ地方裁判所ニ定員外判事一名ヲ置カル司法省職壹 第五〇三號

同年五月五日臨時雇日給ヲ五十錢以下ト改メラル司法省會檢 甲 第一八〇號

三十七年八月二十七日官吏在職ノ儘許可ヲ得テ外國政府ニ聘用セラレタルトキハ聘用中臨時其官ヲ増置シタルモノト定メラル勅令第一 九五號

三十八年三月三十日判事檢事定員ヲ改正セラル當院ニ關スルモノ左ノ如シ司法省職壹 第四五六號

裁		判		所		檢		事		局	
院長	部	長	判	事	計	檢	事	長	檢	事	計
一	二	一	二	一	五	一	三	三	四	四	四

同日裁判所及ヒ檢事局書記定員ヲ改正セラル當院ニ關スルモノ左ノ如シ司法省職掌第八號

裁		判		所		檢		事		局	
書記長	書記	雇	計	書記	雇	計	書記	雇	計	書記	雇
一	八	一四	二三	三	五	八					

四十年六月十六日雇員給料一人月額一圓五十錢ツ、ヲ増加セラル司法省職掌第一一三二號

### 任用ノ規定

明治十四年十一月二日等外吏及ヒ雇員ノ進退ハ所長ヲシテ檢事長ト協議ノ上  
司法省職掌第一九二七號  
 攝行セシメラル

同月四日雇員ハ其職ノ名ヲ以テ之ヲ進退シ司法省ニ届出テシメラル司法省職掌第一九二〇號

十七年十二月十三日職員考績條例ヲ定メラル司法省職掌第一〇二號

同月二十六日判事登用規則ヲ定メラル其要項左ノ如シ

判事ハ法學士代言人又ハ試験及第者ニシテ始審裁判所ノ御用掛トシテ事務ノ見習ヲ爲シタル者ヨリ之ヲ任用ス但シ法學士タル代言人ニシテ二年以上其他ノ代言人ニシテ五年以上其業務ニ從事シ學識經驗卓絶ナル者五年以上判事補ノ職ニ在リテ學識經驗卓絶ナル者五年以上判事ノ職ニ在リタル者法學士代言人及ヒ試験及第者ニシテ判事トナリタル後他へ轉官シタル者法學士ニシテ他ノ官廳ニ奉職スル者五年以上檢事ノ職ニ在リタル者ハ直ニ之ヲ本官ニ任スルコトヲ得

十八年一月六日雇員ノ進退ハ所長ヲシテ檢事長ト協議シ攝行セシメラル司法省職掌第六號

十九年五月四日裁判所官制中ニ五年以上裁判官檢察官ノ職ニ在リタル者ニアラサレハ控訴院ノ裁判官タルコトヲ得スト規定セララル

同年七月一日裁判所處務規定中ニ左ノ如ク規定セララル司法省令丙第八號

院長ハ檢事長ト協議シ其職及ヒ管内裁判所判任官ノ増俸及ヒ轉勤ヲ攝行スルコトヲ得

職員任用ノ規定

裁判所ノ長ハ其應經費定額内ニテ雇員ヲ使用スルコトヲ得

院長ハ其廳及ヒ管内裁判所職員ノ考績ヲ毎年八月司法大臣ニ報告スヘシ

同年十月二十五日控訴院及ヒ所轄裁判所判任官ノ辭職ニ因ル免官ハ控訴院長

ヲシテ檢事長ト協議ノ上攝行セシメラル司法省職  
秘第八號

二十年七月二十三日文官試験試補及ヒ見習規則ヲ定メラル其要項左ノ如シ

勅令第  
三七號

委任文官(司法官行  
政文官)ハ法學博士文學博士ノ學位ヲ受ケ又ハ法科大學文科大學

舊東京大學法學部文學部ヲ卒業シ又ハ高等試験ニ及第シ實務ヲ練習シタ

ル者ヨリ之ヲ任用ス但シ三年以上大學ノ教授ニ任シタル者ハ試験及ヒ實

務練習ヲ要セス直ニ本官ニ任スルコトヲ得又司法官タル資格ヲ有シ他官

ヨリ司法官ニ轉スルトキ又ハ司法官タル資格ヲ有シ三年以上代言人タル

者ハ實務練習ヲ要セスシテ直ニ本官ニ任スルコトヲ得

判任官ハ官立府縣立中學校其他特定ノ學校ヲ卒業シ又ハ普通試験ニ及第

シ見習トシテ事務ヲ練習シタル者ヨリ之ヲ任用ス但シ本令施行前二年以

上雇員タル者ニシテ本屬長官事務ニ熟練シタリト認ムル者ハ試験ヲ要セ  
ス直ニ本官ニ任スルコトヲ得

同日四年以上判事檢事ノ職ヲ奉シ他ニ轉勤シタル者四年以上舊參事院議官議

官補司法省民事局長刑事局長參事官等ノ職ヲ奉シタル者及ヒ代言人試験ニ

及第シ五年以上代言人タル者ハ當分ノ内高等試験及ヒ實務練習ヲ要セスシ

テ司法官ニ任用スルヲ得シメラル

二十二年二月十一日憲法中ニ判事ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之

ニ任スト規定セラル

同月十二日判任官昇等及ヒ増俸ハ毎年七月十二月ノ兩度ニ攝行セシメラル

司法省職  
第一五六號

同年三月二十一日裁判所處務規程中ヲ改正セラル此時ヨリ控訴院長ハ會計專

務書記ノ増俸轉勤ノ攝行及ヒ考績ノ報告ニ干ラサルコト、ナル司法省訓  
令第一號

二十三年二月八日裁判所構成法中ニ左ノ如ク規定セラル

判事檢事ハ第一回試験ニ及第シ若クハ帝國大學法科ヲ卒業シ試補トシテ

職員 任用ノ規定

實地修習ヲ爲シ第二回試験ニ及第シタル者ヨリ之ヲ任用ス但シ三年以上帝國大學法科教授若クハ辯護士タル者ハ試験ヲ要セス直ニ本官ニ任スルコトヲ得

五年以上判事タル者又ハ五年以上檢事帝國大學法科教授若クハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレタル者ニ非ツレハ控訴院判事ニ任スルコトヲ得ス書記ニ任セラル、ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ試験ヲ經ルヲ要ス

同年三月十八日裁判所構成法施行條例中ニ左ノ如ク規定セラル法律第二二二號  
三年以上裁判官檢察官舊參事院議官補法制局參事官司法省高等官會計局ノ高等官ヲ除ク等ノ職ヲ奉シタル者ハ裁判所構成法實施後一ケ年間ハ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得

同年十月二十四日裁判所構成法實施ニ付キ書記ノ補職ヲ院長檢事長ニ委任セラル司法大臣電報訓令

二十四年五月十五日判事檢事登用試験規則ヲ定メラル其要項左ノ如シ司法省令第三號  
第一回試験ハ司法省ニ於テ第二回試験ハ控訴院ニ於テ之ヲ行フ

試補ハ區裁判所及ヒ地方裁判所並ニ檢事局ニ於テ事務ヲ修習スヘシ

同日書記登用試験規則ヲ定メラル其要項左ノ如シ司法省令第四號

試験ハ控訴院ニ於テ之ヲ行フ但シ筆記試験ハ受験者ノ希望ニ依リ地方裁判所ニ於テ受ケシムルコトヲ得

試験ニ及第シタル者ハ書記見習ヲ命セラル、コトヲ得  
書記見習ハ區裁判所及ヒ地方裁判所并ニ檢事局ニ於テ事務ヲ修習スヘシ

同年九月十一日職員考績條例ヲ廢セラル司法省令第八號

同年九月十一日職員考績條例ヲ廢セラル司法省令第八號  
同月二十四日裁判所職員ノ進退身分ニ關スル規定ヲ設ケラル其要項左ノ如シ司法省職秘第一一四八號

控訴院長ハ其應及ヒ管内裁判所書記ノ増俸及ヒ其管内限リノ轉勤ヲ攝行スルコトヲ得但シ地方裁判所管内限リノ書記ノ轉勤ハ地方裁判所長之ヲ攝行スルコトヲ得

檢事長ノ其局及ヒ管内檢事局書記ニ於ケル權限ハ院長ニ同シ  
院長檢事長ハ其應ノ經費定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

職員 任用ノ規定



同年十月一日控訴院長ヲシテ書記ノ辭職ニ因ル免官ヲ攝行セシムルヲ廢セラ  
ル司法省職秘第  
一三三二號

二十五年四月六日書記進級轉勤内規ヲ設ケ書記ノ進級ハ毎年六月十二月ノ兩  
度控訴院及ヒ其管内ノ書記ヲ通シテ每級在職最モ長キモノヨリ之ヲ行フコ  
ト、定メラル司法省職秘  
第二三九號

同年十一月九日判事檢事撰抜内規ヲ定メラル司法省職秘  
第一〇八號

二十六年七月二十七日裁判所職員ノ進退身分ニ關スル規定中ヲ改正セラル控  
訴院長檢事長ニ於テ書記ノ轉勤ヲ攝行セサルコト、ナリタル外著シキ變更

ナシ司法省職秘  
第八四一號

同年十月三十日文官任用令ヲ公布シ文官試驗試補及ヒ見習規則ヲ廢セラル其

要項左ノ如シ勅令第一  
八三號

委任文官（控訴院ニ於  
テハ書記長）ハ文官高等試驗ニ及第シタル者滿三年以上高等文官ノ  
職ニ在リタル者滿三年以上判檢事ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者ヨリ之ヲ  
任用ス

判任官ハ文官高等試驗又ハ普通試驗ニ及第シタル者官立官立中學校其他  
特定ノ學校ヲ卒業シタル者滿三年以上文官ノ職ニ在リタル者ヨリ之ヲ任  
用ス但シ滿五年以上雇員トシテ同一官廳ニ勤績シタル者ハ文官普通試驗  
委員ノ詮衡ヲ經テ直ニ其廳ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

同日文官任用令施行ノ五ヶ月前ヨリ雇員トシテ引續キ事務ヲ執リタル者ハ同  
令施行後三ヶ月間ニ限リ文官普通試驗委員ノ詮衡ヲ經テ直ニ其廳ノ判任文  
官ニ任用スルコトヲ得シメラル勅令第一  
八五號

二十七年七月二日判事檢事官等陞叙内規ヲ定メラル司法省職秘第  
一二五六號

同日判事檢事進級内規ヲ定メラル司法省職秘第  
一〇一五號

同年九月十二日判事檢事撰抜内規中ヲ改正セラル司法省職秘第  
一六六七號

同日裁判所及ヒ檢事局職員ノ進退身分ニ關スル監督官權限ヲ定メラル其要項  
左ノ如シ司法省職秘第  
一六六〇號

控訴院長ハ檢事長ト協議ノ上其廳及ヒ管内裁判所豫算定額内ニ於テ書記  
ノ進級ヲ攝行スルコトヲ得

職員任用ノ規定

書記ノ進級ハ毎年六月、十二月ノ兩度ニ在職最モ長キ者ヨリ之ヲ行フ但シ  
臨時進級ヲ爲スヘキ者アルトキハ特ニ司法大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
控訴院長ハ其應豫算定額内ニ於テ其應及ヒ管内裁判所書記ノ其管内限ノ  
轉勤(地方裁判所管内限)ヲ攝行スルコトヲ得

檢事長ノ其局及ヒ管内檢事局書記ニ於ケル權限ハ院長ニ同シ

控訴院長檢事長ハ其應豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

二十八年四月二日裁判所及ヒ檢事局職員進退身分ニ關スル監督官權限中書記  
ノ進級ハ毎年六月、十二月ノ兩度之ヲ行フトノ規程ヲ廢セラル司法省職秘  
第三四九號

二十九年四月二十四日判事檢事進級内規中ヲ改正セラル司法省職秘  
第五三四號

三十年六月十七日書記長特別任用令ヲ定メ五ヶ年以上司法屬又ハ書記ノ職ヲ  
奉シ現ニ三級俸以上ノ俸給ヲ受クル者ハ試験ヲ要セス文官高等試験委員ノ  
詮衡ヲ經テ書記長ニ任用スルヲ得シメラル勅令第二  
二二號

同年十一月二十日書記登用試験規則中ヲ改正シ地方裁判所ニ於テモ試験ヲ行  
ハル司法省令  
第二二號

同年十二月二十日判事檢事進級内規中ヲ改正セラル司法省職秘第  
一六〇九號

三十二年三月二十七日文官任用令ヲ改正セラル其要項左ノ如シ勅令第  
六一號

奏任文官(控訴院ニ於  
テハ書記長)ハ文官高等試験ニ及第シタル者滿二年以上高等文官ノ  
職ニ在リタル者滿二年以上判事檢事ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者ヨリ之  
ヲ任用ス但シ判事ノ職ニ在リ又ハ在リタル者ハ司法部内ノ奏任文官ニ限  
リ任用セラル、コトヲ得

判任文官ノ任用ニ付テハ舊令ニ滿三年以上文官ノ職ニ在リタル者トアル  
年限ヲ滿二年以上ト改メラレタル外著シキ變更ナシ

同年六月十四日判事檢事官等陞叙内規及ヒ官等俸給相當表ヲ改正セラル司法省  
職秘第  
二四三  
六號

同年九月一日裁判所及ヒ檢事局職員ノ進退身分ニ關スル監督官權限中ヲ改正  
セラル控訴院長檢事長ノ權限中地方裁判所區裁判所及ヒ其檢事局書記ニ對  
スル進級ノ攝行ヲ地方裁判所長又ハ檢事正ノ權限ニ移サレタル外著シキ變  
更ナシ司法省職秘第  
三〇八一號

三十八年一月十七日控訴院長ヲシテ毎年十一月ヲ期シ其院判事及ヒ管内地方  
 裁判所長ノ考績ヲ調査シ地方裁判所長提出ノ判事考績書ト共ニ司法省ニ提  
 出セシメラル司法省職秘  
第三〇號  
 同年三月七日判事檢事登用試験規則中ヲ改正シ第二回試験ハ司法省ニ於テ之  
 ヲ行ハル司法省令  
第三號

分限

明治十五年七月二十一日司法官ニ對シ行政官吏服務規律ヲ適用セラル行政官  
 吏服務規律ノ要項左ノ如シ但シ第一項ハ判事ニ第四項ハ判檢事ニ適用セラ  
 レス太政官達  
第四五號

- 一 官吏ハ本屬長官ノ命ニ從フヘシ
- 二 官吏ハ在官中ト否トヲ問ハス機密ヲ漏洩スルコトヲ得ス
- 三 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ給料ヲ得テ他ノ事務ニ與  
ルコトヲ得ス

四 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其職務ニ關シ贈遺ヲ受ク  
ルコトヲ得ス

五 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得スシテ職役ヲ離ル、コトヲ得ス

六 臨時巡察使ヲ派シテ官吏ノ功過ヲ檢察シ太政大臣ニ具狀セシム

十七年一月四日官吏非職條例ヲ公布セラル其要項左ノ如シ太政官達  
第三號

本屬長官ハ廢官廢廳又ハ各廳事務ノ張弛其他疾病等ノ事故ニ因リ在職中ノ  
官吏ニ非職ヲ命スルコトヲ得

非職ノ期間ハ三年トス非職中ハ俸給三分ノ一ヲ給ス

十九年五月四日裁判所官制中ニ裁判官ハ刑事事又ハ懲戒ノ裁判ニ由ルニアラサ  
レハ退官又ハ懲罰ヲ受クルコトナシト規定セラル

二十年七月二十九日官吏服務規律ヲ改正セラル官吏及其家族ハ本屬長官ノ許  
可ヲ得ルニアラサレハ商業ヲ營ムヲ得サルコトトシ巡察使派遣ノ事項ヲ削  
除セラレタル外著シキ變更ナシ勅令第  
三九號

二十二年二月十一日憲法中ニ裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外

其職ヲ免セラル、コトナシ懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムト規定セラル  
同年三月二十七日裁判官公衆ニ對シ學術上ノ意見ヲ發表スルニハ追テ其取締  
方法ヲ定メラル、迄原稿ヲ提出シテ司法大臣ノ認可ヲ受ケシメラル司法省職權  
第二四三號  
二十三年二月八日裁判所構成法中ニ判事檢察ヲ分限ヲ左ノ如ク規定セラル

判事ハ其任官ヲ終身トス  
判事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其意ニ反シテ轉官轉  
所停職免職又ハ減俸セラル、コトナシ但シ豫備判事タルトキ、補缺ノ必要  
アルトキ、大審院又ハ控訴院ノ總會議ニ於テ職務ヲ執ルコト能ハサルモノ  
ト決議シタルトキ及ヒ裁判所ノ組織ノ變更又ハ廢廳ニ由リ補職スヘキ缺  
位ナキトキハ此限ニアラス  
檢察ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其意ニ反シテ免職セ  
ラル、コトナシ  
判事ハ公然政事ニ關係スルコト、政黨政社ニ加ハルコト、府縣郡市町村會ノ  
議員トナルコト、俸給アル公務又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就クコ

ト及ヒ商業其他行政上禁セラレタル業務ヲ營ムコトヲ得ス

同年八月二十日判事懲戒法ヲ公布セラル其要項左ノ如シ法律第  
六八號

判事職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ、官職上ノ威嚴又ハ信  
用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキハ懲戒ヲ受ク

懲罰ヲ分テ譴責、減俸、轉所、停職、免職トス

懲戒裁判所ハ大審院及ヒ控訴院ニ之ヲ置ク

控訴院ニ於ケル懲戒裁判所ハ院長ヲ加ヘ其院ノ判事五人ヲ以テ組織シ院  
長ヲ長トシ院長及ヒ部長ヲ除ク外其院ノ判事及ヒ管内下級裁判所ノ判事

ニ對スル事件ヲ審判ス

懲戒裁判所ニ於ケル檢察ノ職務ハ控訴院檢察長之ヲ行ヒ書記ノ職務ハ控  
訴院書記命ヲ受ケテ之ヲ行フ

同年十月十八日判事十五年以上奉職ノ者裁判所構成法實施後疾病其他ノ事故  
ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リ休職ヲ願出タルトキハ司法大臣ハ之  
ニ休職ヲ命スルコトヲ得休職中ハ俸給三分ノ一ヲ給スト規定セラル勅令第二  
五四號

二十四年三月二十一日官吏非職條例中ヲ改正シ非職俸給ヲ廢セラル勅令第  
二三號

三十年二月十六日 皇太后陛下崩御ニ付明治三十年一月十二日以前懲戒又ハ

懲罰ニ因リ免官又ハ免職セラレタル者若クハ停職ヲ命セラレタル者ニ對シ

其懲戒及ヒ懲罰ヲ免除セラル勅令第  
一四號

三十二年三月二十七日文官分限令ヲ公布シ非職條例ヲ廢セラル其要項左ノ如

シ勅令第  
六二號

官吏ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルトキ懲戒委員會ニ於テ職務ヲ執  
ルニ堪ヘサルモノト議決シタルトキ及ヒ官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員  
ヲ生シタルトキニアラサレハ其意ニ反シテ免官セラル、コトナク又其意  
ニ反シテ同等官以下ニ轉官セラル、コトナシ

官吏(一)懲戒令ノ規定ニ依リ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ(二)刑事  
事件ニ關シ告訴若クハ告發セラレタルトキ(三)官制又ハ定員ノ改正ニ因リ  
過員ヲ生シタルトキ(四)官廳事務ノ都合ニ因リ必要ナルトキハ之ニ休職ヲ  
命スルコトヲ得

休職ノ期間ハ右(一)(二)ノ場合ハ其事件委員會又ハ裁判所ニ繫屬中又(三)(四)ノ  
場合ハ三年トス休職中ハ俸給三分ノ一ヲ給ス

同日文官懲戒令ヲ公布セラル其要項左ノ如シ勅令第  
三號

官吏職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ職務ノ内外ヲ問ハス  
官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキハ懲戒ヲ受ク

懲戒ヲ分チテ免官、減俸、譴責トシ本屬長官之ヲ行フ但シ免官、減俸ハ懲戒委  
員會ノ議決ヲ經テ之ヲ行フ

免官ノ處分ヲ受ケタル者ハ其官職ヲ失ヒタル日ヨリ二年間官職ニ就クコ  
トヲ得ス尙情狀ニ依リ位記ヲ返上セシム

文官高等懲戒委員會ハ委員長一人委員六人ヲ以テ組織シ高等官ノ懲戒ヲ  
議決ス

文官普通懲戒委員會ハ委員長一人委員二人乃至六人ヲ以テ組織シ判任官  
ノ懲戒ヲ議決ス

同年五月二十五日控訴院ニ文官普通懲戒委員會ヲ置キ院長ヲ委員長トシ判事

検事書記長ノ中ヨリ委員四名ヲ命シ控訴院并ニ検事局及ヒ管内各裁判所並  
 ニ検事局判任官ノ懲戒ヲ議決セシメラル司法省職秘第 一八六六號  
 同年六月二十九日文官普通懲戒委員會ニ於ケル臨時顧問醫ノ囑託ヲ院長及ヒ  
 検事長ニ委任セラル司法省職秘第 二六三四號  
 同年九月十二日文官普通懲戒委員會審査手續ヲ定ム委員 決議  
 三十四年八月十日待遇官吏又ハ雇員ニシテ懲戒又ハ懲罰ニ因リ免職又ハ解雇  
 セラレタルモノハ二年ヲ經ルニアラサレハ官吏又ハ待遇官吏若クハ雇員ニ  
 採用スルヲ得サルコト、ナル司法省職壹 第一六五號  
 三十六年十一月四日文官分限中休職ノ期間ヲ改正シ高等官ハ滿二年判任官ハ  
 滿一年ト定メラル勅令第一 五六號

任免

院長

補職年月日	轉免年月日	氏名
明治十四年十月十五日	明治十四年十一月二十八日大審院詰ヲ命 セラル	坂本政均
同年十一月二十八日	同十九年二月十二日所長ヲ免シ歐洲へ差 遣ハサル	松岡康毅
同十九年二月十三日	同二十三年九月五日大審院刑事第二局長 ヲ命セラル	堤正巳
同二十三年八月二十 一日	同二十六年十二月二十九日退職ヲ命セラ ル	牟田口通照
同二十六年十二月二 十六日	同三十四年六月十一日退職ヲ命セラル	奥山政敬
同三十四年六月十一 日	同四十一年二月十七日函館控訴院長ニ補 セラル	一瀬勇三郎
同四十一年二月十七 日		馬場愿治

備考

院長ノ名稱ハ明治十九年五月四日ノ官制改革ニ始マル其以前ハ控訴裁  
 判所長ト稱ス

部長

職員任免

補職年月日	轉免年月日	氏名
明治十四年十月十五日	明治十六年一月二十五日歸京ヲ命セラル	北村 泰一
同十六年四月十三日	同十七年二月二十一日大分始審裁判所長ヲ命セラル	津田 要
同十七年五月三十日	同十八年七月三十日參事院議官補ニ任セラル	三條 公恭
同十八年八月八日	同二十三年八月十一日宮城始審裁判所長ヲ命セラル	木付 義路
同二十三年十月二十日	同二十七年二月一日退職ヲ命セラル	關屋 生三
同二十七年一月二十日	同三十一年三月二十八日大審院判事ニ補セラル	清水 一郎
同日	同三十八年二月七日大審院判事ニ補セラレ翌八日卒去	高洲 速太
同三十一年七月十五日	同三十九年四月二十三日廣嶋地方裁判所長ニ補セラル	土井 庸太郎
同三十八年四月一日	同四十年四月一日樺太地方裁判所長ニ補セラル	中谷 速水
同三十九年四月二十日	同四十一年五月十一日韓國政府ニ聘用セララル	膳 鉦次郎
同四十年四月二十二日	同四十年五月十九日函館控訴院部長ニ補セラル	池田 覺三
同四十一年五月十九日		藤田 重守

同四十一年五月十九日

山香二郎吉

備考

明治十九年五月四日ノ官制改革マテハ課長ト稱シ二十三年裁判所構成法實施マテハ局長ト稱シ其以後ハ部長ト稱ス

判事

補職年月日	轉免年月日	氏名
明治十四年十月十五日	明治十六年四月二日長崎控訴裁判所詰ヲ命セラル	増田 長雄
同日	同十五年一月二十五日司法省第八局詰ヲ命セラル	黒岩 直方
同日	同十五年一月十八日依願本官ヲ免セラル	菱田 重禧
同日	同十七年十二月二十日熊本始審裁判所詰ヲ命セラル	岡崎 撫松
同日	同十七年三月六日東京始審裁判所詰ヲ命セラル	木村 喬一郎

職員 任免

同	日	同十七年五月二十六日鳥取始審裁判所詰	吉竹好則
同	日	同十八年九月二十四日大阪控訴裁判所詰	臣佐武
同	日	同十六年一月二十五日大分始審裁判所詰	師岡太郎
同	日	同十四年十二月一日山口始審裁判所詰	島田正邦
同	日	同十四年十一月五日上田始審裁判所詰	中原正道
日	同十四年十月二十四日	命セラル	行徳元穆
日	同十四年十二月一日	同十五年六月三日依願本官ヲ免セラル	富田禎二郎
日	同十四年十二月二十七日	同十六年七月十六日歸京ヲ命セラル	富田恒一
日	同十五年一月十一日	同十六年四月二十七日依願本官ヲ免セラ	松野篤義
日	同十五年二月二十四日	命セラル	西本正道
日	同十五年四月五日	同十六年一月十八日福岡始審裁判所久留	大久保親正
日	同十五年九月二十六日	米支廳長ヲ命セラル	中島信近
日	同十六年一月十八日	同十七年七月七日金澤始審裁判所詰ヲ命	關田妙作
日	同十六年九月十五日	東京控訴裁判所詰ヲ命セラル	

同	日	同十六年四月十八日	同十七年十二月二十日函館始審裁判所長	齋藤金平
同	日	同十六年五月八日	同十六年七月三日神戸始審裁判所詰ヲ命	檜崎潤造
日	同十六年六月二十七日	同十七年十二月十二日上京ヲ命セラル	藤田隆三郎	
日	同十六年十月十八日	同十九年七月十日浦和始審裁判所長ヲ命	高津雄介	
日	同十七年二月二十九日	同十七年十二月十六日廣嶋始審裁判所詰	一賀道文	
日	同十七年二月二十一日	同十七年十月十八日死去	芳野親義	
日	同十七年五月一日	同二十三年十月二十二日函館控訴院判事	中尾捨吉	
日	同十七年五月十七日	同十七年九月二十一日死去	大園孝贊	
日	同十七年五月二十二日	同十七年十二月十六日廣嶋始審裁判所詰	高野孟矩	
日	同十七年十二月十六日	同十九年九月四日死去	古賀明銓	
日	同十八年九月二十八日	同二十三年十月二十二日今市區裁判所監	津村一郎	
日	同十九年七月十三日	同二十三年八月十一日水戸地方裁判所長	西川鉄次郎	



同十九年九月十日	同二十三年十月十四日宮城控訴院判事ニ 補セラル	増田 贊
同二十一年七月十八日	同二十六年五月十二日依願本官ヲ免セラ ル	中御門 經明
同二十三年八月三十日	同二十五年四月十八日東京控訴院判事ニ 補セラル	新井 善教
同二十三年十月十四日	同二十三年十月二十二日廣嶋控訴院部長 ニ補セラル	關屋 生三
同日	同二十五年六月一日東京控訴院判事ニ補 セラル	小菅 榮脩
同日	同二十四年九月十九日休職ヲ命セラル	別役 元昌
同日	同二十七年七月二日山口地方裁判所長ニ 補セラル	錦織 義弘
同日	同二十七年三月十五日大阪地方裁判所部 長ニ補セラル	長谷川 保敏
同日	同二十六年十月七日鳥取地方裁判所長ニ 補セラル	鶴 丈一郎
同二十三年十月二十 二日	同二十七年一月二十五日廣嶋控訴院部長 ニ補セラル	清水 一郎
同二十四年九月二十 一日	同二十九年五月十三日臺灣總督府法院判 官ニ任セラル	山口 武洪
同二十六年五月十八 日	同三十一年十二月二十七日山口地方裁判 所長ニ補セラル	中谷 速水
同二十七年二月二日	同三十一年十一月一日松江地方裁判所部 長ニ補セラル	柳原 至

同日	同三十五年四月十三日佐賀地方裁判所長 ニ補セラル	百瀬 武策
同二十七年三月十五 日	同二十九年十月三日退職ヲ命セラル	佐々木 綱一
同二十七年七月二日	同二十七年十月十九日那覇地方裁判所長 ニ補セラル	永島 巖
同二十七年十月十九 日	同三十年十月五日鳥取地方裁判所長ニ補 セラル	伊藤 景直
同二十九年五月十三 日	同三十一年十二月八日松山地方裁判所長 ニ補セラル	安井 重三
同二十九年十月三日	同三十八年四月一日松山地方裁判所部長 ニ補セラル	佐藤 信
同三十年十月十二日	同三十一年七月十五日廣嶋控訴院部長ニ 補セラル	高洲 速太
同三十一年七月二十 六日	同三十三年十二月五日赤間關區裁判所監 督判事ニ補セラル	阿部 義彰
同三十一年十一月一 日	同三十三年二月五日尾道區裁判所監督判 事ニ補セラル	岩佐 樟坪
同三十一年十二月八 日	同三十四年十一月十九日退職ヲ命セラル	福田 謹一
同三十二年一月二十 五日	同三十二年十月二十三日依願本官ヲ免セ ラル	谷重 安
同三十二年十月二十 三日		藤岡 常之丞
同三十二年十一月十 日	明治四十年一月四日山口地方裁判所部長 ニ補セラル	見矢木 欽爾

同三十三年二月五日	同三十七年四月二十七日赤間關區裁判所 監督判事ニ補セラル	百島 一八
同三十三年十二月五日	同三十七年四月九日松江地方裁判所長ニ 補セラル	玉置 琢
同三十四年十一月十日	同四十年四月二十二日廣嶋控訴院部長ニ 補セラル	池田 覺三
同三十五年四月二十三日	同四十一年五月十九日廣嶋控訴院部長ニ 補セラル	山香 二郎 吉
同三十七年四月十三日	同四十一年六月五日松山地方裁判所部長 ニ補セラル	西原 義任
同三十七年四月二十七日	明治三十九年七月十六日廣嶋控訴院檢事 ニ補セラル	川村 邦茂
同三十八年四月一日	同四十一年六月十三日關東都督府法院判 官ニ任セラル	阿部 義彰
同日	同三十九年十二月二十五日濱田區裁判所 判事ニ補セラル	多羅尾 篤吉
同日		井上 二郎
同日		高橋 嘉一郎
同日		原田 一
同日		吉原 謙亮
同三十九年七月二十五日	明治四十一年十月二十三日死去	廣瀬 又次郎

九〇

同三十九年十二月二十五日	同四十一年二月二十六日東京地方裁判所 檢事ニ補セラル	田中 昌太郎
同四十年一月四日		石井 清美
同四十年四月二十二日		江藤 直作
同四十一年四月十日		平佐 榮太郎
同四十一年六月五日		山浦 武四郎
同日		安藝 茂富
同四十一年九月三十日		宮内 安恭
同四十二年二月五日		守安 富太郎

備考

明治十九年五月四日官制改革ヨリ明治二十三年十一月一日裁判所構成  
法實施マテノ間ハ評定官ト稱シ其前後ハ判事ト稱ス

書記長

職員 任免

補職年月日	轉免年月日	氏名
明治二十年十二月二十四日	明治三十年十月六日依願本官ヲ免セラル	早田長忠
同三十年十月十二日	同三十二年四月十八日休職ヲ命セラル	秋田堯忠
同三十二年四月二十二日		河原知亮

備考  
書記長ノ名稱ハ裁判所構成法ノ實施ニ始マル其以前ハ控訴院書記官ト稱ス

### 檢事長

補職年月日	轉免年月日	氏名
明治十四年十月二十四日	明治十七年二月二十九日東京控訴裁判所詰ヲ命セラル	加納謙
同十七年二月二十一日	同十九年七月十日東京控訴院詰ヲ命セラ	楠正位
同十九年五月十日	同二十三年八月二十一日大審院評定官ニ任セララル	石井忠恭

### 檢事

同二十三年八月三十日	同二十五年八月二十二日檢事總長ニ補セララル	春木義彰
同二十五年九月十二日	同二十六年十二月二十九日廣嶋控訴院長ニ補セララル	與山政敬
同二十七年一月十日	同三十一年六月二十八日東京控訴院檢事長ニ補セララル	野崎啓造
同三十一年六月二十日	同三十四年六月十一日廣嶋控訴院長ニ補セララル	一瀬勇三郎
同三十四年六月十一日	同三十五年九月十一日長崎控訴院檢事長ニ補セララル	水上長次郎
同三十五年九月十一日	同三十八年十一月六日大審院檢事ニ補セララル	矢野茂
同三十八年十一月六日		川淵龍起

補職年月日	轉免年月日	氏名
明治十四年十月二十四日	明治十五年九月二十日內務權少書記官ニ任セララル	檜垣直枝
同十五年三月四日	同十六年十月五日廣嶋始審裁判所詰ヲ命セララル	一賀道文
同十五年九月二十一日	同十六年四月十三日廣嶋控訴裁判所評定官ニ任セララル	津田要

職員任免

同十六年四月二十四日	同二十年十二月二十七日廣嶋始審裁判所詰ヲ命セラル	北川 精一
同十八年五月十一日	同十九年七月十六日金澤始審裁判所七尾支應詰ヲ命セラル	木村 文郷
同十九年七月十三日	同二十三年十月十五日東京地方裁判所檢事ニ補セラル	井原 師義
同二十年十二月二十七日	同二十三年八月二十日根室地方裁判所檢事正ニ補セラル	立木 頼三
同二十三年十月二十日	同二十七年三月十九日退職ヲ命セラル	木村 喬一郎
同二十四年八月二十日	同二十五年八月一日佐賀地方裁判所檢事正ニ補セラル	大竹 長壽
同二十七年三月十九日	同二十九年四月二十三日浦和地方裁判所檢事正ニ補セラル	奥 野 毅
同二十九年四月二十三日	同三十年十二月八日佐賀地方裁判所檢事正ニ補セラル	松田 協輔
同三十年十二月八日	同三十一年十二月八日福井地方裁判所檢事正ニ補セラル	妹澤 政雄
同三十一年十二月八日	同三十三年六月六日退職ヲ命セラル	立木 頼三
同三十二年五月二十三日	同三十四年四月十二日東京地方裁判所檢事ニ補セラル	兼重 次郎
同三十三年六月六日	同三十三年十月十二日大阪控訴院檢事ニ補セラル	小川 正治
同三十三年十月十二日	同三十九年七月十六日静岡地方裁判所檢事正ニ補セラル	黒川 穰

賞罰

同三十四年四月十二日	同三十七年五月四日神戸地方裁判所檢事ニ補セラル	三濱 長一郎
同三十七年五月四日		小川 正治
同三十八年四月一日	同四十年九月二日廣嶋地方裁判所檢事ニ補セラル	守津 忠郎
同三十九年七月十六日	同四十一年三月二日高知地方裁判所檢事正ニ補セラル	阿部 義彰
同四十年九月二日	同四十一年二月十二日廣嶋地方裁判所檢事ニ補セラル	吉良 辰次郎
同四十一年二月十二日		守津 忠郎
同四十一年六月五日		安達 駿三郎

明治二十九年六月十五日明治二十七八年戦役ノ功ニ因リ高等官及ヒ判任官一  
 同ニ賞與ヲ賜ハル  
 四十年八月二十三日明治三十七八年戦役ニ付功勞アリシ判事檢事書記長ニ賞  
 與ヲ賜ハル

職員 賞罰

同年九月院長一瀬勇三郎職務上ノ義務ニ違背シタル廉ニ因リ大審院ニ於ケル懲戒裁判所ニ於テ六ヶ月間年俸月割額三分ノ一ノ減俸ニ處セラレ  
 同年十二月九日明治三十七八年戰役ニ付功勞アリシ書記ニ賞與ヲ賜ハル  
 四十一年十一月十二日同上雇員ニ賞與ヲ賜ハル

民事

明治十五年四月二十六日控訴上告手續ヲ改正シ控訴ノ期間ヲ二ヶ月ト定メラ

ル二二號  
布告第

同年八月二日民事裁判上檢證ヲ要スル場合ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケシメラル  
司法省達第  
四五七一號

十六年十二月七日民事遲不參罰金ノ換刑ハ民事裁判所ニ於テ之ヲ言渡スコト  
 定ム  
當廳  
決議

十七年一月二十三日民事訴訟用印紙規則ヲ定メ訴訟用罫紙規則ヲ廢セラル  
布告第  
五號

同年二月十九日民事訴訟ニ付本人出頭シ難キモノハ代理人ニ代理ヲ委任シ若

シ代言人ニ委託シ難キ事情アル者ハ裁判所ニ願出テ許可ヲ受ケシム  
當廳  
決議

同年三月五日民事訴訟ニ關シ差出スヘキ書類ハ都テ美濃紙又ハ美濃紙ト同幅

ノ紙ヲ用井シムルコトトシ又書類認料翻譯料ノ額ヲ定メラル  
司法省告示  
甲第一號

十九年五月四日控訴院事務取扱内規ヲ定メ民事事務ハ一事件毎ニ專理員ヲ設

ケ報告書ヲ作り且裁判言渡書ヲ作ラシム  
當廳  
決議

二十一年十一月二十七日民事諸願伺書ノ副本ヲ差出サシムルヲ廢ス但シ裁

判ノ説明願民事解認及ヒ願下書刑事控訴及ヒ上告願下書ハ此限ニアラス  
當廳  
決議

二十三年二月十九日民事ニ付召喚ヲ受ケタル者之ニ應セサルトキハ警察官ヲ

シテ之ヲ引致セシムル慣例アレトモ證人ノ如キ其必要アルモノヲ除ク外一

切引致スルヲ禁セラル  
司法省民第  
一二五四號

同年三月二十七日民法中財産編財産取得編債權擔保編證據編并ニ民事訴訟法

商法ヲ公布シ民法ハ二十六年一月一日民事訴訟法及ヒ商法ハ二十四年一月

九七

一日ヨリ之ヲ施行スルコト、定メラル法律第二八號第一二九號第三二號  
同年六月十六日裁判所ノ召喚ヲ受ケ遲參又ハ不參スル者ニ對スル處分法ヲ廢  
セラル法律第四二號

同年七月十六日民事訴訟法施行條例ヲ公布セラル法律第五〇號

同年八月十五日民事訴訟費用法民事訴訟用印紙法商事非訟事件印紙法ヲ公布  
シ二十四年一月一日ヨリ施行スルコトト定メラル法律第六四號第六五號第六六號

同年十月六日法例及ヒ民法中財産取得編人事編ヲ公布シ二十六年一月一日ヨ  
リ施行スルコトト定メラル法律第九七號第九八號

同年十一月十五日御紋章及ビ天皇ノ名ニ於テノ七字ヲ印刷セシ民事判決言  
渡書用紙ヲ作り憲法有効ノ日ヨリ使用セシメラル司法省總第九〇號

同年十二月二十六日商法及ヒ商法施行條例ノ施行ヲ二十五年十二月三十一日  
マテ延期セラル法律第一〇八號

同月二十七日民事訴訟ニ關スル書式草案ヲ配付シ成ルヘク之ニ準據セシメラ  
ル司法省總第一三〇號

二十四年二月二十六日民事判決言渡書用紙ヲ改正シ御紋章及ヒ「天皇ノ名  
ニ於テ」ノ文字ヲ削ラル司法省刑甲第五二號

同年四月十三日民事訴訟書類送達費用取扱手續ヲ定ム常關決議

同年七月一日民事訴訟法ニ基ク郵便送達ハ姑ク實行ヲ停メラレシカ此日ヨリ  
之ヲ實行セシメラル司法省民第九五號

同年九月十六日裁判所及ヒ檢事局事務章程中ニ判事臨檢スヘキトキハ直近監  
督上官ノ認可ヲ受クヘシ但シ緊急ノ場合ニ於テハ臨檢ノ後報告スヘシト規  
定セラル

同年十一月二十四日民法商法商法施行條例及ヒ法例修正ノ爲メ二十九年十二  
月三十一日迄施行ヲ延期セラル法律第八號

同年十二月七日民事訴訟記録編綴凡例ヲ定ム常關決議

同月六日商法及ヒ商法施行條例修正ニ係ル商事會社共算商組合手形小切手破  
産等ノ條項ハ七月一日ヨリ之ヲ施行スルコト、定メラル法律第九號

二十六年三月三日辯護士法ヲ公布セラル法律第七號

二十九年四月二十三日民法第一編乃至第三編ヲ公布シ民法財産編財産取得編  
 債權擔保編證據編ハ之ヲ廢セラル法律第八九號  
 同年十二月二十八日商法總則第一編第一章乃至第五章第七章乃至第十一章及  
 ヒ第二編法例民法財産取得編人事編及ヒ其施行ニ必要ナル法律ハ三十一年  
 六月三十日迄施行ヲ延期セラル法律第九四號  
 三十一年六月十五日民法第四編及ヒ第五編ヲ公布シ民法第一編乃至第三編ト  
 共ニ七月十六日ヨリ施行セラル而シテ民法財産取得編及ヒ人事編ハ之ヲ廢  
 セラル法律第九號  
 同日法例ヲ改定シ七月十六日ヨリ施行スルコトト定メラル法律第一〇號  
 同日民法施行法ヲ公布セラル法律第一二號  
 同日人事訴訟手續法ヲ公布シ婚姻養子縁組及ヒ禁治産事件ニ關スル訴訟規則  
 ヲ廢セラル法律第一三號  
 同日非訟事件手續法ヲ改正セラル法律一四號  
 同年七月十四日訴訟用印紙ヲ廢シ代フルニ收入印紙ヲ以テセラル勅令第一四〇號

三十二年二月七日供託法ヲ公布シ供託規則ヲ廢セラル法律一五號  
 同年三月七日商法及ヒ商法施行法ヲ公布シ彙ニ公布セラレタル商法及ヒ商法  
 施行條例ハ破産ニ關スル部分ヲ除ク外之ヲ廢セラル法律第四八號  
 同月九日非訟事件手續法中ヲ改正セラル法律一號  
 三十三年一月十三日民事訴訟費用法中ヲ改正シ鑑定人又ハ通辯人ニ日當ノ外  
 特ニ相當ノ報酬ヲ給スルコトヲ得シメラル法律三號  
 同年三月二十六日民法施行法中ヲ改正セラル法律七一號  
 同年五月二十三日民事刑事ニ關スル用紙ヲ定ム當院決議  
 三十四年四月十二日民法第三百七十四條ニ一項ヲ追加セラル法律三六號  
 三十五年二月二十四日訴訟關係人ヲシテ出頭名刺ヲ差出サシムルヲ廢ス當院決議  
 同年四月四日民法第七百四十三條ニ二項ヲ追加セラル法律三七號  
 三十七年三月三十一日非常特別稅法ヲ公布シ民事訴訟及ヒ商事非訟事件ノ印  
 紙ヲ増貼セシメラル法律三號  
 三十九年三月一日非常特別稅法中ヲ改正シ同法ノ効力ヲ永久ニ有タシメラル

刑事

明治十六年十一月十二日刑法附則中證人鑑定人等旅費日當ノ額ヲ改正セラル

三九號

十八年一月六日輕罪ニ付控訴ヲ許シ其規則ヲ定メ控訴ヲ爲サントスルモノハ

裁判費用ノ保證トシテ金十圓ヲ豫納セシメラル布告第  
二號

十九年六月九日罰金及ヒ追徴ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲サントスルトキハ

罰金及ヒ追徴金ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ上告狀ニ添ヘテ原裁判所ノ書

記局ニ預ケ置カシメ若シ上告不當ナルトキハ之ヲ沒收スルコトト定メラル

勅令第  
四六號

二十三年二月八日重罪控訴豫納金規則ヲ公布シ重罪ノ刑ヲ言渡サレタル者控

訴ヲ爲サントスルトキハ裁判費用ノ保證トシテ金二十圓ヲ豫納セシメ其資

困ニシテ保證金ヲ豫納スル能ハサル者ハ控訴申立ト同時ニ保證金免除ノ請

求ヲ爲スコトヲ得シメラル法律第  
七號

同年三月十日刑事訴訟法ヲ定メ十一月一日ヨリ之ヲ施行スルコトトシ治罪法

ヲ廢セラル法律第  
九六號

二十四年五月二十六日刑事訴訟記録ハ檢事局ニ於テ保管スルコトトナリ此日

廣嶋重罪裁判所ノ保管ニ係ル一切ノ記録ヲ檢事局ニ引繼ク

二十八年三月二十四日山口縣赤間關市外濱町路上ニ於テ群馬縣邑樂郡大曾村

平民小山豐太郎トイフ者清國媾和全權大使李鴻章ヲ狙撃シ其面部ヲ傷ク犯

人ハ直ニ逮捕セラレ山口地方裁判所ノ豫審ニ付セラル翌日檢事長野崎啓造

同裁判所ニ出張ス同月三十日同裁判所ニ於テ公判ヲ開キ審理ノ末謀殺未遂

犯トシテ被告人ヲ無期徒刑ニ處ス

同年十月二十七日韓國王妃事件ニ付豫備陸軍中將子爵三浦梧樓等ヲ謀殺及ヒ

兇徒聚衆被告人トシテ廣嶋地方裁判所豫審判事ノ令狀ニ依リ勾留ス豫審終

結ノ末免訴トナル

三十五年二月二十九日刑事ノ判決正本謄本及ヒ抄本料ハ四月一日ヨリ登記印



紙ヲ以テ之ヲ納付セシムルコトト定メラル司法省參刑  
甲第七三號

同年十二月一日刑事記錄編綴凡例ヲ定ム當廳  
決議

二十六年六月十二日刑事判決原本用紙ハ半紙野紙ヲ使用セシメラル司法省庶務  
第五八號

二十八年三月五日管内ニ於ケル證人鑑定人旅費日當宿泊料ノ額ヲ定ム證人ハ  
旅費一里ニ付六錢日當三十錢止宿泊料三十錢鑑定人ハ旅費一里ニ付六錢日當

四十錢止宿泊料三十錢醫師通譯人ノ旅費日當止宿泊料ハ臨時之ヲ定ム當廳  
決議

三十一年九月十四日刑事被告人ノ信書其他檢閱ヲ要スルモノハ總テ檢事ヲシ  
テ檢閱セシムルコト、定ム當廳  
決議

三十二年三月二十日刑事訴訟法中密室監禁ノ條項ヲ削除シ且其他ノ條項ヲ改  
正加除セラル法律第  
七三號

三十三年一月十三日刑法附則中ヲ改正シ鑑定人等ニ日當ノ外別ニ相當ノ報酬  
ヲ給スルコトヲ得シメラル法律第  
二號

同年三月二日重罪控訴豫納金規則輕罪控訴規則及ヒ罰金追徴ニ係ル上告豫納  
金ノ制ヲ廢セラル法律第二五號第  
二六號第二七號

同年四月二十七日辯護人辯護届ヲナスニ本人ノ連署ナク又委任狀ヲ添付セザ  
ルモノト雖トモ假リニ之ヲ有効トシテ受理スルコトト定ム但シ第一二審ニ

在リテハ公判開廷ノ時本人委任ヲ認メサルトキハ之ヲ無効トシ上告審ニ在  
テハ公判開廷前本人ノ委任狀ヲ提出スルカ又ハ委任アリシコトヲ證明スル

ニアラサレハ之ヲ無効トス當廳  
決議

同年六月二十五日刑事ニ關スル證人呼出狀ノ書式ヲ改正シ民事ニ關スル證人  
呼出狀ニ準シテ宛名ニ殿ノ字ヲ加フルコトト定ム當廳  
決議

同年十月三日刑事訴訟記錄浩濔ニ涉ルノ弊アルニ付豫審調書其他裁判所ニ於  
テ作製スヘキ書類ハ成ルヘク事件ニ緊切ノ關係アル事項ノミヲ記載スヘク

又事件ニ關係アル書類ト雖トモ必要ナラサルモノハ記錄ニ編綴セサルコト  
トシ屆メテ記錄ヲ簡約ナラシムヘキ方針ヲ執ラシム當廳  
訓令

三十八年三月三十一日刑ノ執行ヲ猶豫スルノ制ヲ定メラル法律第  
七號

四十年四月二十三日刑法ヲ改正セラル法律第  
四四號

四十年六月西條區裁判所管内伊豫國宇摩郡別子銅山ニ於テ坑夫等賃錢増額ノ

行ハレナルヲ憤リ多數糾合シテ暴動ヲ起シ勢猖獗ヲ極ム第十一師團ニ軍隊  
ノ派遣ヲ求メ纒ニ鎮定スルヲ得タリ松山地方裁判所長檢事正豫審判事等出  
張シテ事件ノ取調ヲ爲シ同月二十二日豫審ヲ終結シ同年十二月二十日松山  
地方裁判所ニ於テ公判ヲ開キ被告人ノ中十名ヲ重罪ノ刑ニ二十名ヲ輕罪ノ  
刑ニ處シ五名ニ無罪ヲ言渡シタリ越テ四十一年一月十七日有罪ノ判決ヲ受  
ケタル被告人ノ中十三名ヨリ當院ニ控訴ヲ申立テタレトモ審理ノ末五月十  
三日控訴棄却ノ判決ヲ言渡シタリ

四十一年一月二十二日保釋保證金ノ取扱ヲ檢事局ノ管掌ニ移ス當院  
決議

同年三月二十七日刑法施行法ヲ公布セララル法律第  
二九號

同年六月二十七日刑法施行期日ヲ四十一年十月一日ト定メララル勅令第一  
六三號

同月三十日刑事訴訟法中ヲ改正セララル法律第  
六一號

庶務

明治十五年一月一日當裁判所開庭式ヲ行フ

同日昇廳時限ヲ午前九時退廳時限ヲ午后三時訴狀提出時限ヲ午前十一時ト定  
ム以後明治二十三年三月閣令ヲ以テ執務時間ヲ定メララル迄時々之ヲ變更  
シタレトモ一々記載セス當院  
決議

同月八日宿直心得ヲ假定シ宿直ハ等外吏員又ハ雇員在宅當番ハ判任官各一名  
ヲ以テ之ニ充テ宿直ヲシテ退廳後ニ於ケル廳内ノ取締及ヒ到來文書ノ取扱  
ヲ爲サシメ在宅當番ヲシテ宿直員ノ決シ難キ事項ヲ處分セシム又門候心得  
ヲ假定シ門候ヲシテ訴訟人ノ出頭時刻ヲ朱記シ捺印ノ上之ヲ訴  
訟口請ニ差出サシメ又其名刺ニ判事又ハ書記ノ捺印アリヤ否ヤヲ檢シ退出  
ヲ許否セシム當院  
決議

同年四月二十五日宿直ヲ爲シタル雇員ニ其翌日隨意退廳スルコトヲ許ス當院  
決議

同年八月二日代言人ニ限リ出頭名刺ナクシテ廳門ノ出入ヲ許ス當院  
決議

十六年十二月七日所長檢事長等ノ出京例期ヲ定メ所長ハ四月一日檢事長ハ十  
月一日ヲ期シ出京セシメララル

十七年二月十五日司法大輔河瀬眞孝當裁判所ヲ巡視ス

十八年一月二十六日門候及ヒ宿直ハ雇員ヲシテ輪番ニ之ヲ擔當セシム當廳決議  
 同年六月二十九日判任官ノ三大節參賀ハ所長ヲシテ之ヲ受ケシメラル司法省達第三一三七號  
 同年十月二十四日書類保存規程ヲ定メラル司法省丁第二二號  
 十九年七月一日裁判所處務規程ヲ定メラル其要項左ノ如シ司法省令四第八號

- 一 一年間ノ開廷日割ヲ豫定シ構内ニ揭示スルコト
- 一 廳内執務細則及ヒ雇員取締規則ヲ議定シ其他行政事務ニ關スル指定ノ事項ヲ議スル爲メ裁判官ノ總會議ヲ開クコト
- 司法省令及ヒ訓令ニ付施行細則ヲ議定スル爲メ臨時總會議ヲ開クコト
- 右ノ外毎年九月十五日前年ニ於ケル所轄裁判所ノ裁判事務成績ニ關シ  
 檢事長ノ報告ヲ聽キ弊害アラハ其匡正方法ヲ評決スル爲メ總會議ヲ開クコト
- 一 裁判所ノ長ハ其所轄裁判所裁判事務視察ノ爲メ其他必要ノ場合ニ於テ  
 司法大臣ノ認可ヲ受ケ出張又ハ巡回ヲナスコトヲ得
- 一 控訴院長ハ其廳及ヒ所轄裁判所ノ職員ニ對シ除服出仕ヲ攝行シ及ヒ例

規ノ賜暇ヲ許否スルコトヲ得

- 一 裁判所官吏ノ事務取扱ニ對スル抗告ハ其監督上官之ヲ判定シ最終ノ抗告ハ司法大臣之ヲ判定スルコト

同年八月六日廳中取締職務規定ヲ設ケ門候ヲ廢シ廳中取締四名ヲ置キ内一名ヲ取締長一名ヲ小使取締ト爲シ廳中ノ巡視及ヒ非常ノ警戒ヲ掌ラシメ又玄關番門衛及ヒ書類謄寫室ノ監視等ヲ擔當セシム當廳決議

同年十二月二日書記事務擔當内規ヲ設ク當廳決議  
 二十年一月二十二日裁判官檢察官會同巡視規程ヲ設ケ院長ハ二十一年ヨリ檢事長ハ二十年ヨリ各三年毎ニ四月一日ヲ期シ司法省ニ會同シ又院長ハ二十年ヨリ檢事長ハ二十一年ヨリ各三年毎ニ一回ツツ管内ヲ巡視スルコトト定メラル司法省令第四號

同年十一月十七日海軍將校地方官裁判官檢察官訪問規則ヲ定メ鎮守府所在地ノ控訴院長檢事長等赴任シタルトキハ鎮守府司令長官ト三十日以内ニ互ニ訪問セシメ又鎮守府所在地外ノ控訴院長檢事長等赴任シタルトキハ其海軍區

内ノ司令長官ト文書ヲ以テ互ニ訪問セシメラル司法省職務第一〇三九號  
 二十一年一月二十一日訴訟口ヲ書記局受付所ト改稱シ其執務内規ヲ設ケ書記  
 若クハ雇員ヲ受付所ニ置キ書類ノ受付及ヒ應接ヲ掌ラシム當廳決議  
 同年七月十二日訴訟人ニ通門届ヲ差出サシムルヲ廢シ出頭名刺ノミヲ以テ廳  
 門ノ出入ヲ爲サシム當廳決議  
 同年十一月二十日門内ニ於テ一般下乗下馬ヲ許ス當廳決議  
 同日門衛ヲシテ訴訟人ノ出頭名刺ヲ檢シ之ニ捺印セシムルヲ廢シ訴訟人ノ出  
 入ヲ注視シ不審ノモノアラハ其氏名ヲ問ヒ出入ヲ許シ難キモノハ書記局ノ  
 指揮ヲ受ケシム當廳決議  
 同年十二月一日 天皇皇后兩陛下ノ御眞影ヲ奉戴ス同時ニ管内各始審裁判所  
 ヘモ下附セラル  
 二十二年二月十一日宮中ニ於テ憲法發布式ヲ行ハラレ院長檢事長ヲシテ之ニ  
 參列セシメラル  
 二十三年三月二十四日執務時間ヲ左ノ如ク定メラル閣令第二號

四月二十日ヨリ七月十日マテ 午前八時ヨリ午後三時ニ至ル

七月十一日ヨリ九月十日マテ 午前八時ヨリ午後十二時ニ至ル

九月十一日ヨリ翌年四月十九日マテ 午前九時ヨリ午後四時ニ至ル

但日曜日土曜日ハ從前ノ通(明治九年三月太政官達第二十七號ヲ以テ一六日ノ休暇ヲ廢シ日曜日ヲ休暇トシ土曜日ハ正午ヨリ休暇ト定メラル)

同年四月十日山田司法大臣當院ヲ巡視セラル

同年十月二十二日判事檢事書記ノ訟廷ニ於ケル服制ヲ定メラル勅令第二〇六號

同年二十八日檢事局判任官ノ三大節參賀ハ別ニ檢事長ヲシテ之ヲ受ケシメラ

ル司法省職中第七八〇號

二十四年二月二十二日當院庶務科執務細則ヲ定ム當廳決議

同年三月二十三日廳中取締職務規程ヲ改正シ廳中取締五名ヲ置キ内一名ヲ取

締長トス當廳決議

同年四月十三日控訴院并ニ檢事局書記規則草案ヲ配布シ成ルヘク之ニ依ラシ

メラル其要項左ノ如シ司法省總第二三號

一 各事務室ニ備付ノ什器目錄ヲ掲クヘキコト

庶務

- 一 毎日二時間以上ノ書記應接時間ヲ定メ構内ニ揭示スヘキコト
- 一 應接時間外書類ヲ差出ス者ニ便スル爲メ院内便宜ノ場所ニ書類受付函ヲ設クヘキコト
- 一 開廷期日ニハ開廷スヘキ事件ノ順序表ヲ構内ニ揭示スヘキコト
- 一 民事刑事ニ關スル書類ハ一件毎ニ集メテ記録ヲ作ルヘク同種ノ事件ニ關スル書類ハ類聚記録又ハ庶務記録ト爲スヲ得ヘキコト
- 一 訴訟事件ノ種類ニ從ヒ假名ヲ以テ符號ヲ定メ其符號ト事務年度トヲ順次番號ニ冠シテ記録號ヲ作ルヘキコト
- 一 庶務記録ニ付テハ庶務記録帳簿ノ節(書類ノ種別ニ依リ數節ニ分ツ)ノ數字及ヒ其番號ヲ以テ記録號トナスヘキコト
- 一 檢事局書記課ニ於テ記録ヲ作リタル事件ハ控訴院ニ於テモ亦檢事局ノ記録號ヲ用ユヘキコト
- 一 書記ト執達吏トノ委任授受ニ付書記課ニ鎖鑰アル書函ヲ設ケ書記執達吏各其鍵ヲ保管シ直ニ執行スヘキ委任ノ外ハ書類ヲ書函ニ差入レテ委

任ヲ爲スヘキコト

- 同年四月十六日宿直及ヒ在宅當番ニ關スル規則ヲ改正シ宿直ニ於テ受付ケタル文書ハ總テ其紙端ニ受付ノ月日ヲ朱記シ認印セシム當廳決議
- 同年五月二日受付手續ヲ設ケ書記ノ應接書類ノ受付及ヒ書類受付函ニ關スル手續ヲ定ム當廳決議
- 同年九月十六日裁判所處務規程ヲ廢シ裁判所及ヒ檢事局事務章程ヲ設ケラル職員ノ進退身分ニ關スル規定ヲ削リ定期總會議ノ期ヲ毎年二月ト改メラレタル外舊規程ト大差ナシ司法省令第四七號
- 同月二十二日裁判所職員ノ進退身分ニ關スル訓令中ニ左ノ如ク規定セラル司法省令第二八四號
- 院長ハ其應ノ職員及ヒ管内裁判所ノ高等官ニ對シ除服出仕ヲ擧行シ及ヒ例規ノ賜暇ヲ許否スルコトヲ得
- 檢事長ノ其局及ヒ管内下級檢事局ノ職員ニ於ケルモ亦同シ
- 二十四年九月二十四日裁判官檢察官會同巡視規程ヲ廢セラル司法省訓令第一〇號

同年十一月六日庶務科執務細則ヲ改正ス當院決議  
同月十三日宿直セシ者其翌日午前十時ヨリ隨意退廳シ得ヘキ規定ヲ廢ス當院決議  
同年十二月三日庶務科執務細則中ヲ改正ス當院決議

二十五年四月七日巡回出張招集規程ヲ定メラル其要項左ノ如シ司法省職秘 第三三〇號  
控訴院長檢察長ハ司法大臣ノ認可ヲ得テ管内ヲ巡回シ又ハ地方裁判所長

檢事正ヲ招集スルコトヲ得

區裁判所判事檢事ハ控訴院長又ハ檢察長ノ認可ヲ得テ出張スルコトヲ得

同年六月二十五日裁判所揭示場ハ其門前ニ設置セルモノ、外之ヲ撤去セシム

同年十一月九日裁判所及ヒ檢事局職員ノ進退身分ニ關スル規定中ヲ改正シ院

長檢察長其廳及ヒ管内裁判所ニ於ケル高等官ニ對シ例規ノ賜暇ヲ許否スル

ヲ廢セラル司法省職秘 第一〇八三號

同年十一月二十二日執務時間ヲ左ノ如ク改正セラル閣令第六號

四月二十日ヨリ七月十日マテ 午前八時ヨリ午後四時ニ至ル

七月十一日ヨリ九月十日マテ 午前八時ヨリ午十二時ニ至ル

九月十一日ヨリ翌年四月十九日マテ 午前九時ヨリ午後五時ニ至ル

但土曜日日曜日ハ従前ノ通

同年十二月八日庶務科執務細則中ヲ改正ス當院決議

二十六年二月十五日軍防ノ必要上製艦費ノ補足ニ充ツル爲メ是年四月以降六

年間文武官及ヒ雇員俸給中ヨリ其十分ノ一ヲ國庫ニ納付セシメラル勅令第五號

同年十月二十二日司法次官清浦奎吾當院ヲ巡視ス

二十七年一月十六日廳中取締員職務規定中ヲ改正ス當院決議

同日宿直及ヒ在宅當番ニ關スル規則ヲ改正ス同上

同日受付手續中ヲ改正ス同上

同日庶務科執務細則中ヲ改正ス同上

同年三月九日 大婚二十五年祝典ニ付キ院長檢察長ハ判任官一同ノ參賀ヲ受

ケ言上ス此日高等官ニ五拾錢ツ、判任官ニ貳拾五錢ツツノ酒饌料ヲ賜ハル

同年四月七日守衛門候訴訟口詰小使等ノ名稱ヲ廢シ總テ廷丁ヲシテ擔當セシ

メラル司法省職秘 第八二五號

同年八月二十八日日清戰役ニ付當院高等官ハ俸給百分ノ二判任官ハ同百分ノ一ヲ恤兵ノ爲メ寄附シタリ

同年九月十二日裁判所檢事局職員ノ進退身分ニ關スル監督官權限ヲ改正セラ  
ル舊規定ト大差ナシ司法省職秘第  
一六六〇號

同月十五日大本營ヲ廣島ニ進メラル

同年十月六日廣島及ヒ宇品ヲ臨戰地境ト定メ戒嚴ヲ行ハル然レトモ司令官ハ

軍事ニ關スル司法事務ヲ管掌スルニ至ラス

同年十一月三日天長節ニ付キ高等官一同大本營ニ參賀ス此日午后四時西練兵

場臨時帝國議會假議事堂ニ於テ高等官一同ニ酒饌ヲ賜ハル

二十八年二月二十日宿直及ヒ在宅當番ニ關スル規則中ヲ改正ス當院  
決議

同年四月廿七日大本營ヲ東京ニ復セラレ

同年六月二十日戒嚴ヲ解カル勅令第  
七六號

同年七月三十日庶務記録整理順序ヲ定メ管内各裁判所ノ庶務記録整理手續ヲ

一定ス當院  
訓令

同年十月十四日庶務記録整理順序ヲ改正シ管内各裁判所ニ用井ル簿冊ノ種目  
ヲ一定ス當院  
訓令

同年十月二十九日執務時間ヲ左ノ如ク改正セラレ閣令第  
六號

九月十一日ヨリ十月三十一日マテ 午前八時ヨリ午後四時ニ至ル

十一月一日ヨリ翌年二月末日マテ 午前九時ヨリ午後四時ニ至ル

三月一日ヨリ七月十日マテ 午前八時ヨリ午後四時ニ至ル

七月十一日ヨリ九月十日マテ 午前八時ヨリ午十二時ニ至ル

但土曜日日曜日ハ從前ノ通り

二十九年二月十五日裁判所檢事局事務章程中ヲ改正セラレ司法省職秘  
第八二號

同年五月大審院檢事總長春木義彰當院ヲ巡視ス

同年六月八日庶務記録整理順序中ヲ改正ス當院  
訓令

同月九日宿直及ヒ在宅當番ニ關スル規則ヲ改正シ書記雇員各壹名ヲシテ宿直

ヲ爲サシム當院  
決議

同月十八日庶務科執務細則中ヲ改正ス當院  
決議

同年十月二十一日庶務科執務細則中ヲ改正ス當院決議  
三十年一月十二日 皇太后陛下崩御ニ付キ喪章ヲ定メ喪期間職員ハ黑色ノ布

片ヲ左腕及ヒ帽ニ纏ヒ黑襟飾ヲ用井又制服ヲ着クルニ付テモ黑色ノ布片ヲ  
帽ニ纏ハシメラル内閣告示第二號  
司法省告示第二號

同年一月三十日 御葬送ニ付二月二日同七日同八日事務休停仰出サル内閣告示  
第四號

同年二月八日 御葬送ニ付院長檢察長ニ大宮御所月輪山御齋場間ノ供奉ヲ命

セラル

三十一年一月十一日 英照皇太后御一周年祭ニ付事務休停仰出サル内閣告示  
第一號

同年四月十一日司法次官横田國臣當院ヲ巡視ス

同月二十三日控訴院長檢察長鎮守府又ハ要港部所在地方ニ赴任シタルトキハ

鎮守府司令官又ハ要港部司令官ニ其旨ヲ通知シ三十日以内ニ之ヲ訪問スヘキ

ク又同司令官ヨリ着任ノ通知ヲ受タルトキハ三十日以内ニ之ヲ訪問スヘキ

コト、定メ海軍將校地方官裁判官檢察官訪問規則ヲ廢セラル司法省職第  
六三五號

三十二年一月二十八日司法省訓令回答等ヲ纏メタル通牒ト題スル冊子ノ發行

ヲ廢シ之ニ掲載シ來リタル事項ハ總テ法曹會發行ノ法曹記事ニ掲載セシメ  
ラル

同年五月司法次官波多野敬直當院ヲ巡視ス

同年六月九日裁判所及ヒ檢事局職員ノ進退身分ニ關スル監督官權限中ヲ改正

シ院長檢察長ヲシテ其廳並ニ管内裁判所及ヒ其檢事局高等官ニ對シ例規ノ

賜暇ヲ許否セシメラル司法省職第  
四二六〇號

同年九月一日通譯掛ヲ裁判所書記課ニ置キ其掌務規定ヲ定メ外國語通譯及ヒ

外國人應接ヲ掌ラシメ其通譯掛ヲ置カサル裁判所又ハ檢事局ニ於ケル通譯

事務ハ通譯掛ヲ置キタル最近裁判所ノ通譯掛ヲシテ之ヲ取扱ハシメラル司  
法省職第  
〇八七號

同年十一月二十四日當院書記規則ヲ設ケ書記課ヲ分チテ中央部民事部刑事部

會計部ノ四トナシ各部ニ備フヘキ簿冊ノ種目事務取扱ノ手續及ヒ宿直ニ關

スル事項ヲ規定ス當院  
決議

同年十二月二日裁判所及ヒ檢事局事務章程中總會議ノ期ヲ三月ト改メララル



司法省職秘第  
三九四一號

三十三年四月 皇太子殿下御婚儀奉祝ノ爲メ全國司法官共同シテ銀製花瓶ヲ

獻上スルノ議アリ當院高等官モ亦此學ニ加ハリ年俸千分ノ三ヲ釀出ス

同年五月十日 皇太子殿下御婚儀ヲ行ハセラレ院長檢事長及ヒ其夫人ヲ召サ

セラル判任官一同當院ニ參賀ス此日諸官員ニ休暇ヲ賜ハル

同年五月二十三日司法行政ニ關スル用紙ヲ定ム當院決議

同年六月五日海軍訪問規則ヲ廢シ事ノ關係上司法官ヨリ海軍官憲ヲ訪問シテ

禮意ヲ表スヘキ場合ハ之ヲ訪問スヘク又海軍官憲ヨリ訪問ヲ受ケタルトキ

ハ改正海軍訪問規則第十條ニ準シ回訪スヘキコトナル司法省職秘  
第五七六號

三十四年二月二十五日判檢事増俸案否決ニ關シ官紀ニ觸ルヘキ行爲アル可ラ

サル旨判檢事ヲ戒飭セラル司法省職秘  
第一八三號

是ヨリ先院長ハ判檢事増俸案否決ノ爲メ管内判檢事激昂セルヲ以テ屢司法

大臣ニ具申書ヲ差出シ善後策ヲ講センコトヲ促シ且自ラ上京シテ親シク陳

情獻策セントシタレトモ遂ニ上京ヲ許サレサリキ

三十四年五月十日司法書記官岩原性一事務視察ノ爲メ當院ニ出張ス

三十五年一月十日管内地方裁判所及ヒ區裁判所書記事務規程ヲ定メ書記ノ事

務取扱ヲ一定ス當院訓令

同年二月二十六日宿直ハ書記一名ヲシテ之ヲ勤務セシムルコトト改ム當院決議

三十六年四月十一日司法省參事官河村讓三郎事務視察ノ爲メ當院ニ出張ス

同年七月九日當院書記規則中ヲ改正シ天災其他已ムヲ得サル重大ノ事故アル

トキハ宿直員ニ外出スルヲ得セシム當院決議

同日暑中休暇中當直書記ヲシテ其責任ヲ以テ一時雇員ニ事務ヲ補助セシムル

コトヲ得セシム當院決議

三十六年十月三十日出張巡回招集規程中ヲ改正シ院長及ヒ檢事長出張又ハ巡

回ヲ爲シ所長又ハ檢事正ヲ招集スルニ付認可ヲ受クルヲ要セサルコト、シ

又院長及ヒ檢事長ノ權限中區裁判所判檢事ノ出張ヲ許否スル權ヲ地方裁判

所長及ヒ檢事正ノ權限ニ移サル司法省職秘  
第二〇號

三十七年九月二十八日高等官及ヒ判任官一同ヨリ恤兵金トシテ陸軍ニ四十五

圓海軍二十圓五十錢ヲ寄附ス

同年十二月十三日出張及ヒ除服出仕ヲ命スルニ辭令ノ形式ヲ用井ルヲ廢セラ

ル司法省職參  
第一〇六號

三十八年十一月四日廷丁ノ不寢番ヲ廢シ午後十一時限リ就寢スルヲ得セシム

當廳  
決議

四十一年十二月二日勳章褫奪令施行細則ヲ定メ勳章褫奪令第一條第二項ニ依

レル勳章其他ノ沒取處分ハ賞勳局總裁ノ囑託アリタルモノト看做シ當該裁

判所ノ長官ヲシテ之ヲ行ハシメラル閣令第  
二號

同年十二月二十五日 御眞影奉揭順序ヲ定ム當廳  
決議

四十二年一月二十三日管内下級裁判所ヨリ當院ニ提出スヘキ刑事々件表様式

ヲ定ム當廳  
訓令

### 會計

明治十五年一月開應當時ニ於ケル會計事務ハ司法省ノ直接管理ニ屬シ屬官及

ヒ等外吏ヲ派シテ之ヲ處理セシメラレタリ

同月二十六日三井銀行廣島出張店ヲシテ當廳ノ現金ヲ取扱ハシム當廳  
決議

同年六月三日諸上納金ヲ現金ニテ受取ルヲ廢シ三井銀行廣島出張店ノ預券ヲ

以テ之ヲ納メシム當廳  
決議

十六年三月一日始メテ會計ニ洋式ノ簿記ヲ用ユ

同日三井銀行廣島出張店ヲシテ當廳現金ヲ取扱ハシムルヲ廢シ安田銀行代理

店廣島第四百四十六國立銀行ヲシテ之ニ代ラシム當廳  
決議

十七年十月二十八日會計年度七月一日ヨリ翌年六月三十日迄ナリシヲ改メ四

月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トナシ十九年度ヨリ之ヲ施行セラル太政官達  
第八九號

同年十二月十三日會計事務ハ司法省會計局ノ管理ニ屬スレトモ尙所長ヲシテ

之ヲ監視セシメラル司法省達第  
五六七九號

同日交際費トシテ金二百五十圓ヲ配付シ廳費中ニ其目ヲ設ケ實費ヲ以テ計算

セシメラル司法省達第  
五四一四號

十九年二月二十六日會計事務ヲ司法省ニ於テ直接管理スルヲ廢シ各裁判所長

### 會計

ニ收支命令ノ事務ヲ委任シ會計主務官吏ヲ置キ職掌及ヒ處務規程ヲ定メラル其要項左ノ如シ司法省會第 二四五號

控訴裁判所長

其廳ノ收支命令ヲ掌リ且管内始審裁判所ノ會計事務ヲ監理ス

會計主務官吏

其廳ノ出納保管營繕及ヒ管内裁判所ノ精算整理ヲ掌ル

歲出入豫算

控訴裁判所長ハ會計主務官吏ト協議ノ上管内各廳ヲ總括シタル豫算表ヲ作り司法大臣ニ提出ス

歲出豫算中控訴裁判所及ヒ管内各廳ニ於ケル各節ノ流用ハ控訴裁判所長會計主務官吏ト協議ノ上之ヲ決行シ目以上ノ流用ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ決行ス

營繕

現在ノ規模ヲ變更セサル小修繕ハ各廳之ヲ決行シ坪數ニ異動ナキ摸

樣替修繕ハ控訴裁判所長之ヲ決行シ坪數ノ増減及ヒ改築新營ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ決行ス

同年三月二十五日經費科目及解疏ヲ達セラル科目ハ爾後毎年達セラレタレトモ一々記載セス司法省會第 一一八號

同年六月九日內國旅費規則ヲ改定セラル閣令第 一四號

二十一年十月二十三日會計處務規程ヲ改正セラル改正ノ要項左ノ如シ司法省總 第一九號

各裁判所ノ臨時ノ須要ニ應スル爲メ經費豫算ノ幾部ヲ豫備費トシテ司法省ニ保管ス

控訴院長ハ豫算合達ノ區別ニ從ヒ管内各始審裁判所長ニ之ヲ傳達ス

各目ノ流用ハ控訴院長之ヲ決行ス

二十二年一月十五日官舍貸渡内規ヲ定メタル司法省會 甲第九號

同年二月十一日憲法ノ發布ニ因リ歲入歲出ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要シ其決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ヨリ議會ニ報告スヘキコトトナル

同日會計法ヲ公布セララル此時始メテ政府ノ支拂金及ヒ人民ノ上納金ニ付期滿  
免除ノ制ヲ設ケ其期限ヲ各五年ト定メラル法律第  
四號

同年三月十日文具料支給規則ヲ定メ毎月委任官以上ニ二十錢判任官以下ニ二

十五錢ヲ支給セララル司法省會檢甲  
第二二六號

同年三月二十一日會計處務規程ヲ改正セララル其要項左ノ如シ司法省總  
第二二號

分任收支命令官

控訴院書記官ヲ以テ之ニ充ツ控訴院及ヒ管内各裁判所ニ於ケル恒例  
ノ收支ヲ會計主務官ニ命令シ兼テ精算整理ノ事務ヲ監理ス

會計主務官

會計專務ノ書記中ヨリ之ヲ選任ス

控訴院書記官ノ命ヲ受ケ恒例ノ收支ヲ執行シ精算整理保管及營繕ノ  
事ヲ掌理ス

會計吏員ノ進退

控訴院以下會計專務書記ノ進退ハ控訴院書記官司法省會計局長ト連

署ノ上司法大臣ニ之ヲ上申ス但シ雇員ノ進退ハ控訴院書記官之ヲ決  
行ス

會計整理上ノ必要アルトキハ控訴院書記官ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ  
會計吏員ヲ招集シ又ハ出張セシムルコトヲ得

控訴院書記官ハ毎年九月會計專務書記ノ考績ヲ司法大臣ニ報告ス  
歳出入豫算

控訴院書記官ハ其院ノ歳出入豫算表ヲ作り且管内始審裁判所ノ豫算  
表ヲ審査シ更ニ總括豫算表ヲ作りテ司法大臣ニ提出ス

控訴院書記官歳出入豫算ノ令達ヲ受ケタルトキハ其區分ニ從ヒ其院  
及ヒ始審裁判所ノ會計主務官ニ之ヲ傳達ス

歳出豫算中始審裁判所會計主務官目以上ノ流用ヲ要スルトキハ控訴  
院書記官ニ之ヲ請求シ控訴院書記官其事由ヲ相當ナリト認ムルトキ  
ハ司法大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ決行ス若シ控訴院書記官流用ヲ必要ナ  
ラスト認ムルトキハ請求ヲ拒絕スルコトヲ得

控訴院ニ於ケル目以上ノ流用ハ控訴院書記官司法大臣ノ認可ヲ受ケ  
之ヲ決行ス

營繕

各廳現在ノ規模ヲ變更セサル修繕ハ控訴院書記官之ヲ許否シ新營并  
ニ現在ノ規模ヲ變更スヘキ修繕ハ司法大臣ノ認可ヲ受クルヲ要ス

同年五月三十日會計規則ヲ公布セラル勅令第六〇號

同年六月十一日物品會計規則ヲ定メラル勅令第八四號

同年九月二十四日物品出納順序ヲ定メラル司法省會檢甲第六一六號

同月二十六日常用備品種目價格保存期限及ヒ其取扱手續ヲ定メラル司法省會檢甲第六一八號

同年十一月二十四日官有財産管理規則ヲ定メラル勅令第七五號

二十三年三月十三日會計處務規程ヲ改正セラル其要項左ノ如シ司法省會檢甲第一四二號

裁判所ノ會計事務ヲ控訴院管轄ノ七區ニ分チ歲出ノ仕拂及ヒ歲入ノ納入

告知書發行ノ事務ヲ控訴院書記官ニ分任シ且一切ノ會計事務ヲ監理セシム

出納官吏

會計主務官

控訴院會計部書記ノ中ヨリ撰擇シテ司法大臣之ヲ命ス

收入官吏

同上

會計吏員ノ進退

控訴院以下會計部書記ノ進退ハ控訴院書記官之ヲ司法省會計局長  
ニ協議ス

控訴院會計部員ノ例規ノ賜暇及ヒ會計部雇員ノ進退ハ控訴院書記  
官之ヲ攝行シ其始審裁判所以下各廳ニ係ルモノハ始審裁判所會計  
部上席書記ノ申立ニ因リ控訴院書記官之ヲ攝行ス

備人ノ進退ハ控訴院書記官之ヲ決行ス但シ門衛玄關番訴訟口詰ノ  
備人ニ付テハ控訴院長ノ意見ヲ聽キ之ヲ決行ス

會計吏員ノ招集出張會計專務書記ノ考績報告ニ關スル規定ハ舊ニ  
同シ

會計

豫算

控訴院書記官ハ歳入概算書及ヒ月額金庫區分表ヲ調製シ前々年度  
二月十日限司法大臣ニ提出ス

控訴院書記官歳出支拂豫算ノ令達ヲ受ケタルトキハ其院及ヒ始審  
裁判所各廳ノ區分ニ從ヒ會計主務官及ヒ始審裁判所會計部上席書  
記ニ之ヲ傳達ス

甲乙始審裁判所ノ支拂豫算ヲ彼此流用セントスルトキハ控訴院書  
記官甲乙廳會計部上席書記ニ諮問ノ上承諾書ヲ徴シテ司法大臣ニ  
上申シ各廳ノ定額ニ増減ナキ各目ノ流用ハ控訴院書記官之ヲ執行ス

營繕

現在ノ規模ヲ變更セサル一廉費額百圓未滿ノ修繕ハ控訴院書記官  
之ヲ許否シ百圓以上ノ修繕ハ司法大臣ノ認可ヲ受クルヲ要ス  
新營又ハ現在ノ規模ヲ變更スル修繕建増等ハ金高ニ拘ラス司法大  
臣ノ認可ヲ受クルヲ要ス

同年三月二十二日領置物品保管規程ヲ定メラル司法省會檢甲  
第二〇四號

同月二十六日歳入金取扱規程ヲ定メラル司法省會檢甲  
第一三三三號

同月三十日官有財産出納順序ヲ定メ書記長ヲシテ官有財産ヲ保管セシメラル

司法省會檢甲  
第七一九號

同年四月十日保管物取扱順序ヲ定メラル司法省會檢甲  
第三七〇號

同年十月四日出納官吏現金取扱規則ヲ定メラル大藏省令  
第一三三號

同年十月二十五日歳入金取扱規程ヲ改正セラル司法省會檢甲  
第八三二號

同年十月三十日會計處務規程ヲ改正シ控訴院ニ於テ管内地方裁判所以下ノ會  
計事務ヲ處理スルヲ廢セラル規定ノ要項左ノ如シ司法省會檢甲  
第一三四二號

歳出支拂命令及ヒ歳入調定ノ事務ヲ書記長ニ分任ス

書記長ハ其廳會計事務ヲ監理ス

出納官吏ノ職務ハ司法大臣之ヲ命ス

給仕小使ノ如キ雜役者使用ニ關スル事項ハ會計部ニ於テ之ヲ執行ス但シ

廷下ハ此限ニアラス

會計

書記長ハ歲出概算書歲入概算書及ヒ其月額金庫區分表ヲ調製シ前々年度一月三十一日マテニ司法大臣ニ提出ス但シ歲出概算書ハ院長檢事長ノ承認ヲ經ルヲ要ス

仕拂命令官仕拂豫算ノ令達ヲ受ケタルトキハ會計主務官ニ之ヲ傳達ス仕拂命令官豫算各目ノ流用ヲ爲サントスルトキハ司法大臣ニ之ヲ具申ス營繕ニ付テハ現在ノ規模ヲ變更セサル金額百圓未滿ノ修繕ニ付院長檢事長ノ承認ヲ要スルコトナリタル外舊ニ同シ

二十四年三月二十八日夜勤辨當料及ヒ文具料ノ支給ヲ廢止セラル但シ宿直又ハ徹夜勤務ノ者ニハ適宜食料ヲ給與シ又特別用ノ文具ハ官廳ニ備ヘテ之ヲ使用スルヲ得シメラル勅令第 三三號

同年四月十三日判任官以下徹夜勤務スル者ニ五錢以内ノ食料ヲ給與セラル但シ宿直若クハ不寢番ヲ爲ス者ハ此限ニアラス司法省會檢 第八八二號

同年十月十九日判檢事及ヒ書記民事刑事ニ關シ出張スルモノノ旅費額ヲ定メ奏任官ハ車馬賃一里ニ付十二錢日當一圓判任官ハ車馬賃一里ニ付六錢日當

五十錢ヲ支給セラル但シ汽車賃汽船賃ハ普通旅費額ニ同シ司法省會檢 第一八六〇號

同日會計處務規程ヲ改正セラル其要項左ノ如シ司法省會檢 第一八六二號

院長ハ其廳ノ會計事務ヲ監理シ且管内地方裁判所ノ會計事務ヲ監督ス

檢事局ノ經費ハ裁判所ノ會計ニ屬ス檢事局ノ經費豫算ニ付テハ檢事長ノ

意見ヲ聽クヲ要ス

檢事長ハ出納官吏ノ帳簿金櫃其他會計ニ關スル書類物件ヲ査閱スルコトヲ得

院長ハ其廳及ヒ管内各廳ノ經費ヲ通覽シ其平均ト緩急トヲ量リ彼此融通ヲナシ又ハ各目及ヒ特ニ許シタル各節ノ流用ヲ攝行スルコトヲ得但シ檢事局ニ係ル經費ニ付テハ檢事長ニ協議スルヲ要ス  
歲入歲出ノ事務ハ左ノ職員ヲシテ之ヲ掌ラシム

歲入調定者

院長ニ分任ス但シ便宜ニ依リ書記長ニ委任スルコトヲ得

收入官吏

會計

書記ヲ以テ之ニ充テ院長任命ヲ攝行ス

歳出仕拂命令官

院長ニ分任ス

會計主務官

書記長ヲ以テ之ニ充テ司法大臣之ヲ命ス

物品出納ノ事務ハ左ノ職員ヲシテ之ヲ掌ラシム

物品出納命令官

院長ヲ以テ之ニ充ツ但シ便宜ニ依リ書記長ニ委任スルコトヲ得

物品會計官吏

書記ヲ以テ之ニ充テ院長任命ヲ攝行ス

物品検査官

書記長ヲ以テ之ニ充ツ

院長ハ官有財産ヲ保管ス

院長ハ歳入ノ概算書月額金庫區分表及ヒ歳出概算書ヲ調製シ前々年度一

月三十一日迄ニ司法大臣ニ提出ス

院長歳出豫算ノ令達ヲ受ケタルトキハ検事長ト協議ノ上一ケ年度ニ於ケル經濟ノ目的ヲ立テ其豫算額ヲ會計主務官ニ傳達ス

院長ハ其應ノ工事ニシテ一廉五百圓未満ノモノハ現在ノ規模ヲ變更スルト否トヲ問ハス之ヲ決行シ又管内裁判所ニ於ケル一廉五百圓未満ノ新營及ヒ現在ノ規模ヲ變更スヘキ工事ヲ許否スル權限ヲ有ス而シテ一廉五百圓以上ノ工事ニ付テハ司法大臣ノ認可ヲ受クルヲ要ス

同年十一月三十日物品出納順序ヲ改正セラシル司法省會檢甲 第二二五八號

同年十一月一日歳入調定及ヒ物品出納命令ノ事務ヲ書記長ニ委任ス

二十五年四月四日官吏ノ職務ニ從事セサル傭人ニ一直五錢ノ宿直料ヲ給セラシル司法省會檢甲 第三二〇號

同年九月二十八日當院會計事務細則ヲ定ム當院 決議

同年十一月二十六日民事刑事ニ關シ出張スルモノノ旅費額中判任官ノ車馬賃ヲ一里八錢ト改メラル司法省會檢甲 第一八六〇號



二十六年四月十九日守衛其他ノ被服規則ヲ改メ守衛ニ紺絨又ハ白小倉織マシ  
テ及ヒツボン帽子ヲ廷丁ニ紺又ハ白小倉織背廣及ヒツボン帽子ヲ小使ニ  
同背廣及ヒツボンヲ給セラル司法省會檢甲 第二八四號

同年九月二十日保管物取扱規程ヲ定メラル大藏省令 第二〇號

同年十月二十七日保管物取扱順序ヲ改正セラル司法省會檢甲 第六一四號

同年十二月十五日會計處務規程中ヲ改正セラル其要項左ノ如シ司法省會檢甲 第八七〇號

會計主務官ヲ廢ス

歳入概算書及ヒ月額金庫區分表歳出概算書ノ差出期限ヲ前年四月三十日

限ト定ム

管内裁判所ニ於ケル現在ノ規模ヲ變更スヘキ工事ニシテ一廉三百圓未滿

ノモノニ付テハ院長ノ認可ヲ受クルヲ要セス

同月二十三日常用備品消耗品ノ種目及ヒ價格制限ヲ改正セラル司法省會檢甲 第八九六號

同月二十八日出納官吏身元保證金取扱規程ヲ定メラル司法省會檢甲 第九四二號

同日歳入金取扱規程ヲ改正セラル司法省會檢甲 第八三二號

三十年三月二十三日備品消耗品ハ當分價格制限ノ五割増以内ヲ以テ購入スル  
コトヲ許サル司法省會檢 甲第七九號

同月二十六日判檢事書記民事ニ關シ出張スル旅費及ヒ日當額ノ制限ヲ廢セ  
ラル司法省會檢 甲第八五號

同年九月二十七日内國旅費規則ヲ改正セラル勅令第三 三三號

同年十月十六日民事ニ關スル出張若クハ一ヶ所滞在三十日以上ニ渉ル出張  
ニハ委任官ニ宿泊料一圓二十錢日當八十錢判任官ニ宿泊料六十錢日當四十

錢ヲ給セラル司法省會檢甲 第二九五號

三十一年九月十三日保管物取扱順序中ヲ改正セラル司法省會檢甲 第二六四號

三十二年四月十五日判任官及ヒ雇員ノ宿直ヲ爲スモノ又ハ徹夜勤務ヲ爲スモ  
ノニ七錢以内官吏ノ事務ニ從事セサル備人ニ同上五錢以内ノ食料ヲ給セラ

ル司法省會檢甲 第一〇九號

三十三年三月一日歳入金取扱規程中ヲ改正セラル司法省訓 令第一號

同年四月十八日會計處務規程中ヲ改正シ歳入測定者ヲ歳入徴收官ト改メ院長

ヲ支拂命令官書記長ヲ歳入徴收官ト定メラル司法省會檢甲 第一三二號  
 同月二十三日裁判所歳入金取扱規程ヲ改正セラル司法省會檢甲 第一三四號  
 同年七月二日工事又ハ物件ノ購入ニシテ無制限ノ競争ニ付スルヲ不利トスル  
 トキハ指名競争ニ付スルコトヲ得シメラル勅令第二 八〇號  
 三十四年四月十二日官有財産管理規則中ヲ改正セラル勅令第 五六號  
 同年五月二十五日會計處務規程中ヲ改正セラル著シキ變更ナシ司法省會檢甲 第二〇〇號  
 同日物品出納順序ヲ改正セラル司法省會檢甲 第二〇一號  
 三十五年十二月五日物品會計官吏身元保證金ハ院長又ハ地方裁判所長必要ト  
 認ムル場合ニ於テノミ之ヲ納付セシメラル司法省會檢甲 第三七六號  
 三十六年一月十四日會計處務規程中ヲ改正セラル著シキ變更ナシ司法省會檢 甲第三號  
 同日物品出納順序ニヨル備品消耗品ノ標準ヲ定メ從前ノ備品消耗品價格及ヒ  
 制限ヲ廢セラル司法省會檢甲 第三號第四號  
 同年二月二十三日會計處務規程中ヲ改正セラル著シキ變更ナシ司法省會檢 甲第二八號  
 同年三月三十一日書記及ヒ雇員宿直食料ヲ一夜七錢以内徹夜勤務者食料ヲ一

夜十錢以内延丁給仕宿直食料ヲ一夜五錢以内同徹夜勤務者食料ヲ一夜七錢  
 以内ト改メラル司法省會檢甲 第一一一號

同月二十七日物品出納順序中ヲ改正セラル司法省會檢 甲第八二號  
 同年五月一日會計處務規程中ヲ改正セラル著シキ變更ナシ司法省會檢甲 第一四五號  
 三十七年十月十一日歳入金取扱規定中ヲ改正セラル司法省會檢甲 第二二七號  
 三十八年五月二十三日罰金科料追徴金等ハ國債證券及ヒ利札ヲ以テ代納スル  
 ヲ得シメラル司法省告示 第三三號  
 同年六月二十四日物品出納順序中ヲ改正セラル司法省會檢甲 第一四四號  
 同年七月一日圖書借覽規程ヲ定ム當廳 決議  
 同年十一月一日政府ニ納ムヘキ手数料罰金科料過料刑事追徴金訴訟費用及ヒ  
 非訟事件費用ハ收入印紙ヲ以テ納入スルコトヲ得シメラル勅令第二 二七號  
 三十九年八月二十三日民事ニ關スル出張旅費ノ制限ヲ廢セラル司法省會檢甲 第一〇四號  
 同年十月十五日保管物取扱順序ヲ改正セラル司法省會檢 甲第九六號  
 四十年三月三十日國庫ノ收入金又ハ支拂金ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ之ヲ

切捨ツルコトト定メラル法律第三一號  
四十二年十二月廿六日内國旅費支給手續ヲ定メラル司法省會檢甲第一六七號

### 廳舎

明治十四年六月二十八日廣嶋縣沼田郡廣嶋區字小町五百八十五番地ニ當裁判所新築工事ヲ起ス此地元國泰寺ノ境内ニシテ會テ廣嶋縣廳ノ設アリシカ火災ニ罹リ全部焼失シタルヨリ其趾ヲ廣嶋裁判所用地トナシ更ニ當裁判所用地トシテ之ニ廳舎ヲ造營シタルモノナリ司法一等屬蒲原忠藏等外一等出仕小島嘉平工事ヲ監督シ同年十二月十三日落成ス其構造別紙圖面ノ如シ

敷地千五十五坪五合

建物坪數總計三百十二坪八勺

内瓦葺二階建九十一坪五合

同 平家建百十二坪三合三勺

同 土藏物置門候所人民控所小使詰所厠等百五坪二合五勺厩及ヒ人

### 力車置場三坪

工事費總計二万三千七百五十六圓五十錢

十五年四月十一日刑事認延狹隘ニ付刑事認延ト刑事下調所トヲ合併シテ刑事認延トナシ其榜ニ巡查詰所ヲ設ク

十七年五月二十三日玄關東側ニ昇降口ヲ設ケ靴ヲ穿タサル者ハ此口ヨリ出入セシム

十八年二月二十三日厩一棟ヲ新築ス

同年四月六日馬丁控所ヲ新築ス

二十年一月二十一日巖ニ模様替ヲ爲シタル西側刑事認延其他平家ノ部分ヲ改築シテ二階建トナシ階下ヲ刑事認延ニ階上ヲ會議室ニ充テ又北側ニ建増ヲナシ巡查詰所及ヒ會計課ニ充ツ工費二千八百五圓三十錢ヲ要セリ

二十三年二月十二日東側土藏ニ九坪ノ建増ヲナス

同年六月十三日會計部事務室狹隘ニ付會計部ト應接所并ニ宿直所トノ間ニアル廊下及ヒ紙細工場四坪ヲ會計部事務室ニ合併ス

二十四年二月十二日刑事訟廷ノ北側ニアリシ巡查詰所ヲ書記局受付所ノ隣室ニ移シ其跡ヲ改修シテ刑事合議室ヲ設ケ又第二號民事訟廷ノ半ヲ割キテ一室ヲ設ケ代言人控所ヲ之ニ移シ其跡ニ民事合議室ヲ設ケ

同月二十三日構内北側板塀長三十三間ヲ練塀ニ改築ス

同年四月二十八日第四號應接所ニ書記課受付所ヲ設ケ又代言人控所北隣ノ第二號民事訟廷ヲ修繕シテ之ニ訴訟記録閱覽所ヲ設ケ

二十八年十一月九日當院并ニ廣嶋地方裁判所廣嶋縣廳間ニ電話線ヲ架設シ廣

嶋縣廳廣嶋警察署廣嶋監獄間ノ電話線ニ連絡ス

三十一年七月三日宿直室ヲ會計部室ノ隣室ニ移シ其跡ヲ應接所ト爲ス

同年八月七日構内ニ水道給水管ヲ布設ス

同月三十一日玄關ノ両側及ヒ人民控所ヨリ書記應接所ニ至ル通路ニ屋根ヲ設

ク

三十二年七月十日ヨリ西南隅階上及ヒ階下各室ノ大修繕ヲ行フ

三十三年八月一日二階上リ口階段ノ中部以上ヲ改修シ電話室ノ位置ヲ轉シ檢

事局書記室ヲ擴ム

同年九月二十六日廣嶋電話交換局設置ニ付電話ノ交換ニ加ハル

同年十月十五日廳舎屋根ノ葺替ヲ爲ス

同年十一月二十二日彙ニ當院廣嶋地方裁判所廣嶋縣廳間ニ架設セル電話線ヲ

廢ス

同年十二月二十四日構内ニ梅及ヒ櫻ヲ栽ユ

三十五年一月二十日構内北側ニ非常門ヲ設ケ

同年三月一日宿直室ニ電話ノ呼鈴ヲ備フ

同年六月二日表門ノ扉ヲ鉄製ニ改造ス

同月二十四日辯護士ノ費用ヲ以テ辯護士控所ニ電話機ヲ備付クルコトヲ認可

ス

三十六年九月三十日湯沸所ニ建増ヲ爲ス

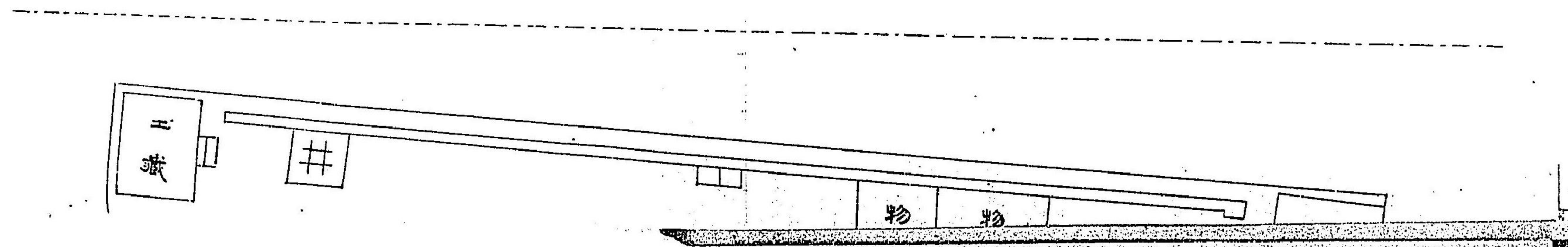
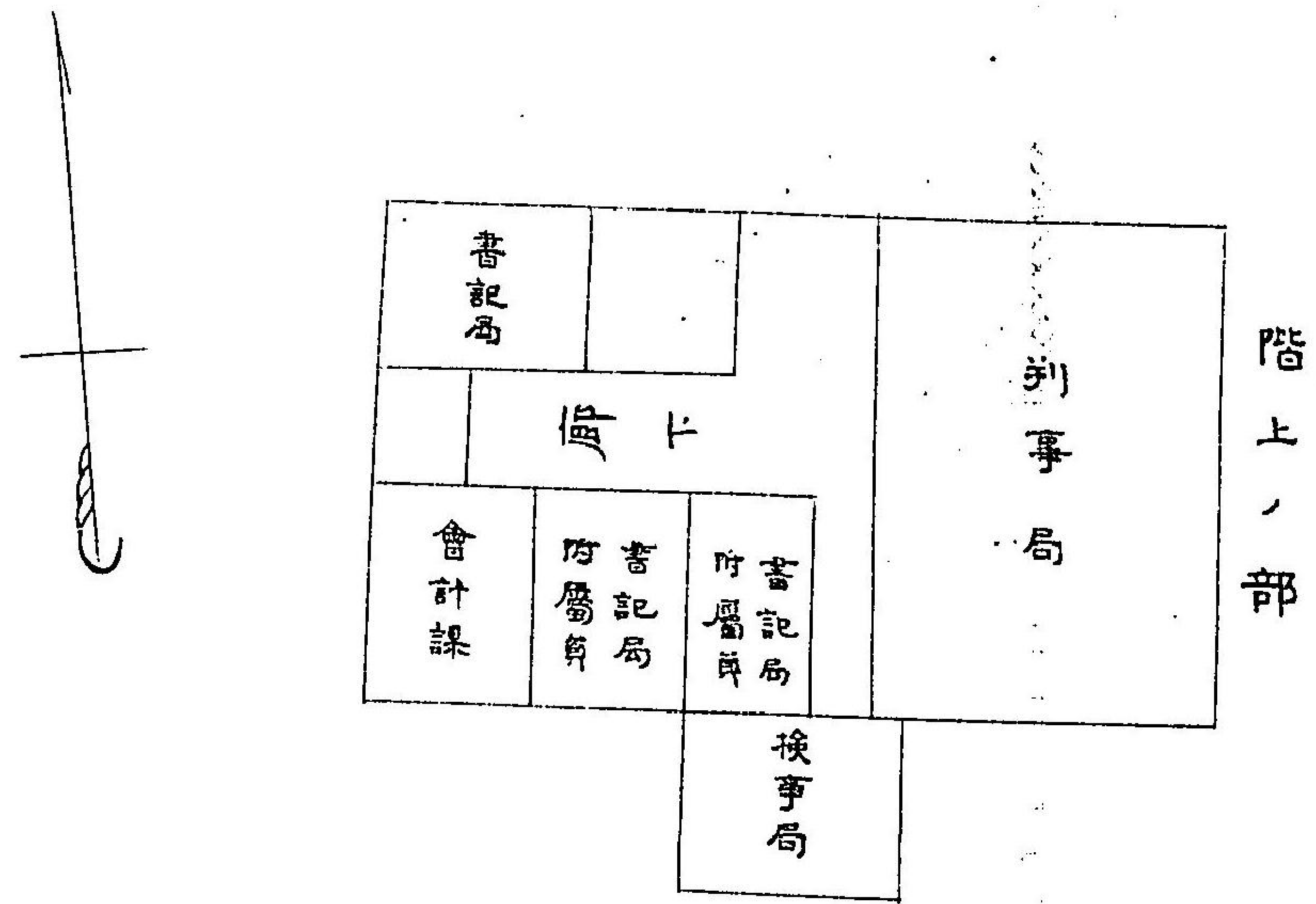
三十八年六月二日午後二時三十分強震アリ壁面龜裂ヲ生ス

同年九月二十一日辯護士控所ト訴訟記録閱覽所トノ隔壁ヲ取除キ之ヲ一室トナス

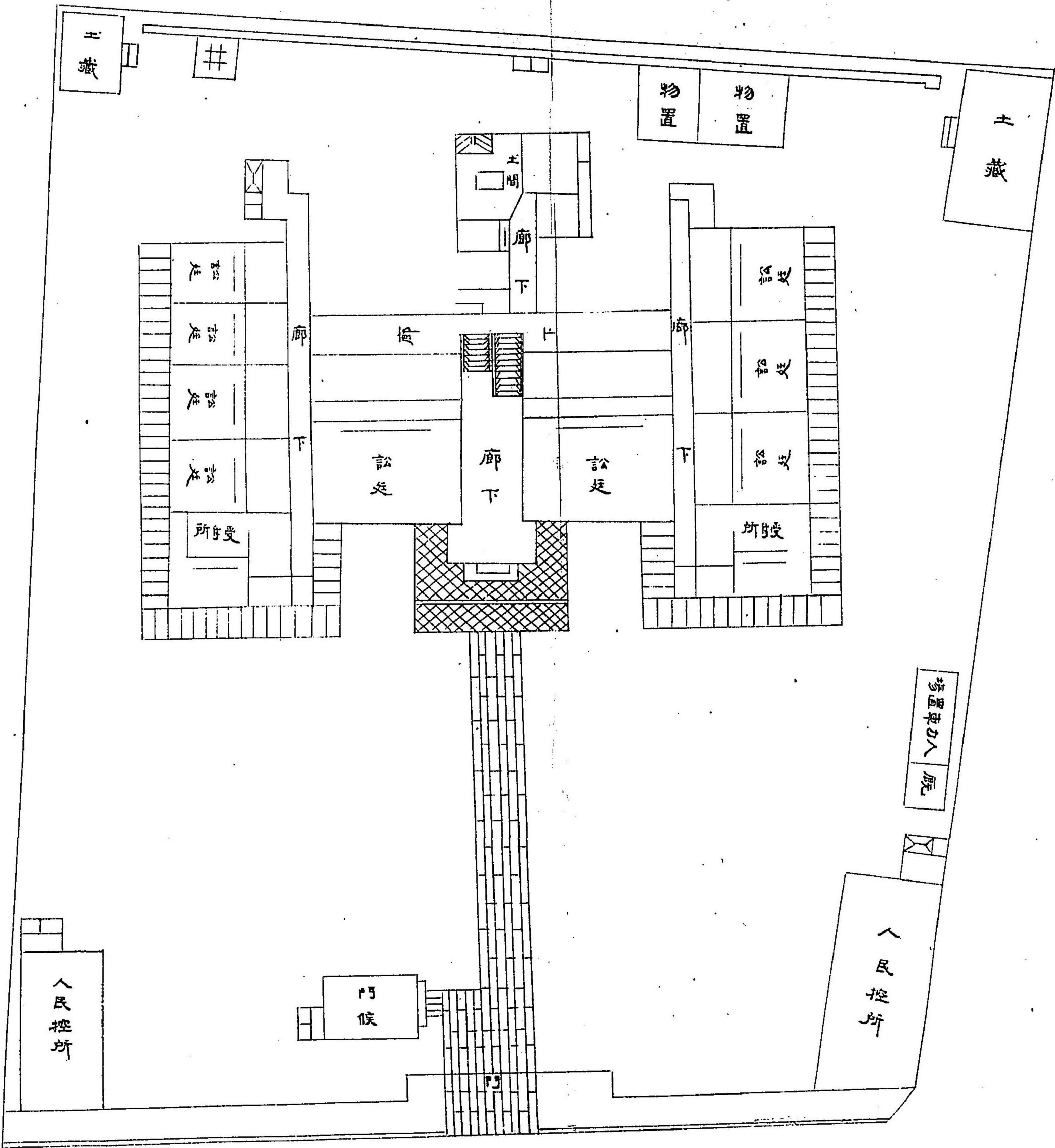
同月二十四日震災ノ爲メ破損シタル壁ノ塗替ヲ爲シ其他破損ノ箇所ニ修繕ヲ加フ

四十二年三月三日第二號詔廷ヲ改修シテ民刑事書記室ヲ之ニ移ス

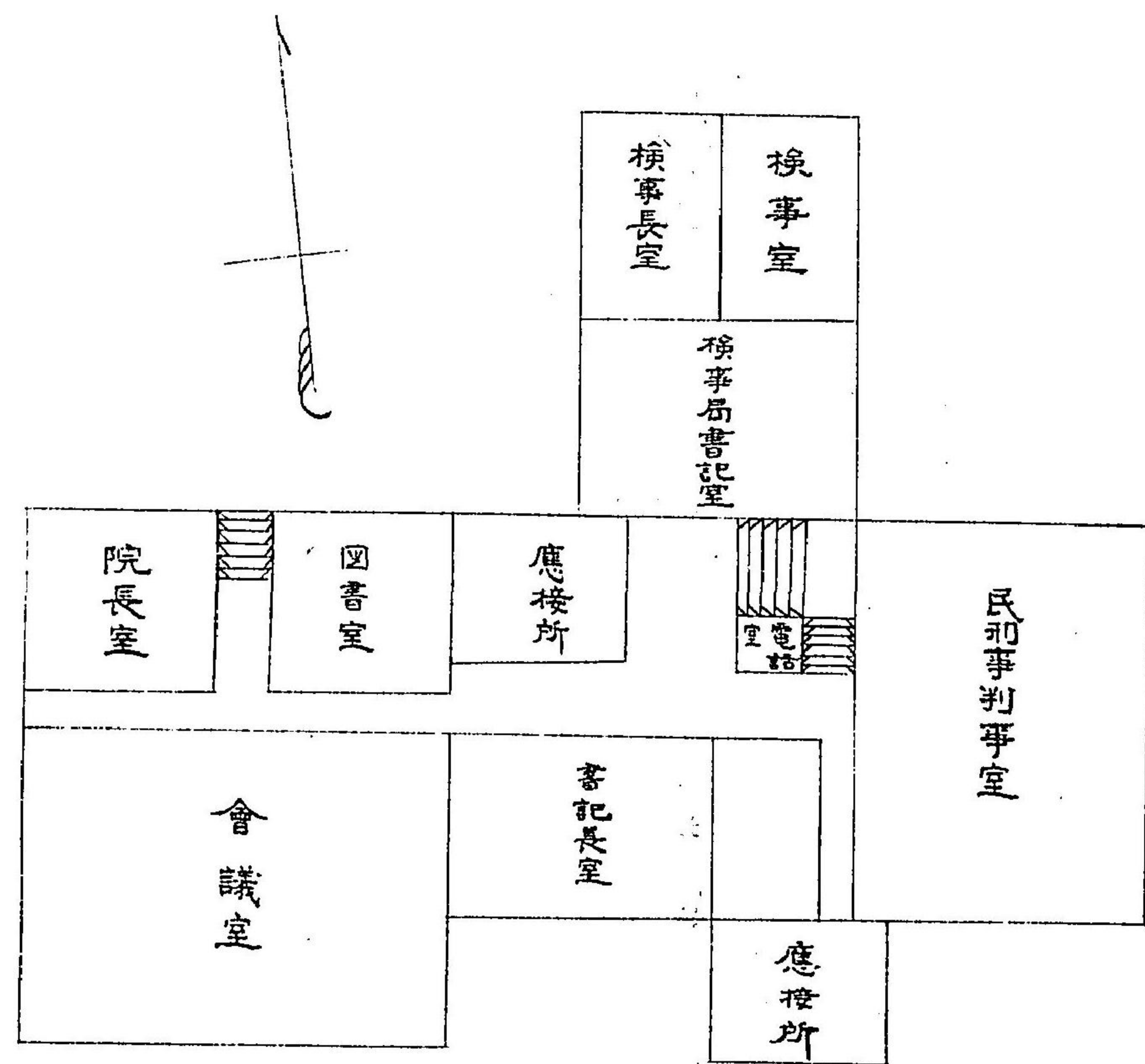
開廳當時廳舍界圖



局

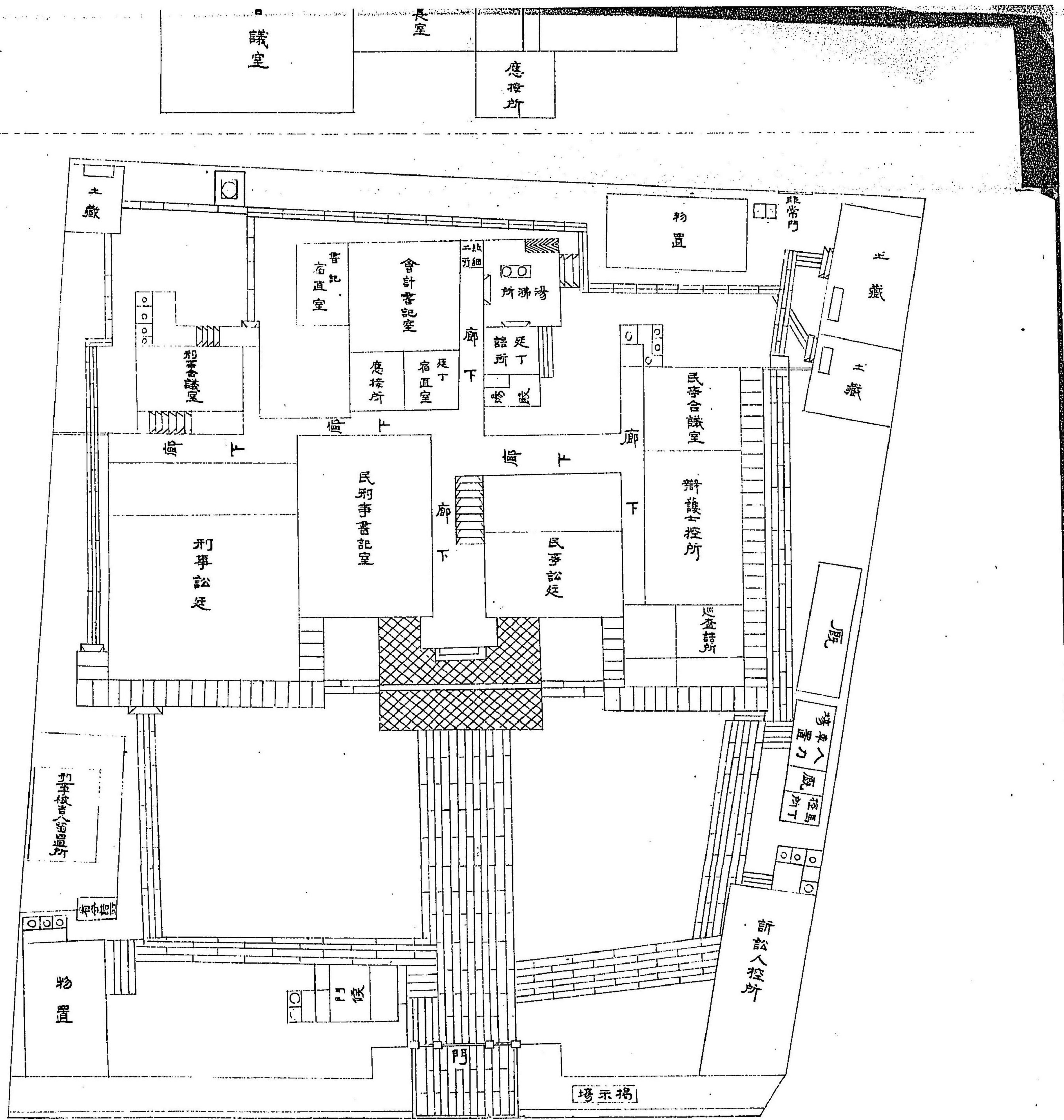


# 現令之廳舍畧圖



階上ノ部





### 官舎

明治二十年三月二十三日廣嶋市轍町及上柳町ノ地所二千八百十七坪二勺ヲ買上ケ官舎敷地ト爲ス代價千二百二十六圓八十八錢建家移轉料千二百三十五圓九十五錢二厘毛上蓋代金八十九圓三十七錢ヲ要セリ

二十三年十一月一日官舎敷地ノ内五百四十八坪三合ヲ廣嶋地方裁判所長官舎敷地トシテ同裁判所ニ貸渡ス

同年十二月一日院長官舎及檢事長官舎新築工事ヲ起シ書記長早田長忠ヲシテ工事ヲ監督セシム越ヘテ二十四年三月三十一日落成ス院長官舎ハ建坪百三十九坪九合三勺建築費三千二百九十五圓檢事長官舎ハ建坪百三十九坪二合一勺建築費三千二百九十五圓七十六錢ヲ要セリ

二十四年六月院長牟田口通照檢事長春木義彰ニ各官舎ヲ貸渡ス  
二十五年九月二十九日檢事長春木義彰官舎ヲ返還ス  
同年十一月七日檢事長奥山政敬ニ官舎ヲ貸渡ス

二十七年一月七日院長牟田口通照官舎ヲ返還ス  
 同年二月一日院長奥山政敬檢事長官舎ヨリ院長官舎ニ移轉ス  
 同月七日檢事長野崎啓造ニ官舎ヲ貸渡ス  
 三十一年七月八日同檢事長官舎ヲ返還ス  
 同月十六日檢事長一瀬勇三郎ニ官舎ヲ貸渡ス  
 同年八月七日院長官舎及檢事長官舎ニ水道給水管ヲ布設ス  
 同年十一月十日院長官舎板塀三十八間八分五厘及檢事長官舎板塀四十六間五  
 尺ヲ各土塀ニ改築ス  
 三十四年六月二十五日院長奥山政敬官舎ヲ返還ス  
 同年七月一日院長一瀬勇三郎檢事長官舎ヨリ院長官舎ニ移轉ス  
 同日檢事長水上長次郎ニ官舎ヲ貸渡ス  
 三十五年九月二十五日同檢事長官舎ヲ返還ス  
 同日檢事長矢野茂ニ官舎ヲ貸渡ス  
 三十六年十一月十九日院長官舎ニ長二十八間五分五厘ノ玉土手ヲ檢事長官舎

ニ長二十二間三分八厘ノ玉土手ヲ設ク  
 三十八年六月二日午後二時三十分強震アリ壁面龜裂ヲ生ス  
 同年九月二十四日震災ノ爲メ破損セシ壁ヲ塗替ヘ其他破損ノ箇所ニ修繕ヲ加  
 フ  
 同年十一月十五日檢事長矢野茂官舎ヲ返還ス  
 同年十二月十三日檢事長川淵龍起ニ官舎ヲ貸渡ス  
 四十一年三月一日院長一瀬勇三郎官舎ヲ返還ス  
 同日院長馬場愿治ニ官舎ヲ貸渡ス

### 試験

明治二十年三月一日公證人登用試験ヲ施行ス及第シタル者十七名評定官木村  
 義路試験委員長同井原師義廣島始審裁判所判事馬渡俊猷試験委員タリ  
 同年十月一日司法省ヨリ試験委員ヲ派シ當院ニ於テ判檢事登用口述試験ヲ行  
 ハル

二十六年六月十五日判檢事登用第二回試験ヲ行フ及第シタル者二名檢事木村  
喬一郎試験委員長判事鶴丈一郎同清水一郎試験委員タリ

同年六月二十日書記登用筆記試験ヲ行フ遠隔ノ地ニ住スル志願者ニ對シテハ  
試験問題ヲ山口、松江、鳥取ノ三地方裁判所ニ送付シ同應ニ於テ試験ヲ受ケシ  
ム同二十九日口述試験ヲ行フ及第シタルモノ三十七名判事鶴丈一郎試験委  
員長判事錦織義弘廣嶋地方裁判所檢事松田協輔試験委員タリ

同月二十九日判檢事登用第二回試験ヲ行フ及第シタルモノ一名試験委員前ニ  
同シ

同年九月十二日ヨリ同十四日マテ辯護士筆記試験ヲ行フ受験者二十四名  
二十七年九月二十五日ヨリ同二十七日マテ辯護士筆記試験ヲ行フ受験者二十  
二名

二十八年十月十四日ヨリ同十六日マテ辯護士筆記試験ヲ行フ受験者二十二名  
二十九年二月二十四日判檢事登用第二回試験ヲ行フ及第シタル者十名院長奧  
山政敬試験委員長判事清水一郎同伊藤景直同山口武洪檢事奥野毅試験委員

タリ

同年九月二十九日ヨリ十月一日マテ辯護士筆記試験ヲ行フ受験者十七名

同年十月一日判檢事登用第二回試験ヲ行フ及第シタル者五名檢事長野崎啓造  
試験委員長判事清水一郎同伊藤景直同安井重三檢事松田協輔試験委員タリ

同月二十八日書記登用試験ヲ行フ及第シタル者五十五名判事清水一郎試験委  
員長同伊藤景直檢事松田協輔試験委員タリ

三十年八月八日判檢事登用第二回試験ヲ行フ及第シタル者二名院長奧山政敬  
試験委員長判事清水一郎同伊藤景直同安井重三檢事松田協輔試験委員タリ

同年十月十一日ヨリ同十五日マテ辯護士筆記試験ヲ行フ受験者八名  
同月二十七日書記登用試験ヲ行フ及第シタル者四十七名判事清水一郎試験委

員長判事安井重三檢事松田協輔試験委員タリ  
三十一年一月二十五日判檢事登用第二回試験ヲ行フ及第シタル者一名院長奧

山政敬試験委員長判事清水一郎同高洲速太同安井重三檢事妹澤政雄試験委  
員タリ

試験

同年六月十七日書記登用試験ヲ行フ及第シタル者三十八名判事清水一郎試験  
 委員長判事佐藤信檢事妹澤政雄試験委員タリ  
 同月二十日判檢事登用第二回試験ヲ行フ及第シタル者一名試験委員前ニ同シ  
 同年十月三日ヨリ同六日マテ辯護士筆記試験ヲ行フ受験者六名  
 三十二年四月二十五日公證人登用試験ヲ行フ及第シタル者九名判事高洲速太  
 試験委員長同山香二郎吉檢事佐藤春樹試験委員タリ  
 同年七月四日判檢事登用第二回試験ヲ行フ及第シタル者六名院長奥山政敬試  
 驗委員長檢事立木頼三判事高洲速太同百瀬武策同佐藤信試驗委員タリ  
 同年十月五日ヨリ同十日マテ當院ニ於テ辯護士筆記試験ヲ行フ受験者七名  
 三十三年七月六日判檢事登用第二回試験ヲ行フ及第シタル者八名院長奥山政  
 敬試験委員長判事高洲速太同百瀬武策同佐藤信檢事兼重次郎試験委員タリ  
 同年九月二十七日ヨリ十月二日マテ辯護士筆記試験ヲ行フ受験者八名  
 三十四年七月五日判檢事登用第二回試験ヲ行フ及第シタル者八名院長一瀬勇  
 三郎試験委員長判事高洲速太檢事黒川稔判事百瀬武策同玉置琢試驗委員タ

リ

同年十月十日ヨリ同十五日迄辯護士筆記試験ヲ行フ受験者十二名  
 三十五年六月二十八日判檢事登用第二回試験ヲ行フ及第シタルモ、七名院長  
 一瀬勇三郎試験委員長判事高洲速太檢事黒川稔判事玉置琢同佐藤信試験委  
 員タリ

同年九月二十二日ヨリ同二十七日マテ辯護士筆記試験ヲ行フ受験者十七名(明

三十八年司法省令第二十號ニ依リ控訴院ニ於テ辯護士筆記試験ヲ行フコトヲ廢セラレ

三十六年六月二十九日判檢事登用第二回試験ヲ行フ及第シタル者五名院長一  
 瀬勇三郎試験委員長判事高洲速太同玉置琢同佐藤信檢事三濱長一郎試験委  
 員タリ

三十七年二月二十日判檢事登用第二回試験ヲ行フ及第シタル者一名院長一瀬  
 勇三郎試験委員長判事高洲速太檢事黒川稔判事玉置琢同佐藤信試験委員タ

リ(明治三十八年司法省令第三號ニ依リ控訴院ニ於テ判檢事登用第二回試験ヲ行フコトヲ廢セラレ)

懲戒裁判所

明治二十五年三月十八日當院判事侯爵中御門經明ヲ職務上ノ威信ヲ損シタル科ニ因リ二月ノ罰俸ニ處ス

同年五月十八日西郷區裁判所判事兼松江地方裁判所判事渡邊輝彌ニ對スル懲戒事件ヲ審判シ免訴ヲ言渡ス

二十九年五月二十九日廣嶋地方裁判所所屬辯護士岩本寅治ニ對スル辯護士會則違反事件ヲ審判シ除名ニ處ス

同年十月三十一日廣嶋地方裁判所所屬辯護士天野確郎ニ對スル辯護士會則違反事件ヲ審判シ免訴ヲ言渡ス

三十一年七月一日廣嶋區裁判所監督判事村敬直ヲ職務懈怠ノ科ニ因リ一ヶ月間年俸月額十分ノ一ノ減俸ニ處ス

同年十月二十六日松江地方裁判所所屬辯護士柳川小太郎ヲ辯護士會則違反ノ科ニ因リ除名ニ處ス

三十二年二月十一日廣嶋地方裁判所所屬辯護士富島豐太郎ヲ辯護士會則違反ノ科ニ因リ七十圓ノ過料ニ處ス

三十四年四月二十日廣嶋地方裁判所所屬辯護士三坂繁人ヲ辯護士會則違反ノ科ニ因リ譴責ニ處ス

同年十一月二十八日廣嶋地方裁判所所屬辯護士高田似壠同森田卓爾同田上諸藏ヲ辯護士會則違反ノ科ニ因リ各譴責ニ處ス

三十五年一月二十二日山口地方裁判所所屬辯護士千々松安太郎ヲ辯護士會則違反ノ科ニ因リ三月ノ停職ニ處ス

三十六年二月十日松江地方裁判所所屬辯護士津村一郎ノ辯護士會則違反事件ヲ審判シ免訴ヲ言渡ス

同年十月九日廣嶋地方裁判所所屬辯護士宮原每太郎ヲ辯護士會則違反ノ科ニ因リ十五圓ノ過料ニ處ス

同月十六日同裁判所所屬辯護士河端守綱ヲ同上ノ科ニ因リ三十圓ノ過料ニ處ス

同月二十日松江地方裁判所所屬辯護士柳川小太郎ヲ辯護士會則違反ノ科ニ因  
 リ三月ノ停職ニ處ス(明治三十一年十月二十六日除名ニ處セラレタレトモ控訴ノ  
 結果六月ノ停職ニ輕減セラレ再此處分ヲ受ケタモルノナリ)  
 同年十二月二十四日山口地方裁判所所屬辯護士水津千雄ヲ辯護士會則違反ノ  
 科ニ因リ二十圓ノ過料ニ處ス  
 三十七年一月二十六日松江地方裁判所所屬辯護士柳川小太郎ヲ辯護士會則違  
 反ノ科ニ因リ除名ニ處ス  
 同年六月十八日廣嶋地方裁判所所屬辯護士福本則行ヲ辯護士會則違反ノ科ニ  
 因リ二十圓ノ過料ニ處ス  
 同月二十日同裁判所所屬辯護士小川巖三ヲ辯護士會則違反ノ科ニ因リ二十五  
 圓ノ過料ニ處ス  
 同年十二月二十六日同裁判所所屬辯護士不破熊男ヲ辯護士會則違反ノ科ニ因  
 リ十五圓ノ過料ニ處ス  
 三十八年五月十三日山口地方裁判所所屬辯護士水津千雄ヲ辯護士會則違反ノ  
 科ニ因リ二月ノ停職ニ處ス

三十九年三月五日岡山地方裁判所所屬辯護士出口辰之助ヲ辯護士會則違反ノ  
 科ニ因リ二月ノ停職ニ處ス  
 同年七月二十六日廣嶋地方裁判所所屬辯護士平本希一郎ヲ辯護士會則違反ノ  
 科ニ因リ十圓ノ過料ニ處ス  
 同年九月二十五日廣嶋地方裁判所所屬辯護士湯川慎三郎ヲ辯護士會則違反ノ  
 科ニ因リ三十圓ノ過料ニ處ス  
 四十年二月二十二日西條區裁判所監督判事東條爲ヲ職務懈怠ノ科ニ因リ譴責  
 ニ處ス

### 文官普通懲戒委員會

明治三十二年六月十二日院長奥山政敬文官普通懲戒委員長ヲ判事高洲速太同  
 百瀬武策檢事立木頼三書記長河原知亮同委員ヲ命セラル  
 同年九月十二日山口地方裁判所亦間關支部書記山縣秀之ノ職務ヲ怠リタル件  
 ニ付懲戒委員會ヲ開キ譴責ニ付スヘキモノト議決ス

三十五年五月五日院長一瀬勇三郎文官普通懲戒委員長ヲ檢事黒川穰判事玉置  
 琢同委員ヲ命セラレ  
 四十一年八月十五日院長馬場愿治文官普通懲戒委員長ヲ判事藤田重守判事山  
 香二郎吉檢事小川正治同委員ヲ命セラレ

執達吏及ヒ公證人ニ關スル事項

執達吏

明治二十三年二月八日裁判所構成法中ニ左ノ如ク規定セラレ  
 區裁判所ニ執達吏ヲ置キ法律ノ定ムル所ニ依リ各裁判所ノ文書ノ送達及  
 ヒ裁判ノ執行ヲ掌ラシム  
 執達吏ノ任補ハ司法大臣之ヲ行フ但シ控訴院長ニ其管内執達吏ノ任補ヲ  
 委任スルコトヲ得  
 同年七月二十四日執達吏規則中ニ左ノ如ク規定セラレ法律第  
五一號

執達吏ハ所屬區裁判所所在地ニ役場ヲ設クヘシ  
 執達吏ハ手數料及ヒ立替金ノ辨濟ヲ受ク  
 執達吏ハ一定ノ制服ヲ着スヘシ  
 執達吏ハ管轄地方裁判所ニ保證金ヲ納ムヘシ  
 保證金額ハ土地ノ情況ニ依リ控訴院長之ヲ定ム  
 執達吏ハ此規則ニ依ルノ外總テ一般官吏ノ例ニ依ル  
 同日執達吏手數料規則ヲ公布セラレ法律第  
五二號  
 同年八月一日執達吏登用規則ヲ定メラル其要項左ノ如シ司法省令  
第二號  
 執達吏登用試験ハ毎年一回地方裁判所ニ於テ之ヲ行フ試験ヲ受ケントス  
 ルモノハ控訴院長ノ許可ヲ得テ六箇月以上區裁判所ニ於テ職務ヲ修習シ  
 願書ヲ控訴院長ニ差出スヘシ  
 官立府縣立中學校ヲ卒業シタル者其他特定ノ資格ヲ有スル者ハ試験ヲ要  
 セスシテ執達吏ニ任セララルコトヲ得但シ區裁判所書記ノ職ニ在リ又ハ  
 在リタル者ヲ除ク外職務修習ヲ爲スヲ要ス



執達吏ノ任補ハ控訴院長之ヲ攝行ス

同年九月二十九日管内執達吏ノ保證金額ヲ定ム當廳訓令

同年十月二十日執達手續修習ノ爲メ各地方裁判所管内ヨリ區裁判所書記執達

吏各一名ヲ選ヒ同年十一月十五日ヲ期シテ上京セシメラル司法省職甲第六四〇號

同年十月二十二日執達吏ノ服制ヲ定メラル勅令第二〇六號

二十六年六月二十五日執達吏監督手續ヲ定ム當廳訓令

同年七月十四日執達吏監督手續中執達吏代理者ノ服制ヲ改正ス當廳訓令

三十八年五月十九日執達吏監督手續ヲ改正シ職務取扱ノ發達統一及ヒ矯正ヲ

圖ル爲メ地方裁判所管内毎ニ執達吏會ヲ設ケ之カ會則ヲ定メシム當廳訓令

四十一年六月十七日執達吏懲戒令ヲ定メラル其要項左ノ如シ勅令第一五三號

懲戒ヲ分チテ免職一年以下ノ停職譴責ノ三種トシ司法大臣之ヲ行フ但シ

免職及ヒ停職ハ文官普通懲戒委員會ノ議決ヲ經テ之ヲ行フ

右ノ外文官懲戒令中判任官ニ關スル規定ヲ準用ス

### 公證人

明治十九年八月十一日公證人規則ヲ公布セラル其要項左ノ如シ法律第二號

公證人ハ人民ノ囑託ニ應シ民事ニ關スル公正證書ヲ作ルヲ以テ職務トス

公證人ハ治安裁判所ノ管轄地ヲ以テ受持區トス

公證人ハ司法大臣之ヲ任シ控訴院長始審裁判所長ヲシテ之ヲ監督セシム

公證人ニ任セラルルニハ試験ニ及第スルヲ要ス但シ裁判官檢察官タリシ

者法科大學ヲ卒業シタル者及ヒ代言人ハ此限ニアラス

試験委員ハ控訴院若クハ始審裁判所ノ裁判官二名檢察官一名ヲ以テ之ニ

充ツ

公證人ハ手数料及ヒ旅費日當ヲ受ク

公證人此規則ニ違反シタルトキハ過料ニ處ス

同月三十日公證人規則施行條例ヲ定メラル其要項左ノ如シ司法省令甲第二號

達執吏及ヒ公證人ニ關スル事項 公證人

公證人ハ一受持區ニ五名以下ヲ置ク  
公證人ノ試験ヲ受ケントスル者ハ試験ヲ行フヘキ控訴院若クハ始審裁判  
所ニ願書ヲ差出スヘシ

試験ヲ行ヒタル控訴院若クハ始審裁判所ハ試験及第者人名簿ヲ製シ及第  
者ノ住所族籍氏名及第ノ年月日等ヲ登録スヘシ

公證人タラントスル者ハ願書ヲ控訴院若クハ始審裁判所ニ差出スヘシ  
同年十一月九日公證人ノ職務執行ニ關スル抗告手續ヲ定メラル司法省令  
甲第三號

二十五年一月二十五日公證人施行條例中ヲ改正シ公證人ハ一受持區ニ五名ノ  
外土地ノ情況ニ因リ更ニ五名以下ヲ増置スルコトアルヘシト定メラル司法省  
令第二  
號

二十八年四月二十五日公證人監督手續ヲ定ム當廳  
訓令

二十九年十二月二十五日公證人規則施行條例中ヲ改正シ公證人ハ各區裁判所  
管内二十名以下ヲ置クト定メラル(東京大阪ハ例外タリ後京都神戸ヲモ除外  
セラル)

三十三年六月二十五日公證人監督手續ヲ改正シ且職務ノ發達統一及ヒ矯正ヲ

圖ル爲メ地方裁判所管内毎ニ公證人會ヲ設ケ之カ會則ヲ定メシメ尙控訴院  
管内又ハ二以上地方裁判所管内公證人會ヲ設クルコトヲ得シム當廳  
訓令

三十八年九月二十一日公證人規則ニ明記セサル手数料ニ付一定ノ標準ヲ定ム  
當廳  
訓令

四十一年四月十三日公證人法ヲ公布シ公證人規則ヲ廢セラル新設ノ事項中著  
シキモノ左ノ如シ法律第  
五三號

公證人ハ地方裁判所ノ所屬トシ地方裁判所長ノ監督ヲ受ク其員數ハ區裁  
判所ノ管轄區域毎ニ司法大臣之ヲ定ム

司法大臣及ヒ控訴院長ハ司法行政ニ關スル規定ニ依リ公證人ヲ監督ス  
公證人ニ任セラルルニハ一定ノ試験ニ合格シタル後六ヶ月以上公證人見

習トシテ實地修習ヲ爲スヲ要ス但シ判事檢事又ハ辯護士タル資格ヲ有ス  
ル者ハ試験及ヒ實地修習ヲ經スシテ公證人ニ任セラルルコトヲ得

公證人身体又ハ精神ノ衰弱ニ因リ其職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタル

トキハ司法大臣ハ公證人ヲ免スルコトヲ得但シ控訴院ニ於ケル懲戒委員  
 會ノ議決ヲ經ルヲ要ス  
 囑託人又ハ利害關係人ハ公證人ノ事務取扱ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得抗  
 告ハ監督權ニ依リ之ヲ處分ス  
 公證人職務上ノ義務ニ違背シタルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ行為アリタ  
 ルトキハ懲戒ヲ受ク  
 懲戒ヲ分チテ譴責千圓以下ノ過料一年以下ノ停職轉屬免職ノ五種トシ司  
 法大臣之ヲ行フ但シ譴責ヲ除ク外懲戒委員會ノ議決ヲ經テ之ヲ行フ  
 懲戒委員會ハ之ヲ控訴院ニ置ク  
 懲戒委員會ニ關スル規定竝ニ本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム本法  
 施行ノ際公證人タルモノハ別ニ辭令ヲ用ヒス本法ニ定メタル公證人トス

明治四十二年三月三日印刷  
 明治四十二年三月八日發行

廣嶋控訴院書記課編纂

印刷者

廣島市大手町四丁目六番地

金 行 秀

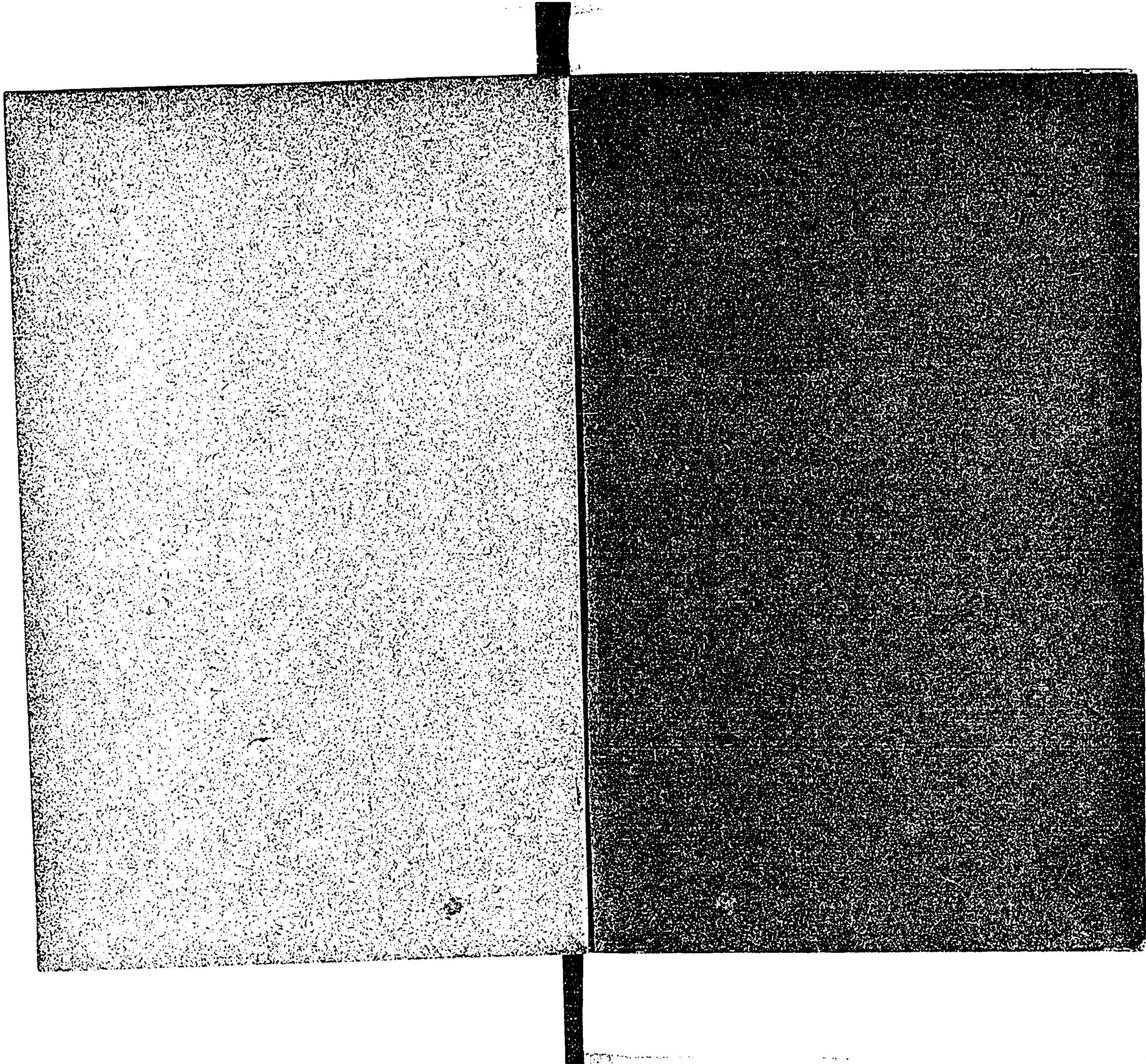
聽

印刷所

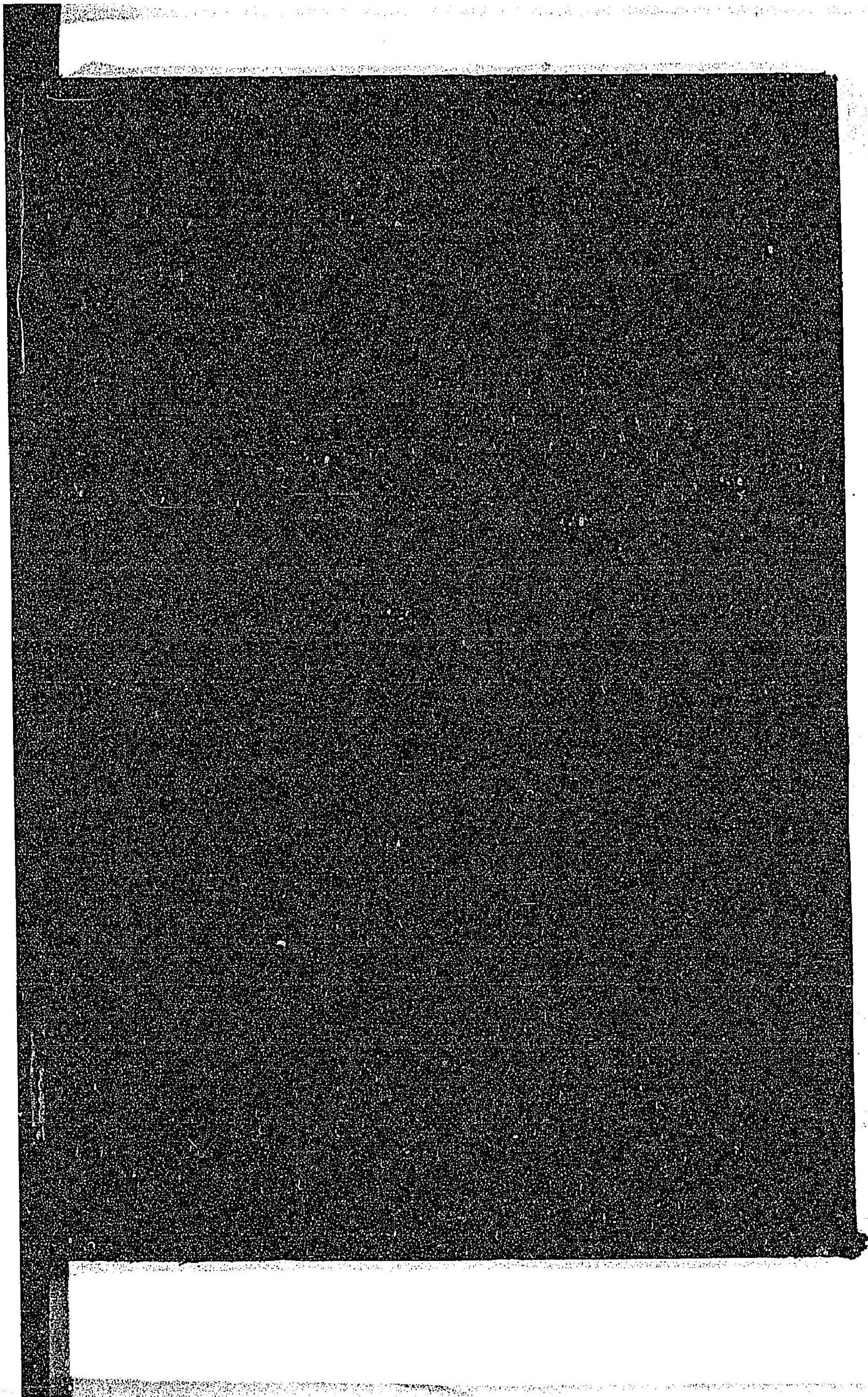
廣島市大手町四丁目六番地

金 行 商 店 印 刷 部

72  
399



72  
1  
399



399

036500-000-9

92-399

広島控訴院沿革略誌

広島控訴院

M42

BBR-0229





